CLS-Class

取扱説明書

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/hを超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを（▷250 ページ）のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に ▶ を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i メルセデス·ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

表記と記載内容について

マーク	内容
	警告 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
	環境 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。

事故のおそれがあります

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルははがさないでください。

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

B

E

N

P

S

V

数字

環境保護について

ダイムラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費を抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環 境

ダイムラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。固定できていないと急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 後席ヘッドレストの後方のスペースに荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも、高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷42 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置に触れるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席の左右いずれかに装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。

- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロック（▷46 ページ）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフ * の開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフ * の開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてお読みください（▷105 ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが **P**、**N** 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが **P** に入っていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D、R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。

データを使用して、車両の過去の移動経路を調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」を参照してください。

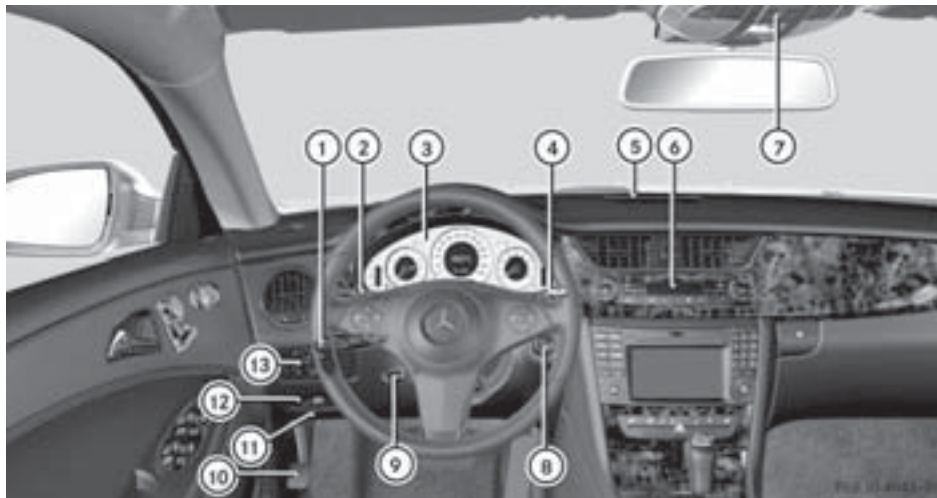
外観

	名称	ページ
①	トランク 応急用スペアタイヤ 車載工具 バッテリー	67 252 250 305 323
②	ヘッドランプ テールランプ	90 287
③	リアデフォッガー	191
④	燃料給油口	213
⑤	スライディングルーフ *	195
⑥	ドアミラー	82
⑦	ワイパー	99
⑧	ボンネット エンジンオイル ブレーキ液	215 219 321 224 322

	名称	ページ
⑧	ウォッシャー液 冷却水	225 323 221 322
⑨	けん引フック （フロント）	311
⑩	タイヤとホイール	226 324
⑪	けん引フック（リア）	311

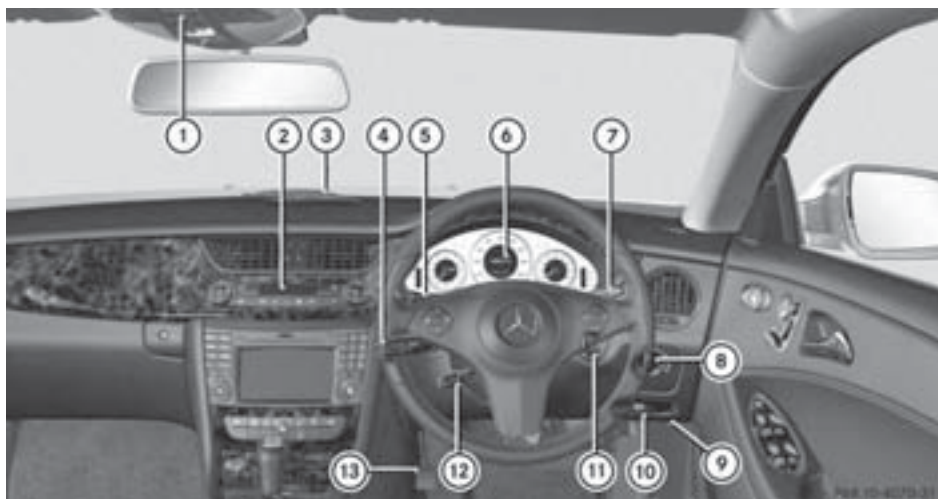
* オプションや仕様により、異なる装備です。

インストルメントパネル

左ハンドル車

	名称	ページ
①	コンビネーションスイッチ （ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー）	92 93 99
②	クルーズコントロールレバー / ディストロニック * レバー / 可変スピードリミッターレバー	156 160 168
③	メーターパネル	118
④	音声認識レバー	別冊
⑤	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	177
⑥	エアコンディショナーコントロールパネル	182
⑦	前席上方の操作部	29

	名称	ページ
⑧	エンジンスイッチ	72
⑨	ステアリング調整レバー	80
⑩	パーキングブレーキペダル	108
⑪	ボンネットロック解除レバー	215
⑫	パーキングブレーキ解除ハンドル	108
⑬	ランプスイッチ	90

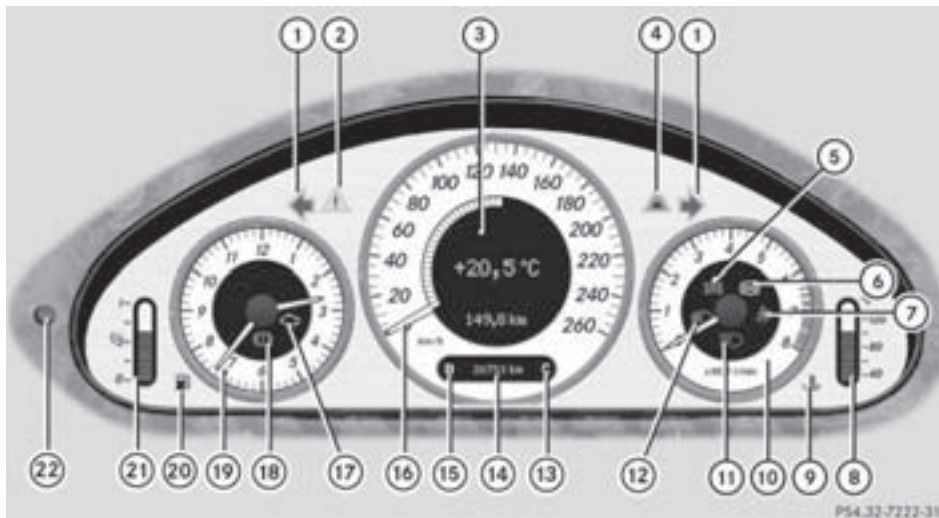
＊ オプションや仕様により、異なる装備です。

右ハンドル車

	名称	ページ
①	前席上方の操作部	29
②	エアコンディショナーコントロールパネル	182
③	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	177
④	コンビネーションスイッチ (ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー)	92 93 99
⑤	クルーズコントロールレバー / ディストロニック * レバー / 可変スピードリミッターレバー	156 160 168
⑥	メーターパネル	118
⑦	音声認識レバー	別冊
⑧	ランプスイッチ	90

	名称	ページ
⑨	ボンネットロック解除レバー	215
⑩	パーキングブレーキ解除ハンドル	108
⑪	エンジンスイッチ	72
⑫	ステアリング調整レバー	80
⑬	パーキングブレーキペダル	108

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

	名称	ページ
①	方向指示表示灯	93
②	ESP 表示灯	51
③	マルチファンクションディスプレイ	121
④	車間距離警告灯 *	165
⑤	SRS 警告灯	34
⑥	ABS 警告灯	266
⑦	シートベルト警告灯	33
⑧	冷却水温度計	118
⑨	冷却水警告灯	119
⑩	タコメーター	120
⑪	ハイビーム表示灯	93
⑫	ヘッドランプ表示灯	90
⑬	走行モード表示	111

	名称	ページ
⑭	オドメーター	118
⑮	シフト位置表示 ギアレンジ表示 ギア表示 *	111 112 115
⑯	スピードメーター	119
⑰	エンジン警告灯	269
⑱	ブレーキ警告灯	267
⑲	時計	119
⑳	燃料残量警告灯	119
㉑	燃料計	119
㉒	メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン	118

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	121
②	+ −	
	設定スイッチ / 音量スイッチ	121
	通話開始スイッチ / 通話終了スイッチ	121
③	表示切り替えスイッチ	121
	▲ ▼	
	スクロールスイッチ	121
④	COMAND システム	別冊

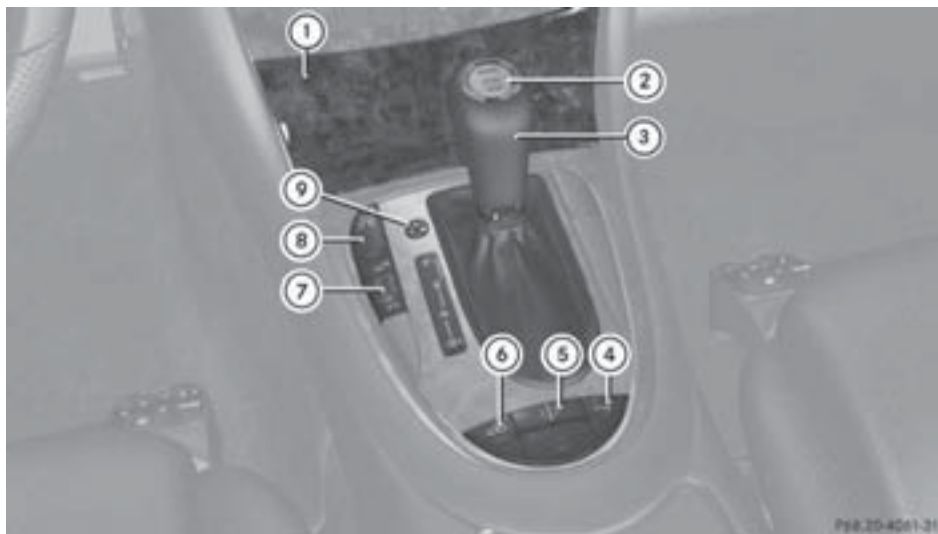
センターコンソール

センターコンソール上部

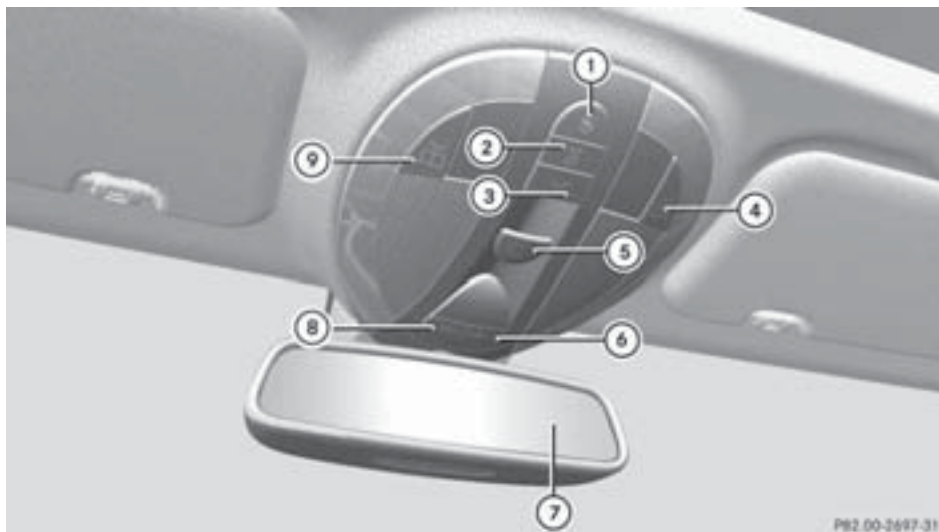
	名称	ページ
①	シートヒータースイッチ（左側フロントシート）	78
②	電動ブラインドスイッチ	207
③	リアヘッドレスト格納スイッチ	75
④	非常点滅灯スイッチ	94
⑤	助手席エアバッグオフ表示灯	44
⑥	ドアロックスイッチ（解錠）	66
⑦	盗難防止警報システム表示灯	54
⑧	ESP オフスイッチ	53
⑨	シートヒータースイッチ（右側フロントシート）	78
⑩	ドアロックスイッチ（施錠）	66

⚠ けがのおそれがあります

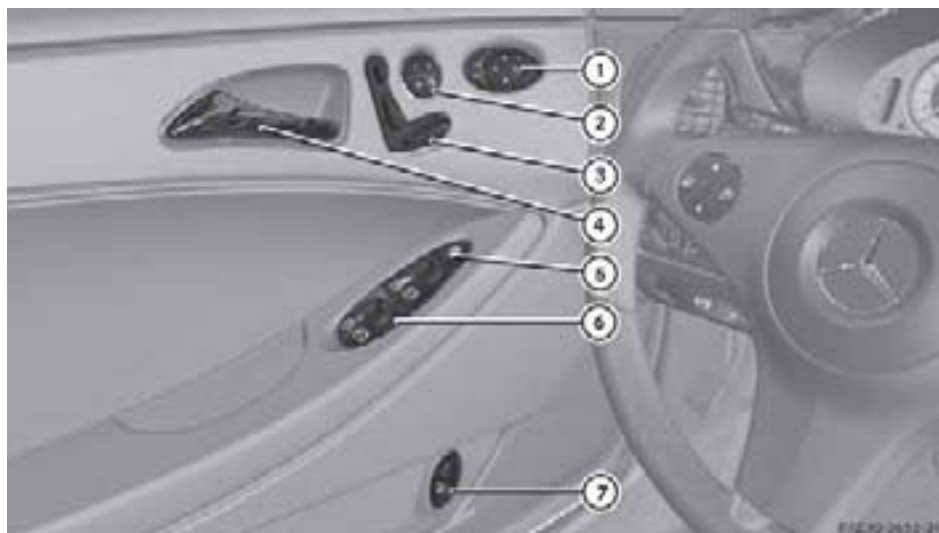
チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯⑤が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。詳しくは（▷44 ページ）をご覧ください。

センターコンソール下部

	名称	ページ
①	灰皿 ライター	207 208
②	キーレスゴースイッチ	71
③	セレクターレバー	110
④	パークトロニックオフスイッチ	180
⑤	サスペンションモード選択スイッチ *	174
⑥	車高調整スイッチ *	175
⑦	車間距離調整ダイヤル *	164
⑧	車間距離警告音スイッチ *	165
⑨	走行モード選択スイッチ	111

* オプションや仕様により、異なる装備です。

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	リアルームランプスイッチ	95
②	点灯モード選択スイッチ	95
③	フロントルームランプ	95
④	読書灯スイッチ（右側）	95
⑤	スライディングルーフスイッチ *	196
⑥	室内センサー解除スイッチ	56
⑦	ルームミラー	81
⑧	けん引防止警報解除スイッチ	55
⑨	読書灯スイッチ（左側）	95

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアトリム操作部

運転席ドア（左ハンドル車）

	名称	ページ
①	ドアミラー格納 / 展開スイッチ	82
	ドアミラー選択スイッチ	82
	ドアミラー調整スイッチ	82
②	メモリースイッチ	84
	ポジションスイッチ	84
③	シート調整スイッチ	74
④	ドアレバー	64
⑤	チャイルドプルーフロックスイッチ	47
⑥	ドアウインドウスイッチ	102
⑦	トランクスイッチ	69

乗員安全装備

乗員保護装置

事故が発生したときの衝撃により、車は急激に加速または減速するおそれがあります。

そのとき、乗員は車内に身体を激しくぶつけたり、車外に放出されて、けがをするおそれがあります。

ただし、シートベルトを中心に、シートベルトテンショナーやベルトフォースリミッター、エアバッグなどで構成される乗員保護装置によって、負傷する可能性を最小限にでき、また、万一負傷したときにも、けがの程度を最小限にとどめることができます。

⚠ けがのおそれがあります

乗員保護装置を取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。また、車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

誤作動でけがをしたり、事故などのとき、正常に作動しなくなるおそれがあります。

エアバッグの効果について

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。

⚠ けがのおそれがあります

エアバッグはシートベルトの効果を補助する装置であり、シートベルトの代わりになるものではありません。必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用し、シートのバックレストをできるだけ垂直の位置にして乗車してください。

ⓘ シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

ⓘ エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。また、乗員が正しくシートベルトを着用している場合、状況によってはエアバッグによる補助的な保護を必要としないことがあります。

シートベルト

シートベルトとチャイルドセーフティシート（▷42 ページ）は、車内に身体を激しくぶつけたり、車外に放出される危険から乗員を守ります。

シートベルトとチャイルドセーフティシートは、衝突時における最も重要で効果的な乗員保護装置です。

シートベルトについて、詳しくは（▷86 ページ）をご覧ください。

! 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。

けがのおそれがあります

- 乗車するときは、すべての乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
- シートベルトを着用していなかったり、シートベルトのプレートが確実にバックルに差し込まれていないと、事故などのとき致命的なけがをするおそれがあります。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトやバックルが汚れていたり損傷していると、シートベルトの保護機能が正しく発揮されません。

  シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。

  ◇ ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない

  ◇ たばこの火など、熱いものを近付けない

  ◇ バックル部分に異物を入れない

  ◇ 分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。

シートベルト警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずに、イグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。

ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

ⓘ 助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター
- エアバッグ

SRS SRS 警告灯

イグニッション位置を **1** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ けがのおそれがあります

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジンを始動してから数秒後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- 走行中などに SRS 警告灯が点灯したとき

シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに前方から一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ℹ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された衝撃の強さや方向などに基づいて作動します。

ℹ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、イグニッション位置が **2** で、以下のときに作動します。

- SRS に異常がないとき
- フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき
- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の前後方向に急激に強い衝撃が加わったとき

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

! シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

ⓘ シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

ⓘ シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

ⓘ シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

エアバッグ

けがのおそれがあります

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。サイドバッグやウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

けがのおそれがあります

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- フロントシートのバックレスト側面
- リアドアの内張り部

エアバッグの作動

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。

これにより、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

⚠ けがのおそれがあります

- 関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

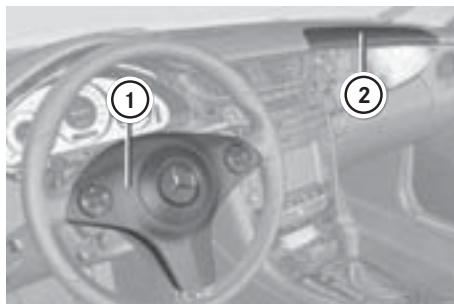
! エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。

! エアバッグの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

i エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
フロントサイドバッグ	フロントシートのバックレスト側面
リアサイドバッグ	左右のリアドア内張り部
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

運転席 / 助手席エアバッグ

左ハンドル車
① 運転席エアバッグ
② 助手席エアバッグ

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席 / 助手席エアバッグは、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、前方から一定以上の衝撃を検知したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき
- 車両の横転などにより、前後方向から一定以上の衝撃を検知したとき

ⓘ 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

サイドバッグ

③ フロントサイドバッグ
④ リアサイドバッグ

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグが作動し、胸部への衝撃を分散･軽減します。

サイドバッグは、運転席 / 助手席エアバッグやシートベルトテンショナーの作動、シートベルトの着用に関わらず、衝突の最初の段階で、左右方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

また、車が横転したときもサイドバッグは作動することがあります。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> フロントシートに市販のシートカバーを使用しないでください。フロントサイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

ウインドウバッグ

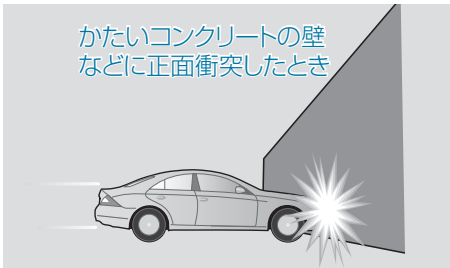
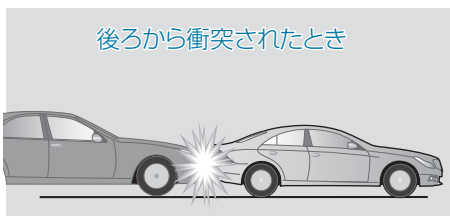
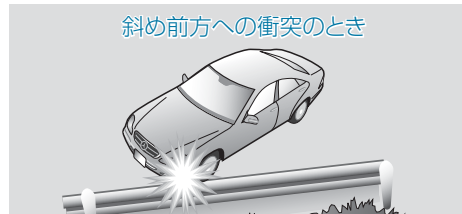
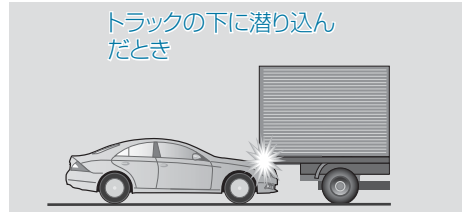
⑤ ウインドウバッグ

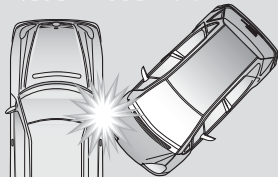
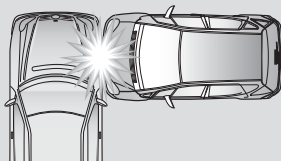
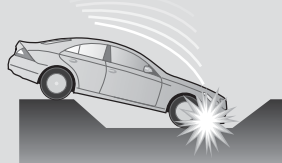
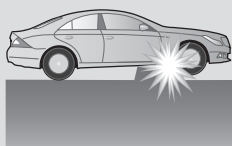
横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグが作動し、頭部への衝撃を分散・軽減します。

ウインドウバッグは、運転席 / 助手席エアバッグの作動、助手席の乗員の有無、シートベルトの着用に関わらず、衝突の最初の段階で、左右方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

また、車が横転したときもウインドウバッグは作動することがあります。

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

PRE-SAFE

PRE-SAFE は、車が危険な状態にあることを感知したときに、乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFE は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき
- アンダーステア状態やオーバーステア状態など、車の姿勢が危険な状態になったとき

PRE-SAFE は、約 30km/h 以上で走行しているとき、以下のように作動します。

- 前席シートベルトを自動で引き込み、拘束度を高めます。
- 助手席シートが不適切な位置にある場合は、助手席シートを適正な位置に調整します。
- 車が横滑りをすると、ドアウインドウとスライディングルーフ * が少し開いた状態まで自動的に閉じます。

車が危険な状態から脱すると、助手席シートの位置、ドアウインドウやスライディングルーフ * の開き具合を再度調整することができます。

自動で引き込まれた前席シートベルトの張力が緩まないとき

▶ シートベルトの張力が緩むまで、バックレスト角度やシートの前後位置を後方の位置に動かしてください。

ロック機構が解除されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 助手席の位置を調整するときは、後席の乗員がけがをしないように注意してください。また、シート下部や後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

NECK PRO アクティブヘッドレスト

NECK PRO アクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方に動くことにより、乗員の頭部をより効果的に支持します。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

けがのおそれがあります

フロントシートに市販のシートカバーを使用しないでください。NECK PRO アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

事故の際に NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、ヘッドレストが前に動いた状態のままになります。このときは、運転席と助手席のヘッドレストをリセットしてください（▷285 ページ）。

リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

このリセット作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

子供を乗せるとき

シートベルトは身長 150cm 以上の乗員が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

けがのおそれがあります

- チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。
  - ◇ 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
  - ◇ 誤ってドアを開き、事故の原因になります。
  - ◇ 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。
  - ◇ 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。
- 重い物やかたい物を積載するときは、確実に固定してください。
- 荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。
  - ◇ 急ブレーキ
  - ◇ 急な進路変更
  - ◇ 事故

荷物の積み方について、詳しくは（▷200 ページ）をご覧ください。

チャイルドセーフティシート

けがのおそれがあります

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用してください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6 歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは、後席に装着してください。
- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- チャイルドセーフティシート検知システム装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して助手席エアバッグの機能が解除されている場合を除き、後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、サンバイザーに貼付されています。

- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。

- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

純正チャイルドセーフティシート

ダイムラー社では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 10kg 以下 または 約 13kg 以下	新生児～ 9 カ月位 または 18 カ月位
デュオプラス	9 ～ 18kg	8 カ月～ 4 歳位
キッド	15 ～ 36kg	3 歳半～ 12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム *

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

⚠ けがのおそれがあります

チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。

必ず以下の点に注意してください。

- 純正チャイルドセーフティシートであっても、必ず後席に装着してください。
- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。

安全装備

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 後ろ向きに装着するタイプの純正チャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。また、タイプにかかわらず助手席ではチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

! 助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

i センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しても、サイドバッグ、ウインドウバッグ、シートベルトテンショナーの機能は解除されません。

i 純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

助手席エアバッグオフ表示灯

① 助手席エアバッグオフ表示灯

チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席に、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しているときは、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、助手席エアバッグオフ表示灯①が点灯し、助手席エアバッグの機能が解除されます。

点灯しないときは、チャイルドセーフティシート検知システムが故障しています。助手席でチャイルドセーフティシートを使用せずに、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着していないときは、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、システムの故障です。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ **けがのおそれがあります**

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着するときは、以下の点に注意して正しく使用してください。

- チャイルドセーフティシート検知システム非装備車の場合
  - ◇純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。
  - ◇やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストをもっとも高い位置にしてください。
  - ◇後ろ向きに装着するタイプの純正チャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。
- チャイルドセーフティシート検知システム装備車の場合
  - ◇センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
  - ◇助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
  - ◇チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプの純正チャイルドセーフティシートは必ず後席に装着してください。

    やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストをもっとも高い位置にしてください。
  - ◇助手席のシートクッションに、電源の入ったパソコンや携帯電話などの電子機器、または磁気カードやICカードなどを置かないでください。チャイルドセーフティシート検知システムが誤作動して、事故のときに助手席エアバッグが作動しないおそれやセンサー付き純正チャイルドシートを検知できずに助手席エアバッグが作動するおそれがあります。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

後席に、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置①を装備しています。

⚠ **けがのおそれがあります**

- この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗車させるときに使用してください。体重 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを後席のシートベルトで装着してください。
- チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着方法を誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。

 けがのおそれがあります

- チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、必ず新品に交換してください。
- チャイルドセーフティシート固定装置を使用して、チャイルドセーフティシートに子供を乗車させているときも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。事故の原因になったり、運転装置に触れてけがをするおそれがあります。

  また、車内が高温または低温になった状態では、命に関わるおそれがあります。

① 固定装置
② カバー

チャイルドセーフティシートを装着する

▶ シートクッション後端のカバー②を開きます。

▶ 固定装置①にチャイルドセーフティシートを装着します。

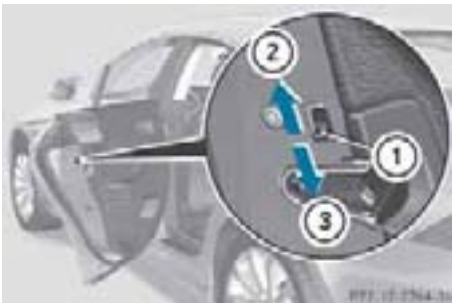
チャイルドプルーフロック

子供が後席に乗車するときは、以下のチャイルドプルーフロックを使用してください。

- リアドアのチャイルドプルーフロック
- リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

 けがのおそれがあります

子供が後席に乗車するときは、チャイルドプルーフロックを設定してください。子供がリアドアやリアドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

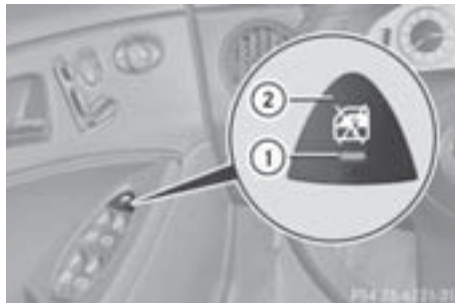
リアドアのチャイルドプルーフロックを設定する

① レバー
② 設定
③ 解除

車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

▶ レバー ① を設定側 ② または解除側 ③ に操作します。

▶ 車内のドアレバーを引いて、設定 / 解除を確認します。

ℹ リアドアのチャイルドプルーフロックが設定されていても、車が解錠されているときは、車外のドアハンドルでリアドアを開くことができます。

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定する

左ハンドル車
① 表示灯
② スイッチ

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウの操作ができなくなります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに設定できます。

▶ スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が点灯 / 消灯します。

表示灯 ① が点灯しているときは、リアドアのスイッチによるリアドアウインドウの操作はできません。

ℹ 表示灯の点灯 / 消灯にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアドアウインドウを操作できます。

ℹ イグニッション位置を **0** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても、リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックの設定は記憶されます。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック･ブレーキング･システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキランプ
- ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBV（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- アダプティブブレーキ

ⓘ 雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、ABS や BAS、ESP の効果が発揮されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行安全装備が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

また、タイヤのグリップが失われた状況では、走行安全装備は効果を発揮しません。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷255 ページ）をご覧ください。

i ABS に異常があると、ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABS が作動したとき

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでください。

i エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

事故のおそれがあります

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは BAS は作動しません。詳しくは（▷255 ページ）をご覧ください。

i BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

i BAS に異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、ブレーキは通常通り作動します。

i バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

アダプティブブレーキランプ

約 50km/h 以上からの急ブレーキ時に BAS が作動すると、ブレーキランプがすばやく点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

また、約 70km/h 以上からの急ブレーキ時には、ブレーキランプの点滅に加えて、停車すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、再度走行を開始して走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ESP

ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個々のタイヤに独立してブレーキを効かせたり、エンジン出力を制御することによって、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

⚠ ESP 表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

発進時または走行中に ESP 表示灯が点滅したときは、ESP が作動しています。

⚠ 事故のおそれがあります

ESP は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

⚠ 事故のおそれがあります

ESP 表示灯が点滅したときは、車輪が空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESP の機能の解除

! 前輪または後輪を上げてけん引されるときは、イグニッション位置を **2** にしないでください。ESP が作動して、接地している車輪のブレーキが作動します。また、ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ESP が故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイに ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷257 ページ）をご覧ください。

i エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示され、ESP 表示灯や ABS 警告灯が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、イグニッション位置を **0** に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

i ABS が故障したときは、ESP の機能も解除されます。

i ABS 警告灯が点灯しているときは、ESP の機能も解除されています。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP が作動することがあります（走行中に ESP 表示灯が点滅したままになります）。

ESP の機能の解除

以下のような状況では、ESP の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP の機能を解除します。

事故のおそれがあります

ESP の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

事故のおそれがあります

ESP の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、操縦安定性や走行安定性を高めることができません。

ESP の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- 駆動輪が空転した場合、ブレーキ制御による駆動力の確保は行なわれますが、エンジンの出力制御による駆動力の確保は行なわれません。
- ブレーキを効かせたときは ESP は自動的に作動します。

ℹ ESP の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを検知すると、ESP 表示灯が点滅しますが、ESP は作動しません。

① ESP オフスイッチ

ESP の機能を解除する

▶ ESP オフスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP 表示灯（▷51 ページ）が点灯します。

ESP を待機状態にするときは、再度、ESP オフスイッチを押して ESP 表示灯を消灯させます。

EBV

EBV（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を調整し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

事故のおそれがあります

EBV に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、急ブレーキ時などには後輪がロックするため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。車両操縦性の変化に注意して慎重に運転してください。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の安全性を高めるシステムです。

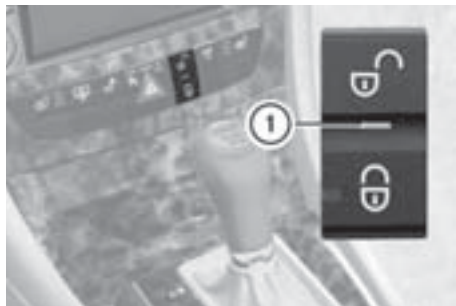
アダプティブブレーキには、ホールド機能（▷170 ページ）も含まれます。

盗難防止システム

盗難防止警報システム

盗難防止警報システムが待機状態のときに以下の状況を検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

- ドアまたはトランクが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

盗難防止警報システムは、車を施錠したあと、エマージェンシーキーを使用して運転席ドアやトランクを解錠し、開いたときも作動します。

① 表示灯

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

表示灯 ① が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯 ① が点滅を続けます。

システムを解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を解錠します。

表示灯 ① が消灯します。

警報が作動したときの解除方法

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押します。

または

▶ キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷61 ページ）にあるときは、ドアハンドルを引きます。

または

▶ キーがキーレスゴーの車室内アンテナの検知範囲（▷61 ページ）にあるときは、セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押します。

または

▶ キーがキーレスゴーのトランク側アンテナの検知範囲（▷61 ページ）にあるときは、トランクのキーレスゴースイッチを押します。

ⓘ ドアやトランクが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は解除されません。

ⓘ システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしても、ボンネットが開けられたときに警報は作動しません。

ⓘ システムが待機状態のときに車内からドアを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

ⓘ システムを待機状態にしても、表示灯 ① が点滅しない場合は、システムが故障しています。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

けん引防止機能

車を施錠して、けん引防止機能を待機状態にしたときは、車両の傾きを感知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

例えば、けん引やジャッキアップなどにより車両が持ち上げられたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を解錠します。

けん引防止機能を解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて移動するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

① けん引防止機能解除スイッチ
② 表示灯

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ けん引防止機能解除スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点灯し、その後消灯して、けん引防止機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

室内センサー

車を施錠して、室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

例えば、ウインドウが割られたり、車内に手や物などが侵入したときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ システムを待機状態にする前に、室内センサーの誤作動を防止するために以下のことを確認してください。

- ドアウインドウが完全に閉じていること
- スライディングルーフ * が完全に閉じていること
- ルームミラーやアシストグリップにマスコットなどをかけていないこと

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を解錠します。

室内センサーを解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- ドアウインドウを少し開いた状態で車から離れるとき
- スライディングルーフ * を少し開いた状態で車から離れるとき

① 室内センサー解除スイッチ
② 表示灯

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ 室内センサー解除スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点滅し、その後消灯して、室内センサーが解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

オープン / クローズ

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキー（▷281 ージ）を収納しています。

⚠ 事故のおそれがあります

- 子供だけを残して車から離れないでください。車が施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内またはドア付近などの車外にあるときは、キーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動し、事故の原因になります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコン機能に障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

! 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! 車を操作するときは、運転者は常にキーを携帯してください。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作やキーレスゴー操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

ℹ 2 つのキーを見わけるため、キーのストッパー（▷281 ページ）の色は異なります。

ℹ 新たにキーをつくる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ キーの電池が消耗するとキーの表示灯が点灯せず、リモコン操作やキーレスゴー操作ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

リモコン機能

① 発信部
② 表示灯
③ 施錠ボタン
④ トランクオープナーボタン
⑤ エマージェンシーキー
⑥ 解錠ボタン

イグニッション位置が **0** でエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、トランク、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- トランクを開く
- コンビニエンスオープニング機能とコンビニエンスクロージング機能の操作（▷103､104 ページ）

操作時に表示灯 ② が 1 回点滅します。

ℹ バッテリーの電圧が低下したときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

解錠する

▶ 解錠ボタン ⑥ を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、盗難防止警報システム（▷54 ページ）が解除されます。

トランクが独立施錠（▷70 ページ）されているときは、解錠ボタン ⑥ を押してもトランクは解錠されません。

施錠する

▶ 施錠ボタン ③ を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、盗難防止警報システム（▷54 ページ）が待機状態になります。

❗ リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

トランクを開く

▶ トランクが開きはじめるまで、トランクオープナーボタン ④ を約 2 秒間押し続けます。

トランクが独立施錠（▷70 ページ）されているときは、トランクオープナーボタン ④ を押してもトランクは開きません。

リモコン機能の切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップのみを解錠するように設定できます。

▶ 解錠ボタン ⑥ と施錠ボタン ③ を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯 ② が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン ⑥ を 1 回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

  また、盗難防止警報システム（▷54 ページ）が解除されます。
- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン ⑥ を押すと、助手席ドア、リアドア、トランクが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

元の設定に戻すには、再度、解錠ボタン ⑥ と施錠ボタン ③ を同時に約 6 秒間押し続けます。キーの表示灯 ② が 2 回点滅し、元の設定に戻ります。

ℹ リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押す
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

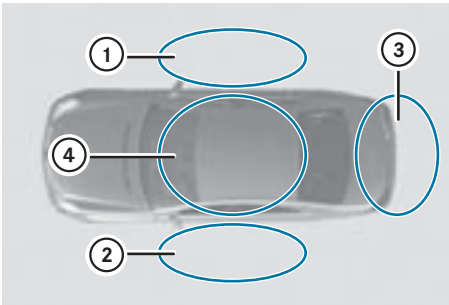
ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

点灯したランプは以下のときに消灯します。

- 運転席ドアを開いたとき
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき
- キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **1** にしたとき
- 点灯してから約 40 秒経過したとき

この機能の設定と解除については（▷141 ページ）をご覧ください。

キーレスゴー

① 右側アンテナの検知範囲
② 左側アンテナの検知範囲
③ トランク側アンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

キーレスゴーは、キーを携帯することにより、キーとキーレスゴーアンテナが電波の送受信を行ない、リモコン操作をしなくても、車の解錠 / 施錠やエンジンの始動を行なうことできます。

ℹ エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、キーレスゴー操作を行なうことはできません。

ℹ エンジンスイッチにキーが差し込まれていないときでも、エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **2** のときは、キーレスゴー操作で施錠できません。

キーの位置により、キーレスゴー操作で行なうことができる操作が以下のように異なります。

キーが左右側アンテナの検知範囲にあるとき

ドアハンドルを操作すると、車の施錠 / 解錠ができます。

ℹ キーの位置によっては、キーが検知範囲にある側と反対側のドアハンドルを操作することで、車が施錠 / 解錠されることがあります。

キーがトランク側アンテナの検知範囲にあるとき

- トランクハンドルを引くと、トランクのみを解錠して開くことができます。
- トランクのキーレスゴースイッチを押して、トランクを閉じて車を施錠することができます。

ℹ キーの位置によっては、キーがトランク側アンテナの検知範囲にないときも、トランクハンドルを引くことでトランクのみが解錠して開くことがあります。

キーが車室内アンテナの検知範囲にあるとき

- イグニッション位置の選択ができます（▷71 ページ）。
- エンジンの始動ができます（▷105 ページ）。

ℹ ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときも、車室内アンテナにキーが検知されることがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、それ以外の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作を行なうときは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときも、キーレスゴースイッチを押すことによりエンジンが始動することがあり、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

ⓘ キーを車から遠ざけたときは、キーレスゴー操作で車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動することはできません。

ⓘ キーレスゴーアンテナの検知範囲内にキーがあるときは、キーを携帯していない人でも、キーレスゴー操作を行なうことができます。

ⓘ バッテリーあがりを起こしたときは、キーの電池が正常でもキーレスゴー操作はできません。

ⓘ 車を長期間使用しなかったときは、ドアハンドルを握って引いてからキーレスゴー操作を行なってください。

解錠する（初期設定時）

▶ ドアハンドルを握ります。

ドアハンドルを握ったドアが開き、ドア、トランク、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、盗難防止警報システム（▷54 ページ）が解除されます。

トランクが独立施錠（▷70 ページ）されているときは、ドアハンドルを引いてもトランクは解錠されません。

ⓘ 解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクを開く
- キーレスゴースイッチを押す
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

解錠時の設定の切り替え

① 表示灯
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

運転席ドアのドアハンドルを握って解錠したときの作動内容を切り替えることができます。

▶ 表示灯 ① が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン ② と解錠ボタン ③ を同時に押し続けます。

このときは、以下のように作動します。

▶ 運転席ドアのドアハンドルを握ります。

運転席ドアが開き、運転席ドアと燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、盗難防止警報システム（▷54 ページ）が解除されます。

初期設定に戻す

▶ 表示灯 ① が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン ② と解錠ボタン ③ を同時に押し続けます。

ⓘ 設定を切り替えたときも、運転席ドア以外のドアのドアハンドルを握ったり、トランクハンドルを引くことで、ドアやトランクを解錠することができます。

施錠する

左側フロントドア
④ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ ④ を押します。

または

⑤ トランクのキーレスゴースイッチ

▶ トランクのキーレスゴースイッチ ⑤ を押します。

トランクが閉じます。

ドア、トランク、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、盗難防止警報システム（▷54 ページ）が待機状態になります。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

i キーが車室内やトランク内にあるときは、ドアハンドルやトランクのキーレスゴースイッチで施錠できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰ ｶﾞ ｼｬﾅｲﾆ ｱﾘﾏｽ !" または "ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ" と表示されることがあります。

ただし、キーが左右側アンテナの検知範囲にあり、もう 1 本のキーが車室内にあるときはドアハンドルのキーレスゴースイッチを押すことで、またキーがトランク側アンテナの検知範囲にあり、もう 1 本のキーが車室内にあるときはトランクのキーレスゴースイッチを押すことで施錠できます。

トランクを解錠して開く

▶ トランクハンドルを引きます。

トランクのみが解錠されて開きます。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

ドアの開閉

⚠ **事故のおそれがあります**

ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。

ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。

同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

車内からの開閉

① ロックノブ
② ドアレバー
③ インナーグリップ

開く

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ① が上がり、解錠されます。

閉じる

▶ インナーグリップ ③ を持って確実に閉じます。

ℹ 車が施錠されているときも、車内のドアレバーを引くとドアを開くことができます。

ただし、リアドアのチャイルドプルーフロックが設定されているときは、車内のドアレバーを引いてもリアドアを開くことはできません。

ℹ 助手席ドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

車外からの開閉

① ドアハンドル

開く

▶ ドアハンドル ① を引きます。

閉じる

▶ ドアハンドル ① を持って確実に閉じます。

ℹ ドアウインドウが全閉のとき、ドアを開くとドアウインドウが少し下降し、閉じると上昇します。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ず施錠してください。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! ドアウインドウが凍結していたり、バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウは下降しません。

このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアやドアウインドウ、シール部などを損傷するおそれがあります。

ℹ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

車内からの解錠 / 施錠

⚠ **事故のおそれがあります**

ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せているときは特に注意してください。

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

ドアごとの解錠 / 施錠

① ロックノブ
② ドアレバー

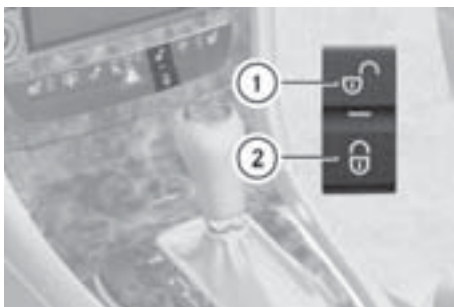
解錠する

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

このときドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ ① を押します。

ドアロックスイッチでの解錠 / 施錠

① 解錠
② 施錠

すべてのドアとトランクを解錠 / 施錠できます。

解錠する

▶ 解錠スイッチ ① を押します。

ロックノブが上がります。

施錠する

▶ 施錠スイッチ ② を押します。

ロックノブが下がります。

運転席ドアが開いているときは、運転席ドア以外のドアとトランクが解錠 / 施錠されます。

ⓘ 次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠できません。

- リモコン操作で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

ⓘ ドアロックスイッチで燃料給油フラップの解錠 / 施錠はできません。

ⓘ トランクが独立施錠されているときは、ドアロックスイッチで解錠しても、トランクは解錠されません。

ⓘ リアドアのチャイルドプルーフロック（▷47 ページ）を設定しているときは、ドアロックスイッチで解錠しても、車内のドアレバーを引いてリアドアを開くことはできません。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとトランクを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については（▷145 ページ）をご覧ください。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときやシャシーダイナモに載せるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。

車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアまたはトランクを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

i 車速感応ドアロックにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると自動的に解錠されます。

トランク

⚠ **中毒のおそれがあります**

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

! トランクルームには乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。

! 子供などがトランクに閉じ込められないように注意してください。

! トランクを開くときは、トランクの周りに障害物がなく、身体や物に当たるおそれがないことを確認してください。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

! 強風のときにトランクを開くと、風にあおられ、トランクが不意に下がるおそれがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、トランクに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! トランクを閉じたときは、トランクが確実に閉じていることを確認してください。

! 車が施錠されているときにリモコン操作やキーレスゴー操作、エマージェンシーキーなどでトランクを開き、再度トランクを閉じるとトランクは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

! トランクの中にキーを残したままにしないでください。トランクが施錠されるとキーが取り出せなくなります。

i トランクが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

i 車が施錠されているときは、キーのトランクオープナーボタンを押すとトランクだけが解錠されて開きます。

i 車が施錠されているときにトランクのみを解錠して開き、再度トランクを閉じるとトランクは施錠されます。このとき、非常点滅灯が 3 回点滅します。

i 車が施錠されているときも、キーがキーレスゴーのトランク側アンテナの検知範囲にあるときは、トランクハンドルを引くと、トランクだけが解錠されて開きます。その状態でトランクを閉じると、トランクは施錠されます。

車外からの開閉

①ハンドル

車外からトランクを開く

▶ ハンドル ① を手前に引きます。

または

▶ トランクが開きはじめるまで、キーのトランクオープナーボタン（▷59 ページ）を押し続けます。

トランクが自動で開きます。

i トランクが独立施錠されているときは、トランクは開きません。

②トランククローザースイッチ
③キーレスゴースイッチ

車外からトランクを閉じる

▶ トランククローザースイッチ②を押します。

トランクが自動で閉じます。

トランクを閉じて車を施錠する

▶ キーレスゴースイッチ③を押します。

トランクが自動で閉じて、車が施錠されます。

ⓘ トランク内や車室内にキーがあるときは、トランクは施錠されません。ただし、トランク内や車室内にキーがあり、もう一本のキーがトランク側アンテナの検知範囲にあるときは、トランクは施錠されます。

車内からの開閉

左ハンドル車
④ トランクスイッチ
⑤ 表示灯

トランクスイッチ④は運転席ドアにあります。

車内からトランクを開く

▶ トランクが開き始めるまで、トランクスイッチ④を引きます。

トランクが自動で開きます。

ⓘ トランクが独立施錠されているときは、トランクスイッチを引いてもトランクは開きません。

車内からトランクを閉じる

▶ トランクスイッチ④を押し続けます。

押している間、トランクが閉じます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

! トランクが開閉しているときに、身体や物が挟まれそうになったり、接触しそうになったときは、ただちに以下のいずれかの操作を行なってください。トランクの作動が停止します。

- トランクのハンドル①を引く
- トランクのトランククローザースイッチ②を押す
- トランクのキーレスゴースイッチ③を押す
- 運転席ドアのトランクスイッチ④を操作する

また、キーのトランクオープナーボタンを押すと、トランクが閉じているときはトランクが開き、トランクが開いているときはトランクの作動が停止します。

! トランクスイッチでトランクを閉じているときに、身体や物が挟まれそうになったときは、ただちにトランクスイッチから手を放してください。トランクの動きが停止します。

ⓘ トランクが開いているときは、トランクスイッチの表示灯 ⑤ が点灯します。

トランクを閉じると、表示灯は消灯します。

ⓘ 走行中はトランクスイッチでトランクを開くことはできません。

ⓘ トランクが開閉しているときに身体や荷物などと接触すると、トランクの動きが停止し、閉じていたときは自動で少し開きます。

ⓘ 開閉操作を繰り返すと、トランクが一時的に開閉しなくなることがあります。

トランクが自動で閉じないとき

① 凹部

トランクが自動で開閉しているときに障害物と接触したときや、トランクの開閉操作を繰り返し行なったときなどは、一定時間、トランクの開閉操作ができなくなる場合があります。

このときは、トランクを手動で閉じます。

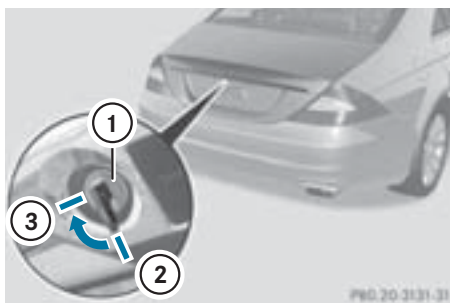
トランクを手動で閉じる

▶ 凹部①に手をかけてトランクを引き下げてから押さえます。

トランクが閉じなかったときは、少し強めに押さえます。

! トランクを閉じるときは、身体や物が挟まれないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! トランクを閉じたときは、確実に閉じていることを確認してください。

トランクの独立施錠

① キーシリンダー
② 独立施錠解除位置
③ 独立施錠位置

車の解錠 / 施錠に関わらず、トランクを独立して施錠することができます。

トランクを独立施錠しているときは、トランクハンドルやキーのトランクオープナーボタン、運転席ドアのトランクスイッチでトランクを開くことはできません。

トランクを独立施錠する

▶ トランクを閉じます。

▶ 図のような向きで、エマージェンシーキー（▷281 ページ）をトランクのキーシリンダー①に差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを独立施錠位置③にまわします。

▶ キーシリンダー①からエマージェンシーキーを抜きます。

! トランクを開いた状態でも、左記の操作を行なってトランクを閉じると独立施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

i 駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して携帯してください。

独立施錠を解除する

▶ トランクのキーシリンダー①にエマージェンシーキー（▷281 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを独立施錠解除位置②にまわします。

▶ キーシリンダー①からエマージェンシーキーを抜きます。

イグニッション位置

⚠ **事故のおそれがあります**

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択

① キーレスゴースイッチ

車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに、セレクターレバー先端のキーレスゴースイッチ ① を押すことにより、イグニッション位置の選択とエンジンの始動ができます。

イグニッション位置を選択する

▶ ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチ ① を押すと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーレスゴースイッチの操作	イグニッション位置
1 回押す	**0** から **1** になります。
さらに 1 回押す	**1** から **2** になります。
さらに 1 回押す	**2** から **0** になります。

エンジンを始動する

▶ ブレーキペダルを踏んでいるときにキーレスゴースイッチ ① を押します。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

i 車室内にキーがないときにキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ" と表示されます。

キーによるイグニッション位置の選択

エンジンスイッチにキーを差し込んでまわすことにより、イグニッション位置を選択できます。

イグニッション位置を選択する

▶ エンジンスイッチに差し込んだキーをまわします。

以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーの位置	イグニッション位置
⓪	**0**：キーを差し込む / 抜く位置
①	**1**：イグニッション位置が **1** になります。
②	**2**：イグニッション位置が **2** になります。
③	**3**：エンジンが始動します。

! バッテリーあがりを防ぐため、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

! エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差し込むことはできません。

i セレクターレバーが P に入っていないときはキーを抜くことができません。

i エンジンスイッチからキーを抜かずに 0 の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーを抜き、再度差してからまわしてください。

i キーの発信部が覆われていたり汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

タッチスタート機能

セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押すか、エンジンスイッチを 3 の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

シート

⚠ けがのおそれがあります

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときやイグニッション位置が 0 のときも、シート調整スイッチに触れるとシートが動き出します。そのため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シートを作動させて身体を挟まれ、けがをするおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

運転席シートの調整は、必ず停車しているときに行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

シートを調整するときは、身体や物などが挟まれないように注意してください。

シートを調整するときは、エアバッグに関する注意もお読みください（▷36 ページ）。

また、子供を乗車させるときは（▷41 ページ）の注意をお読みください。

⚠ けがのおそれがあります

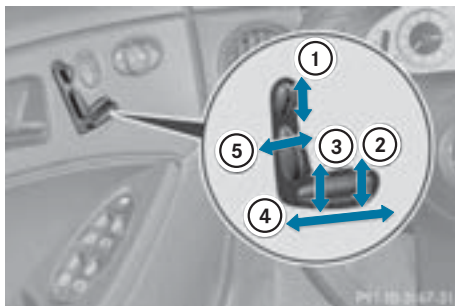
乗車するときは、必ずヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

! シートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときはリアシートと接触しないように注意してください。シートやシートバックポケットの収納物を損傷するおそれがあります。

ⓘ シートのメモリー機能については（▷84 ページ）をご覧ください。

ⓘ ヘッドレストを取り外すことはできません。

シートの調整

左側シートのスイッチ
① ヘッドレストの高さ
② シートクッションの角度
③ シートの高さ
④ シートの前後位置
⑤ バックレストの角度

シートの前後位置の調整

▶ スイッチを矢印 ④ の方向に操作します。

ヘッドレストの高さも、連動して自動的に調整されます。

シートの高さの調整

▶ スイッチを矢印 ③ の方向に操作します。

シートクッションの角度の調整

▶ スイッチを矢印 ② の方向に操作します。

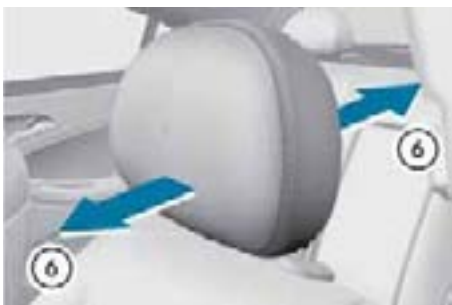
バックレストの角度の調整

▶ スイッチを矢印 ⑤ の方向に操作します。

ヘッドレストの高さの調整

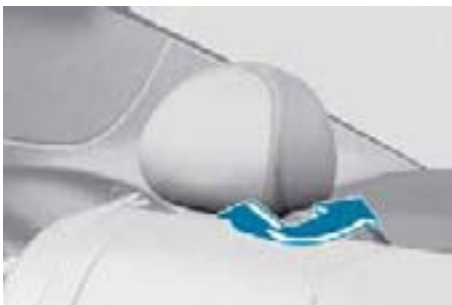
▶ スイッチを矢印 ① の方向に操作します。

ⓘ PRE-SAFE が作動すると、助手席シートはエアバッグの作動に対して適正な位置に自動的に調整されます。

フロントヘッドレストの前後位置調整

⑥ ヘッドレストの前後位置調整

ヘッドレストの前後位置を調整する

▶ ヘッドレストを持って矢印⑥の方向に動かします。

リアヘッドレストの角度調整

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレストの下側を押して / 引いて調整します。

ランバーサポート *

① 調整レバー

腰部のサポートを調整できます。

サポートを増加させる

▶ 調整レバー①を下方に操作します。

サポートを減少させる

▶ 調整レバー①を上方に操作します。

リアヘッドレストの格納

① リアヘッドレスト格納スイッチ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

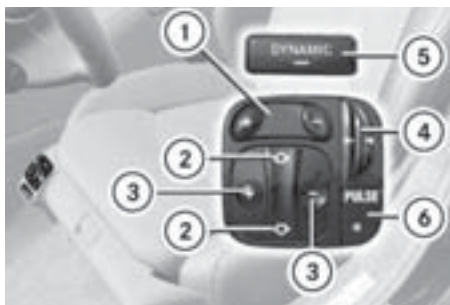
ヘッドレストを格納する

▶ ヘッドレスト格納スイッチ①を押します。

ヘッドレストを起こす

▶ ヘッドレストを手で引き起こしてロックさせます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 乗車するときは、必ずヘッドレストを起こしてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

マルチコントロールシートバック *

① シートクッション前部の形状の調整
② ランバーサポートの位置の調整
③ ランバーサポートの強さの調整
④ バックレストのサイドサポートの調整
⑤ ドライビングダイナミックシートスイッチ
⑥ マッサージスイッチ

身体を正しく支えるようにシートの形状を調整します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整、使用できます。

操作スイッチは運転席 / 助手席のシート下部にあります。

ℹ スイッチを押しても調整できないときは、調整用のエアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

シートクッション前部の形状を調整する

▶ スイッチ①の **+** または **−** を押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ランバーサポートを調整する

▶ スイッチ②の [△] または [▽] を押して、サポートの位置を調整します。

▶ スイッチ③の [+] または [−] を押して、サポートの強さを調整します。

バックレストのサイドサポートを調整する

▶ スイッチ④を左右に操作します。

マッサージ機能

バックレストのエアクッションが膨張と収縮を繰り返し、長距離走行などの疲労を軽減します。

マッサージ機能を作動させる

▶ スイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

マッサージ機能を停止する

▶ 再度、スイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ マッサージ機能は作動後約 5 分経過すると、自動的に停止します。

ドライビングダイナミックシート

カーブを曲がるときなどに、バックレストのサイドサポートを自動的に増加させ、身体を効果的に支える機能です。

ドライビングダイナミックシートを使用する

▶ スイッチ⑤を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

運転席シートのスイッチを押したときは、マルチファンクションディスプレイに "ドライビング ダイナミック シート オン" と約 5 秒間表示されます。

ⓘ ドライビングダイナミックシートのサポートの強さを調整することができます。詳しくは(▷149 ページ)をご覧ください。

ドライビングダイナミックシートを停止する

▶ スイッチ⑤を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

運転席シートのスイッチを押したときは、マルチファンクションディスプレイに "ドライビング ダイナミック シート オフ" と約 5 秒間表示されます。

シートヒーター

① シートヒータースイッチ
② 表示灯

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ①を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯②の数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 5 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ①を押して、表示灯②を消灯させます。

! コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。また、シートヒーターを連続して使用しないでください。異常過熱により低温火傷（紅斑､水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。

以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、身体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気を誘う薬を服用された方
- 飲酒した方

多くの電気装備を使用していたり、バッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは、スイッチの表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

ステアリング

けがのおそれがあります

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときやイグニッション位置が 0 のときも、ステアリング調整レバーに触れるとステアリングが動き出します。そのため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリングに身体を挟まれて、けがをするおそれがあります。

事故のおそれがあります

ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

けがのおそれがあります

運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、運転席エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。

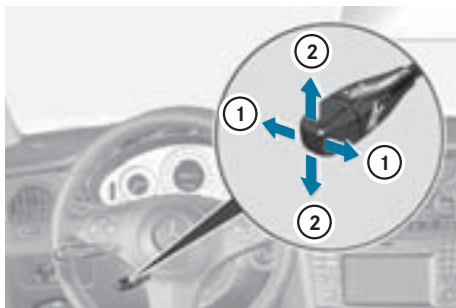
ステアリングのパッド部にカバーをしたり、バッジやステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。運転席エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

ステアリングを調整するときは、以下のことに注意してください。

- ステアリングを握ったとき、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせて、ペダルが十分に踏み込める
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる

! ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリング位置の調整

① 前後位置の調整
② 上下位置の調整

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ① の方向に操作します。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ② の方向に操作します。

i ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶させることができます（▷84 ページ）。

イージーエントリー機能

イージーエントリー機能は、運転席への乗り降りを容易にする機能です。

次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く
- 運転席ドアが開いているときに、セレクターレバーのキーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にする

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じた状態で、エンジンスイッチにキーを差し込む
- イグニッション位置が **0** のときは、運転席ドアを閉じてからイグニッション位置を **1** にする
- イグニッション位置が **1** のときは、運転席ドアを閉じてイグニッション位置を **2** にする

この機能の設定と解除については（▷147 ページ）をご覧ください。

ステアリングが上方の位置にあるときは、イージーエントリー機能は作動しないことがあります。

イージーエントリー機能を設定しているときは、事故などのときにイージーエントリー機能が作動します。これにより、車外への脱出や乗員の救出を容易にします。

⚠ けがのおそれがあります

子供だけを車内に残して車から離れないでください。イージーエントリー機能が作動して、ステアリングに身体を挟まれるおそれがあります。

イージーエントリー機能が作動しているときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

身体が挟まれそうになったときは、以下の操作をしてください。

- ステアリング調整レバーをいずれかの方向に操作する
- 運転席ドアのいずれかのポジションスイッチ（▷84 ページ）を押す

ミラー

⚠ 事故のおそれがあります

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーおよびドアミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。ガラスクリーナーによっては、ミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

車両の操作

ドアミラー

⚠ **事故のおそれがあります**

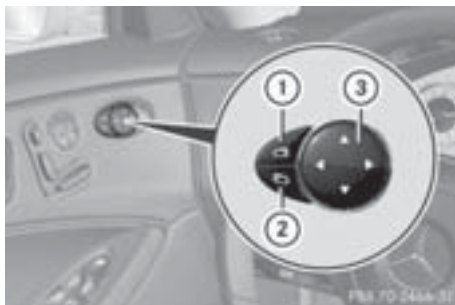
ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

ℹ より広い視界を確保するため、ドアミラーの外側部分は凸面になっています。

ℹ ドアミラーにはヒーターが装着されています。以下のときには自動的に温められ、凍結を防ぎます。

- リアデフォッガーを使用しているとき（▷191 ページ）
- 外気温度が低く、エンジンがかかっているとき

ドアミラーの角度調整

左ハンドル車
① 左側ドアミラー選択スイッチ
② 右側ドアミラー選択スイッチ
③ ドアミラー調整スイッチ

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 調整する側のドアミラー選択スイッチ ① または ② を押します。

▶ ドアミラー調整スイッチ ③ を操作してドアミラーの角度を調整します。

ℹ ドアミラーの角度は、運転席シートの位置やステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷84 ページ）。

ドアミラーの格納 / 展開

左ハンドル車
① 格納 / 展開スイッチ

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 格納 / 展開スイッチ ① を押します。

ドアミラーが格納 / 展開します。

! ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行時はドアミラーが完全に展開していることを確認してください。後方視界が確保できなくなるおそれがあります。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

i 走行速度が約 50km/h 以上のときは、スイッチでドアミラーを格納することはできません。

ドアミラーのリセット

バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、施錠時のドアミラー格納が作動しないことがあります。このようなときは、ドアミラーをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 格納 / 展開スイッチ①を押します。

施錠時のドアミラー格納

リモコン操作で施錠すると、ドアミラーも併せて格納します。

格納されたドアミラーは、フロントドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については (▷147 ページ) をご覧ください。

i ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してからリモコン操作で施錠したときは、フロントドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

自動防眩機能

① センサー

周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のとき、ルームミラーのセンサー①が後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーと運転席側のドアミラーの色の濃度が変わり、眩しさを防止します。

⚠ **けがのおそれがあります**

ミラーのガラスが損傷すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないよう注意してください。

万一、液体が目に入ったときや皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 電動ブラインド（リアウインドウ）を使用しているときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが当たらないときは、自動防眩機能が作動しないことがあります。十分注意して走行してください。

i セレクターレバーが R に入っているときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能が解除されます。

メモリー機能

シート位置の記憶

運転席シートおよび助手席シートには、3 つの位置を記憶させることができます。

運転席シートでは、ステアリングの位置とドアミラーの角度も記憶させることができます。

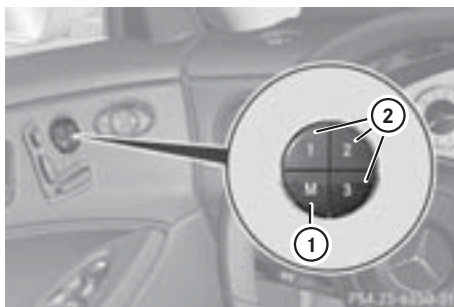
▶ 正しいシート位置に調整します（▷74 ページ）。

運転席では、さらにステアリングの位置（▷80 ページ）、ドアミラーの角度（▷82 ページ）を調整します。

ドアミラーの角度を調整するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ メモリースイッチ ① を押します。

▶ 3 秒以内にポジションスイッチ ② の 1 ～ 3 のいずれかを押します。

ピッという確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置などが記憶されます。

左側ドアのスイッチ
① メモリースイッチ
② ポジションスイッチ

シート位置の呼び出し

⚠ **けがのおそれがあります**

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときやイグニッション位置が **0** のときも、ポジションスイッチを押すことでシートなどが動きます。そのため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。スイッチを操作することでシートなどが動きだし、身体を挟まれるおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席シートのシート位置の呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

▶ 呼び出したいポジションスイッチ②（1 ～ 3 のいずれか）を押し続けます。

シートなどが動きはじめ、あらかじめ記憶させた位置になると停止します。

! バックレストを大きく後方に傾けているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。シートを損傷するおそれがあります。

ℹ 安全のため、ポジションスイッチ②から手を放すとシートなどは停止します。

パーキングヘルプ機能

左ハンドル車
① 運転席側ドアミラー選択スイッチ
② 助手席側ドアミラー選択スイッチ
③ ドアミラー調整スイッチ
④ メモリースイッチ

セレクターレバーを **R** に入れたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶させていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にします。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ②を押します。

▶ セレクターレバーを **R** に入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

※ 右ハンドル車はスイッチ類の配列が異なります。

ⓘ 運転席側ドアミラー選択スイッチが押されているときは、助手席側ドアミラーの角度は変わりません。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- セレクターレバーを **R** から他の位置に入れて約 10 秒経過したとき
- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ ① を押したとき

助手席側ドアミラーの角度の記憶

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ② を押します。

▶ 調整スイッチ③で、後退時に自分が後方を確認しやすい角度にドアミラーを調整します。

▶ 運転席ドアのメモリースイッチ④を押し、約 3 秒以内に調整スイッチ③をいずれかの方向に押します（このときは助手席側ドアミラーは動きません）。

助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

▶ 調整スイッチ③で、走行時の角度に助手席側ドアミラーを調整します。

! 走行する前に、必ずドアミラーの角度を後方が十分確認できるように調整してください。

ⓘ 助手席側ドアミラーが記憶された角度になっているときに、助手席側ドアミラーの角度を調整すると、調整した角度が新たに記憶されます。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ **けがのおそれがあります**

- シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。
- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更やブレーキをかけたとき、追突したときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷41 ページ）をご覧ください。
- 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。

- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。

⚠ **けがのおそれがあります**

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や追突時に致命的なけがをするおそれがあります。

シートベルトについては（▷32 ページ）もご覧ください。

① プレート
② 解除ボタン
③ バックル

シートベルトを着用する

▶ プレート ① を持ってシートベルトをゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトを肩の中央にかけます。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、プレート ① の先端をバックル ③ に差し込みます。

▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

また、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっていることを確認します。

フロントシートは、シートベルトの高さを調整します。

必要に応じてシート位置（▷74 ページ）を調整して、ベルトを身体に密着させせます。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート ① を持ち、バックル ③ の解除ボタン ② を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトが以下のようなときは、機能が十分に発揮されずに致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇ シートベルトが損傷しているとき
  - ◇ 事故などでシートベルトが大きな衝撃を受けたとき
  - ◇ シートベルトを改造・分解したとき
- 鋭利な部分の上にシートベルトを通さないでください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトがドアやシートレールに挟まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない
- シートベルトに損傷がないか、定期的に点検してください。
- シートベルトを改造したり分解しないでください。
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。

シートベルトの高さ調整

① ロック解除ボタン
② アンカー

フロントシートベルトは、高さを 3 段階に調整することができます。

シートベルトが首に当たったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。

シートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、アンカー②をそのまま上げます。

▶ 下げるときは、ロック解除ボタン①を押しながらアンカー②を下げます。

調整後はアンカーが確実にロックしていることを確認してください。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

- ヘッドレストの中央が目の高さにある
- バックレストはできるだけ垂直にする
- 背中はバックレストに密着させる
- シートベルトが正しく着用できる
- ペダルが楽に踏み込める
- ステアリングが楽に操作できる

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。

運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

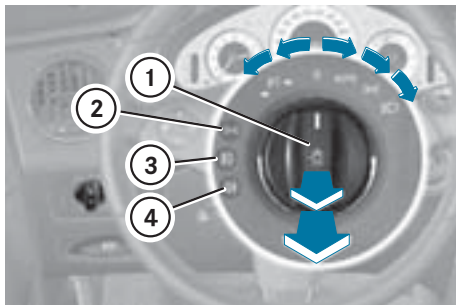
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

! シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

! シートの一部が他の乗員や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

! 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

ランプ

ランプスイッチ

左ハンドル車
① ランプスイッチ
② 車幅灯表示灯
③ フロントフォグランプ表示灯
④ リアフォグランプ表示灯

位置	作動内容
←P≶	左側パーキングランプが点灯
P≶→	右側パーキングランプが点灯
0	消灯
AUTO	オートモード
≶00≶	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプ、メーターパネル、スイッチなどの照明が点灯
≣D	ヘッドランプが点灯

! エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

i ヘッドランプが点灯しているときに、エンジンを停止するか、イグニッション位置を **1** にすると、ヘッドランプは消灯します。

さらにイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

i ランプスイッチが ≶00≶ の位置のとき、エンジンスイッチにキーが差し込まれていない状態やキーレスゴー操作でイグニッション位置を **0** にしている状態で運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ライト ヲ ケシテ クダサイ!" と表示されます。

車幅灯

車幅灯を点灯する

▶ ランプスイッチを ≶00≶ の位置にします。

車幅灯表示灯 ② が点灯します。

ヘッドランプ

ヘッドランプを点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ランプスイッチを ≣D の位置にします。

ヘッドランプが点灯し、メーターパネルのヘッドランプ表示灯 ≣D が点灯します。

オートモード

周囲が暗いとき、車外ランプが自動的に点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプのオートモードは運転者を支援する機能です。

以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。

- 霧の中を走行するとき
- 対向車のランプなどにより、センサーが正常に作動しないとき

⚠ **事故のおそれがあります**

ランプスイッチを AUTO から の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

オートモードにする

▶ ランプスイッチを AUTO の位置にします。

周囲が暗いとき、イグニッション位置を **1** にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプ、メーターパネル、スイッチの照明などが自動的に点灯して、車幅灯表示灯 ② が点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも点灯します。

ℹ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサー部にステッカーなどを貼付すると、オートモードが作動しなくなります。

ℹ ランプスイッチが AUTO の位置のときは、トンネルなどの暗い場所や悪天候時などに、ランプが自動的に点灯することがあります。

フロントフォグランプ / リアフォグランプ

⚠ **事故のおそれがあります**

- ランプスイッチが AUTO の位置のときは、フォグランプを点灯することはできません。霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを の位置にしてヘッドランプを点灯してください。
- 霧の中を走行するときにオートモードにしていると、ランプが自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。霧の中を走行するときは、手動でランプを点灯してください。

! フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ランプスイッチを または の位置にします。

車両の操作

フロントフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチを 1 段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯 ③ が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチを 2 段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯 ③ とリアフォグランプ表示灯 ④ が点灯します。

フォグランプを消灯する

▶ ランプスイッチをいっぱいまで押し込みます。

パーキングランプ

暗がりでの駐車時に自車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

イグニッション位置が **0** のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチを P⋦→ の位置にします。

右側のパーキングランプが点灯します。

または

▶ ランプスイッチを ←P⋦ の位置にします。

左側のパーキングランプが点灯します。

車外ランプ残照機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約 15 秒経過すると消灯します。

この機能の設定と解除については（▷142 ページ）をご覧ください。

車外ランプ残照機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後に、イグニッション位置を **2** にします。

ℹ エンジンを停止してからドアやトランクを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後に、ランプは消灯します。

ℹ この機能は、エンジンを停止してから約 60 秒経過すると作動しなくなります。約 60 秒以内ならドアやトランクを開くたびにランプが点灯します。

ヘッドランプの上向き / 下向きの切り替え

① 上向き
② パッシング
③ 下向き

ヘッドランプを上向きにする

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします。

ヘッドランプが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

ヘッドランプを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを ③ の位置にします。

パッシング

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときに、コンビネーションスイッチを ② の方向に引きます。

引いている間、ヘッドランプが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと ③ の位置に戻ります。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きで点灯しないでください。

方向指示

① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点滅させることができます。

▶ コンビネーションスイッチを ① または ② の方向に操作します。

操作した側の方向指示灯が点滅します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ℹ コンビネーションスイッチを ① または ② の方向に軽く操作すると、方向指示灯が 3 回点滅します。

ℹ 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯が点滅します。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯は、エンジンスイッチからキーを抜いているときも点滅させることができます。

① 非常点滅灯スイッチ

非常点滅灯を使用する

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

すべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネルの方向指示表示灯も同時に点滅します。

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ ① を押すと、非常点滅灯が消灯します。

! 非常時以外は使用しないでください。

! エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

i 非常点滅灯を使用しているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

i エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

i 約 70km/h 以上で走行中に急ブレーキを効かせて停止したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、走行速度が約 10km/h 以上になると自動的に消灯します。

ヘッドランプウォッシャー

エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを約 5 回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。

i エンジンを停止するか、ヘッドランプを消灯させると、ウインドウウォッシャーを作動させた回数はリセットされます。

i 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

! ヘッドランプは樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

コーナリングランプ *

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっていて、走行速度が約 40km/h 以下のとき
- ヘッドランプが点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

方向指示灯を点滅させると、点滅させた側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが **R** に入っているときは、フロントフォグランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

ステアリングを操作すると、操作した側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが **R** に入っているときは、ステアリングを操作した側と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

ⓘ 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のフロントフォグランプが点灯します。

ⓘ フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のフロントフォグランプが点灯することがあります。

ⓘ 点灯したフロントフォグランプは、約 3 分後に自動的に消灯します。

ルームランプ

① フロント読書灯（左側）スイッチ
② 点灯モード選択スイッチ
③ リアルームランプスイッチ
④ フロント読書灯（右側）スイッチ
⑤ フロントルームランプ手動点灯スイッチ
⑥ フロントルームランプ
⑦ フロント読書灯（右側）
⑧ フロント読書灯（左側）

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ②が押されていない状態にします。

周囲が暗いときに以下の操作をするとフロント / リアルームランプが点灯 / 消灯します。

- フロントドアを開くとフロントルームランプが点灯し、リアドアを開くとリアルームランプ（▷97 ページ）が点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを閉じると消灯します。

  ドアを開いたままのときは消灯しません。

  ◇イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときは、ドアを閉じると約 10 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは約 5 分後に消灯します。

- ルームランプ消灯遅延機能（▷143 ページ）を設定しているときは、エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約 10 秒後に消灯します。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

i 点灯しているルームランプや読書灯などは、リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠すると、数秒後に自動的に消灯します。

常時消灯モードにする

▶ スイッチ②が押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- ドアを開く
- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠する

ルームランプ（フロント）

フロントルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ スイッチ⑤を押します。

フロントルームランプ⑥が点灯 / 消灯します。

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ スイッチ①④を押します。

フロント読書灯⑦⑧が点灯 / 消灯します。

アンビエントランプの明るさを調整する

⑨ アンビエントランプ

周囲が暗いときに車幅灯に連動して点灯 / 消灯します。

▶ マルチファンクションディスプレイで調整します（▷142 ページ）。

5 段階の照度に、または常時消灯に設定できます。

ルームランプ（リア）

① リア読書灯（左側）スイッチ
② リア読書灯（左側）
③ リア読書灯（右側）
④ リア読書灯（右側）スイッチ
⑤ リアルームランプ

リアルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ リアルームランプスイッチ（▷95 ページ）を押します。

リアルームランプ⑤が点灯 / 消灯します。

リア読書灯を点灯 / 消灯する

▶ スイッチ①④を押します。

リア読書灯②③が点灯 / 消灯します。

センターコンソールランプ

① センターコンソールランプ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点灯し、センターコンソールを照らします。

フットウェルランプ

フロントおよびリアの足元にあり、乗降時に足元を照らします。

ルームランプの点灯モードに関係なく周囲が暗いときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- フロントまたはリアのルームランプを点灯すると、フットウェルランプが点灯します。
- イグニッション位置を **2** にすると低い照度で点灯します。
  - ◇イグニッション位置を **1** か **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜くと約 7 秒後に消灯します。
- ドアを開くと明るく点灯します。
  - ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを閉じると減光します。

    ドアを開いたままのときは消灯しません。
  - ◇イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはエンジンスイッチからキーを抜いているときは、ドアを閉じると減光し、約 7 秒後に消灯します。

    ドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

ドアレバーランプ

左側フロントドア（左ハンドル車）
① ドアレバーランプ

車幅灯が点灯したときに点灯し、ドアレバー周辺を照らします。

車幅灯が消灯したときは、約 5 分後に消灯します。

乗降用ランプ / ドア赤色灯

乗降用ランプはドアの下部にあり、乗降時に足元を照らします。ドア赤色灯はドアの側部にあり、後続車や歩行者に注意を促します。

ルームランプが自動点灯モード（▷96 ページ）になっていて、周囲が暗いときにドアを開くと点灯し、ドアを閉じると消灯します。

イグニッション位置が **2** のときは、ドアを開いたままにすると消灯しません。

イグニッション位置が **2** 以外のときは、ドアを開いたままにすると約 5 分後に消灯します。

ワイパー

左ハンドル車
① ティップ機能 /
ウインドウウォッシャーの噴射
② ワイパー作動モードのマーク

ワイパーを作動させる

イグニッション位置が **1** か **2** のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチをまわしてワイパー作動モードのマーク ② を ••• ～ ☰ に合わせます。

ワイパーを 1 回だけ作動させる

▶ コンビネーションスイッチを ① の方向に軽く押します。

ウォッシャー液が噴射せずに、ワイパーが 1 回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

位置	作動内容
0	停止
•••	間欠モードⅠ (停止～高速)
••••	間欠モードⅡ (停止～高速) 間欠モードⅠよりも少ない雨滴量でワイパーが作動します。
━	低速モード 停車時やごく低速での走行時の作動は、雨滴量により自動調整されます。
☰	高速モード 停車時やごく低速での走行時は、低速モードでの作動になります。

ℹ 間欠モードは、フロントウインドウのレインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。

ℹ 間欠モードのとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは作動しません。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- セレクターレバーが **P** または **N** に入っている場合は、フロントドアを閉じてセレクターレバーを **D** または **R** に入れたとき
- セレクターレバーが **D** または **R** に入っている場合は、フロントドアを閉じたとき

ⓘ ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを 0 の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。

! フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。

フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してから使用してください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを 0 の位置に戻してください。コンビネーションスイッチが ━ ～ ☰ の位置のままイグニッション位置を **1** にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! イグニッション位置が **1** か **2** のときにコンビネーションスイッチを ··· か ···· の位置にすると、フロントウインドウが乾いていても、ワイパーが 1 回作動します。

! ワイパーを使用する必要がないときは、必ずコンビネーションスイッチを 0 の位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の乱反射などでレインセンサーが誤作動し、フロントウインドウが濡れていないときでもワイパーが作動することがあります。

! 寒冷時にはワイパーがガラスに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

レインセンサー

③ レインセンサー

フロントウインドウの図の位置にレインセンサーがあります。

! レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

フロントウインドウウォッシャーの噴射

イグニッション位置が **1** か **2** のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチを②の方向にいっぱいまで押し続けます。

その間ウインドウウォッシャー液が噴射して、ワイパーも作動します。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

i 純正ウインドウウォッシャーには油膜や汚れの付着を防ぐ効果があります。

i 冬季にはウインドウウォッシャー液の濃度に注意し、冬用のウインドウウォッシャー液を使用してください。

i エンジンがかかっていて、ヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを約 5 回噴射すると、ヘッドランプウォッシャーが噴射されます。

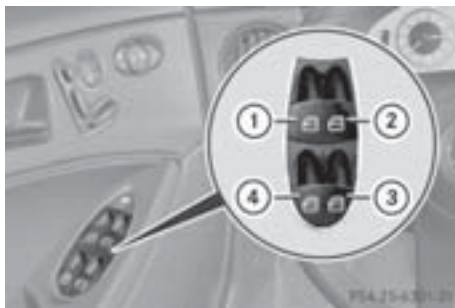
パワーウインドウ

ドアウインドウの開閉

⚠ **けがのおそれがあります**

- ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。
- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

  また、車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。
- 子供が車内からドアやドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

  子供を乗せるときは、リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。

運転席ドアのスイッチ（左ハンドル車）
① 左フロントドアウインドウスイッチ
② 右フロントドアウインドウスイッチ
③ 右リアドアウインドウスイッチ
④ 左リアドアウインドウスイッチ

パワーウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウのスイッチがあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに開閉できます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

ⓘ PRE-SAFE（▷40 ページ）が作動したときは、ドアウインドウが自動で閉じ、わずかに開いた状態で停止します。

ⓘ リモコン操作でドアウインドウを開くことができます（▷103 ページ）。

ⓘ リモコン操作またはキーレスゴー操作でドアウインドウを閉じることができます（▷104 ページ）。

ⓘ 運転席ドアのチャイルドプルーフロックスイッチで、リアドアにあるリアドアウインドウスイッチを操作できなくすることができます（▷47 ページ）。

ⓘ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウを開閉できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。

ⓘ ドアウインドウが自動で開閉しているときにドアウインドウスイッチを操作すると、ドアウインドウはその位置で停止します。

ⓘ 運転席ドアのスイッチで他のドアウインドウを開閉しているときは、助手席ドアやリアドアのスイッチで開閉中のドアウインドウを操作することはできません。

! 車から離れるときや洗車のときは、すべてのドアウインドウが完全に閉じていることを確認してください。

挟み込み防止機能

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

その状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウはより強い力で閉じます。このときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

さらに、この状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、その位置から少し下降します。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してからただちに再度ドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなり、挟み込み防止機能も作動しなくなります。

! 挟み込み防止機能には挟み込みを感知しない範囲があります。ドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コンビニエンスオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフ * を開くことができます。

ℹ コンビニエンスクロージング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。

左ハンドル車
① ドアハンドル
② 解錠ボタン

▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドル ① に向けて、解錠ボタン ② を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフ * が開きます。

解錠ボタン ② から指を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフ * はその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! リモコン操作でドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは操作はできません。

コンビニエンスクロージング機能

リモコン操作またはキーレスゴー操作により、車外からドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じることができます。

車から降りた後に、ドアウインドウなどを閉じたいときに使用します。

! コンビニエンスクロージング機能でドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下で操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動することがあります。

! 車から離れる前に、すべてのドアウインドウとスライディングルーフ * が閉じていることを確認してください。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは操作はできません。

リモコン操作による作動

左ハンドル車
① ドアハンドル
② 施錠ボタン

▶ キーの発信部を運転席ドアのドアハンドル ① に向けて、施錠ボタン ② を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフ * が閉じます。

施錠ボタン ② から指を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフ * はその位置で停止します。

⚠ **けがのおそれがあります**

ドアウインドウやスライディングルーフ * などを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタンから手を放し、解錠ボタンを押し続けて、ドアウインドウとスライディングルーフ * を開いてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーレスゴー操作による作動

左ハンドル車
③ キーレスゴースイッチ

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ ③ を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフ * が閉じます。

キーレスゴースイッチ ③ から指を放すと、作動中のドアウインドウやスライディングルーフ * はその位置で停止します。

⚠ **けがのおそれがあります**

ドアウインドウやスライディングルーフ * などを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、ただちにキーレスゴースイッチから指を放し、ドアハンドルを引き続けてください。ドアウインドウとスライディングルーフ * が開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ **中毒のおそれがあります**

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンはセレクターレバーが **N** に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを **P** に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

シフト位置

シフト位置（左ハンドル車）

P	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
R	後退するときの位置
N	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。
D	走行するときの位置 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

キーレスゴーによるエンジンの始動

▶ 車室内にキーがあることを確認します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押します。

! エンジン始動後は、キーを携帯した人が車から離れても、エンジンは停止しません。車から離れるときは、短時間でも必ずエンジンを停止して、車を施錠してください。盗難のおそれがあります。

! エンジン始動後にキーを車外に持ち出して、ドアを閉じるか走行を開始すると、マルチファンクションディスプレイが赤くなり、"ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ" と数秒間表示されます。

この状態でエンジンを停止するとエンジンは再始動できません。また、車を施錠することもできません。走行前には必ずキーを携帯していることを確認してください。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

キーによるエンジンの始動

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

タッチスタート機能

セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押すか、エンジンスイッチを **3** の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

発進

! セレクターレバーを **R** に入れるときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

! CLS 63 AMG では、エンジン冷却水が約 20℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。

ⓘ 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷145 ページ）をご覧ください。

ⓘ イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを **P** から動かすことはできません。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを **D** または **R** に入れます。

ⓘ ギアが完全に切り替わるのを待ってください。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

⚠ 事故のおそれがあります

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

! 急な坂道で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

ⓘ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

駐車

⚠ 事故のおそれがあります

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、セレクターレバーを **P** に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

⚠ **火災のおそれがあります**

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じて、車を施錠してください。

パーキングブレーキ

⚠ **事故のおそれがあります**

- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

⚠ **火災のおそれがあります**

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

左ハンドル車
① 解除ハンドル
② パーキングブレーキペダル
③ ブレーキペダル

パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダル ③ をいっぱいまで踏みます。

▶ 解除ハンドル ① を手前に引きます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が消灯します。

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル ③ を踏み、左足でパーキングブレーキペダル ② をいっぱいまで踏み込みます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が点灯します。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

i パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エンジンの停止

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

! セレクターレバーが P 以外に入っているときもエンジンを停止できますが、必ずパーキングブレーキを効かせて、セレクターレバーを P に入れてください。

エンジンスイッチに差し込まれたキーによる操作

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。

▶ キーをまわして、イグニッション位置を **0** にします。

エンジンが停止します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

セレクターレバーのキーレスゴースイッチによる操作

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。

▶ キーレスゴースイッチを押して、エンジンを停止します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押すとエンジンが停止します。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になりますので、走行中はエンジンを停止しないでください。

ⓘ 走行中にキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、セレクターレバーを N に入れて再度キーレスゴースイッチを押すとエンジンが始動します。

ⓘ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

オートマチックトランスミッション

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

停車中は、必ずパーキングブレーキを効かせてください。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

オートマチックトランスミッションは、運転スタイルや走行状態に合わせて自動的にギアを変速します。

運転スタイルや走行状態が変わったときは、それに合わせて変速制御を行ないます。

シフト位置の選択

① セレクターレバー

▶ セレクターレバー ① を動かして、シフト位置を選択します。

! シフト位置を選択するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んでください。

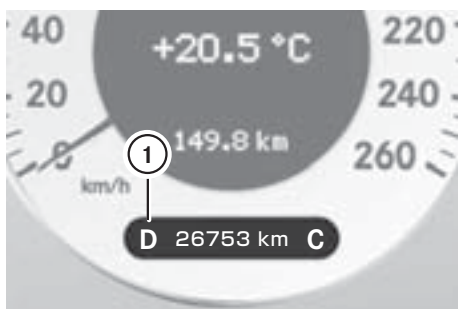
ℹ イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいないときは、セレクターレバーを **P** から動かすことができません。

シフト位置

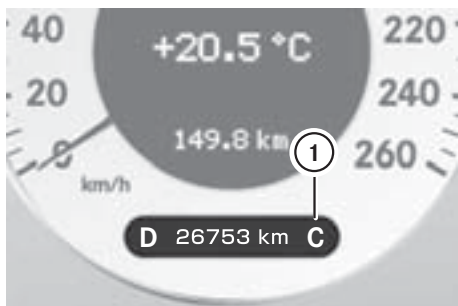
	シフト位置	作動内容
②	**P**	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
③	**R**	後退するときの位置
④	**N**	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。
⑤	**D**	走行するときの位置 1 速 ～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中はセレクターレバーを **N** に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こすおそれがあります。また、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

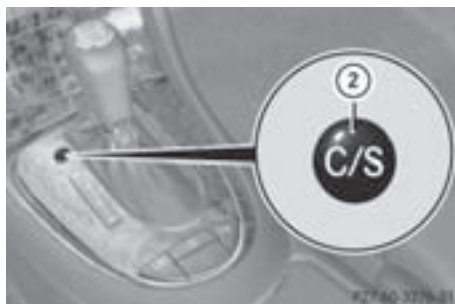
シフト位置表示

① シフト位置表示

イグニッション位置を **2** にすると、マルチファンクションディスプレイ下部に、シフト位置表示 ① が表示されます。

走行モード

① 走行モード表示

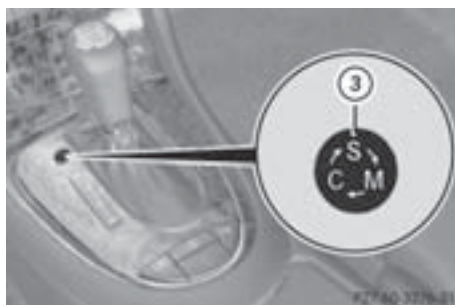
路面状況や運転に合わせて、オートマチックトランスミッションのギアの変速特性を選択できます。

イグニッション位置を **2** にすると、マルチファンクションディスプレイ下部に、走行モード表示 ① が表示されます。

走行モードの選択（マニュアルギアシフト非装備車）

② 走行モード選択スイッチ

▶ 走行モード選択スイッチ②を押します。

C モード→ S モード→ C モードと切り替わります。

走行モードの選択（マニュアルギアシフト装備車）

③ 走行モード選択スイッチ

▶ 走行モード選択スイッチ③を押します。

C モード→ S モード→ M モード→ C モードと切り替わります。

走行モード	作動内容
C モード	快適性と経済性を重視した走行に適しています。
S モード	スポーティな走行に適しています。
M モード *	マニュアルでギアシフトすることができます。 詳しくは（▷104 ページ）をご覧ください。

⚠ **事故のおそれがあります**

選択したモードにより変速特性が変わります。必ず路面の状況に合ったモードを選択してください。

ℹ エンジンを停止すると、選択した走行モードに関わらず、次にエンジンを始動したときは C モードになります。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより、不必要なシフトアップを抑えます。

走行モードが C モードか S モードのときにティップシフトにできます。

⚠ **事故のおそれがあります**

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。また、駆動輪が空転すると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

① ギアレンジ表示

マルチファンクションディスプレイ下部のギアレンジ表示 ① に、選択したギアレンジが表示されます。

ℹ ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ギアレンジ	作動内容
D	1速～7速の範囲で自動的に変速します。
6	1速～6速の範囲で自動的に変速します。
5	1速～5速の範囲で自動的に変速します。
4	1速～4速の範囲で自動的に変速します。
3	1速～3速の範囲で自動的に変速します。 緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
2	1速～2速の範囲で自動的に変速します。 急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
1	1速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。

ⓘ 加速時にエンジン回転数が許容回転数を超えるようなときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。

ⓘ エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。

ⓘ ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数により異なります。

セレクターレバーによる操作

② 低いギアレンジを選択
③ 高いギアレンジを選択

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D に入っているときに、セレクターレバーを ② 側に操作します。

ティップシフトになり、ギアレンジ表示 ① に選択されたギアレンジが表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを ② 側に操作します。

高いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを ③ 側に操作します。

ティップシフトを解除する

▶ セレクターレバーを ③ 側に操作して保持します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示 ① に "D" が表示されます。

ⓘ セレクターレバーを ② 側に操作して保持すると、そのときの加速や減速に最も適したギアレンジが選択されます。

ティップシフトにしていないときにセレクターレバーを ③ 側に操作すると、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

パドルによる操作 *

④ 左側パドル（低いギアレンジを選択）
⑤ 右側パドル（高いギアレンジを選択）

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが **D** に入っているときに、左側パドル④を引きます。

ティップシフトになり、ギアレンジ表示 ① に選択されたギアレンジが表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側パドル ④ を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側パドル ⑤ を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側パドル ⑤ を引いて保持します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示 ① に "D" が表示されます。

ティップシフトにしていないときに、右側のパドル⑤を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

CLS 350 AMG スポーツパッケージ、CLS 550 AMG スポーツパッケージでは、右側のパドルには " + "、左側のパドルには "–" の表示があります。

CLS 63 AMG では、右側のパドルには "UP"、左側のパドルには "DOWN" の表示があります。

マニュアルギアシフト *

セレクターレバーまたはパドルを操作して、マニュアルでギアを選択できます。

⚠ 事故のおそれがあります

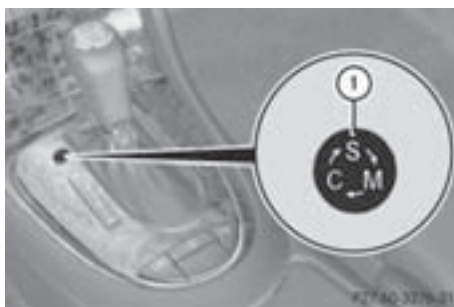
滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。また、駆動輪が空転すると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

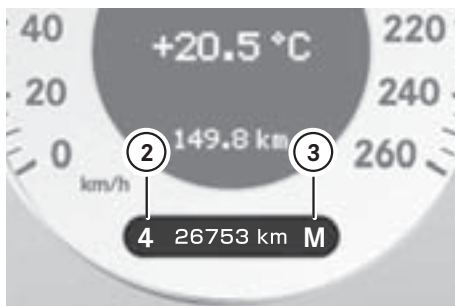
マニュアルギアシフトでは、ESP の機能を解除しないで走行することをお勧めします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ エンジンが暖まっていないときは、ギアシフト操作を行なっても、選択したギアに変速しないことがあります。

マニュアルギアシフトの選択

① 走行モード選択スイッチ

マニュアルギアシフトを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、走行モード表示③に "M" を表示させせます。

② ギア表示
③ 走行モード表示

ギア表示②には選択されているギアが表示されます。

ℹ マニュアルギアシフトを選択した状態でエンジンを停止すると、エンジン再始動時にはオートマチックギアシフトに切り替わります。

ℹ マニュアルギアシフトではギア表示②に表示される数字は実際のギアを示しています。運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ * / ダウンに応じてギア表示②に表示される数字も変わります。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、S モードか C モードを選択します。

セレクターレバーによるシフト操作

④ シフトダウン
⑤ シフトアップ

シフトダウンする

▶ セレクターレバーを④の方向に操作します。

シフトアップする

▶ セレクターレバーを⑤の方向に操作します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パドルによるシフト操作

⑥ 左側パドル（シフトダウン）
⑦ 右側パドル（シフトアップ）

シフトダウンする

▶ 左側のパドル⑥を引きます。

シフトアップする

▶ 右側のパドル⑦を引きます。

ℹ シフトダウン操作をしなくても、速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。

ℹ CLS 350 AMG スポーツパッケージ、CLS 550 AMG スポーツパッケージでは、エンジン回転数が上昇しレッドゾーンに近付くと、シフトアップ操作をしなくても自動的にシフトアップされます。このとき、ギア表示の数字も変わります。

ℹ シフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

ℹ 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。

ℹ 停車すると、ギアは 1 速にシフトされます。

ℹ CLS 350 スポーツパッケージ、CLS 550 スポーツパッケージでは、キックダウンを行なうことができます。

また、キックダウンしているときは、シフト操作はできません。

ℹ CLS 63 AMG では、キックダウンを行なうことはできません。

ℹ CLS 350 スポーツパッケージ、CLS 550 スポーツパッケージでは、右側のパドルには " ＋ "、左側のパドルには "–" の表示があります。

ℹ CLS 63 AMG では、右側のパドルには "UP"、左側のパドルには "DOWN" の表示があります。

ℹ セレクターレバーを左側に操作して保持するか、左側のパドルを引いて保持すると、そのときの加速に最も適したギアが選択されます。

シフトアップ表示（CLS 63 AMG）

⑧ ギア表示
⑨ "up" マーク
⑩ シフトアップマーク

エンジン回転数が上昇し、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイの表示が赤くなり、ギア表示⑧と "up" マーク⑨が表示されます。

また、シフトアップマーク⑩も表示されます。

必要に応じてシフトアップ操作を行なってください。

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

停車する

▶ 一時的に停車するときは、セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

▶ やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

⚠ **事故のおそれがあります**

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

! 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。

! 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象で車が動かないようにしてください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷25 ページ）をご覧ください。

⚠ 事故のおそれがあります

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

マルチファンクションディスプレイの表示

各種設定画面や故障 / 警告メッセージなどを表示します。

マルチファンクションディスプレイは以下のときに点灯します。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき（約 30 秒後に消灯）
- リセットボタンを押したとき（約 30 秒後に消灯）
- イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき（イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約 30 秒後に消灯）
- 車外ランプを点灯させたとき

詳しくは（▷121 ページ）をご覧ください。

メーター照度調節ボタン / リセットボタン

メーター照度調節ボタン

メーターパネルが点灯しているときに明るさを調節できます。

ボタンを時計回りにまわすと明るくなり、反時計回りにまわすと暗くなります。

リセットボタン

トリップメーターや各種設定をリセットするときに使用します。

オドメーター

これまでに走行した距離の総合計を表示します。

冷却水温度計

冷却水の温度をバーグラフで表示します。

! 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃までオーバーヒートを起こしません。

! 暑い日の渋滞時や上り坂が続くときなどに、120℃付近を示すことがありますが、オーバーヒート警告が表示されない限り、問題ありません。

! 万一、オーバーヒートが起きたときは、警告灯が点灯します。

冷却水警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジンがかかっているときに点灯したときは、冷却水量が減少しています。安全な場所に停車してエンジンを停止し、冷却水が冷えてから、冷却水量を点検してください。

警告灯が点灯し、警告音が鳴ったときは、冷却水温度が約 120℃以上になり、オーバーヒートしています。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して冷却してください。

詳しくは、オーバーヒートしたとき（▷222 ページ）をご覧ください。

燃料計

燃料の残量をバーグラフで表示します。

燃料タンク容量は約 80 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは燃料の残量が少なくなっています。

警告灯が点灯したときの残量は約 9 リットル（CLS 63 AMG は約 14 リットル）です。

i 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

i 車種や仕様により、燃料残量が少ないときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾈﾝﾘｮｳﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕｼﾃｸﾀﾞｻｲ " と表示されることがあります。

時計

時刻の調整については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

スピードメーター

車の走行速度を km/h で表示します。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

環　境

必要以上にエンジン回転数を上げて走行しないでください。燃料を不必要に消費し、大気汚染の原因になります。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションステアリング

マルチファンクションディスプレイは、故障 / 警告メッセージや各種情報などを表示・設定するシステムです。

マルチファンクションディスプレイは、スピードメーター内にあります。

マルチファンクションディスプレイの操作は、ステアリングのスイッチで行ないます。

 事故のおそれがあります

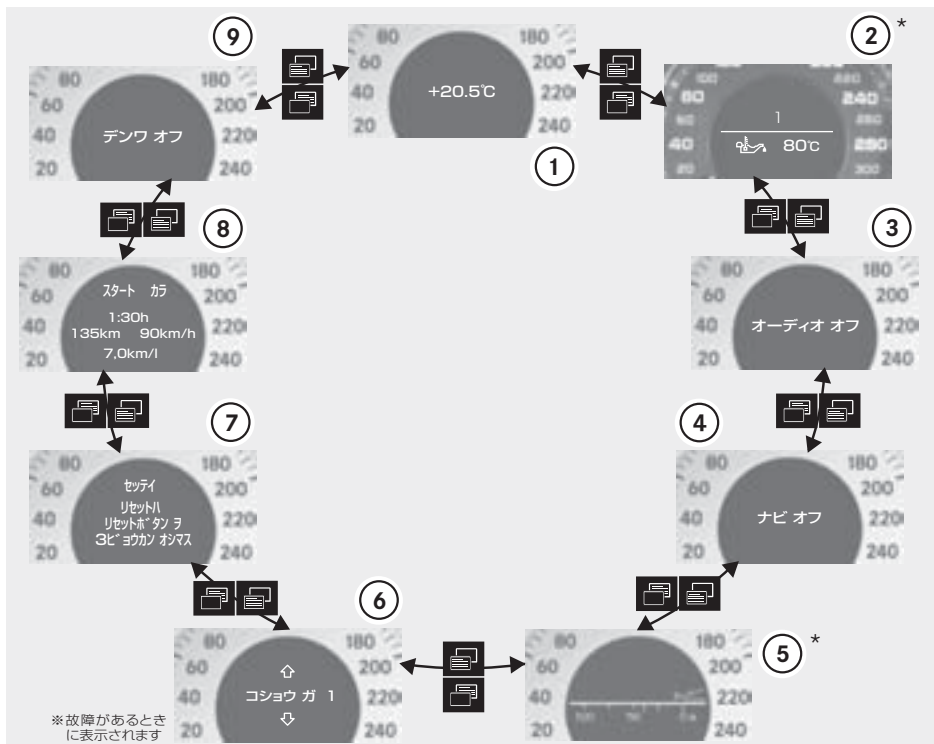
マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

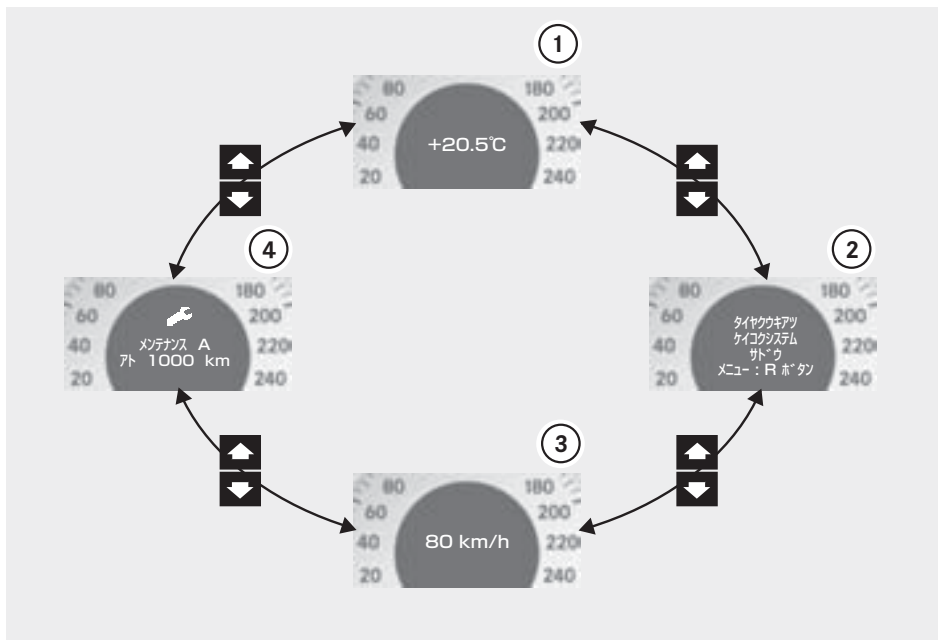
 事故のおそれがあります

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	**設定スイッチ / 音量スイッチ** 各種設定の設定グループ選択画面でグループを選択します。また、設定項目画面で数値や設定を変更したり、機能のオン / オフを選択します。 各メイン画面とオーディオ画面表示中に操作すると、音量を調節できます。 CLS 63 AMG では、レースタイマーが操作できます（▷127 ページ）。 **通話開始スイッチ / 通話終了スイッチ** 電話を受信 / 保留 / 切断できます。
③	**表示切り替えスイッチ** メイン画面を選択します。 **スクロールスイッチ** 選択したメイン画面内の各画面を切り替えます。

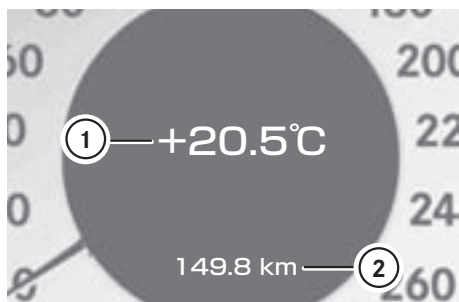
ⓘ 電話の操作については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

メイン画面一覧

①	車両情報	123
②	AMG 表示 *	126
③	オーディオ	130
④	ナビ	132
⑤	車間距離表示 *	132
⑥	故障表示	133
⑦	各種設定	134
⑧	トリップコンピューター	150
⑨	電話	153

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報

①	車両情報メイン画面（外気温度表示 / 走行速度表示、トリップメーター）	124
②	タイヤ空気圧警告システム画面	230
③	走行速度 / 外気温度表示画面	125
④	メンテナンスインジケーター画面	240

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報メイン画面（外気温度表示 / 走行速度表示、トリップメーター ）

① 外気温度表示 / 走行速度表示
② トリップメーター

車両情報メイン画面を表示させる

▶ 　 または 　 を押して、車両情報メイン画面を表示させせます。

外気温度表示 / 走行速度表示

車両情報メイン画面には、外気温度または走行速度が表示されます。

表示の切り替えは各種設定の " メータークラスタ " の " 車両情報メイン画面の表示設定画面 "（▷139 ページ）で行ないます。

⚠ 事故のおそれがあります

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

! 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

i 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

トリップメーター

リセット後の走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0 に戻す）

▶ リセットボタン（▷118 ページ）を、表示が 0.0 になるまで押し続けます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行速度 / 外気温度表示画面

① 走行速度 / 外気温度表示
② ディスプレイ下段の表示

走行速度 / 外気温度表示①は、走行速度または外気温度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の " メータークラスタ " の " 車両情報メイン画面の表示設定画面 "（▷139 ページ）で行ないます。

走行速度 / 外気温度表示画面を表示させる

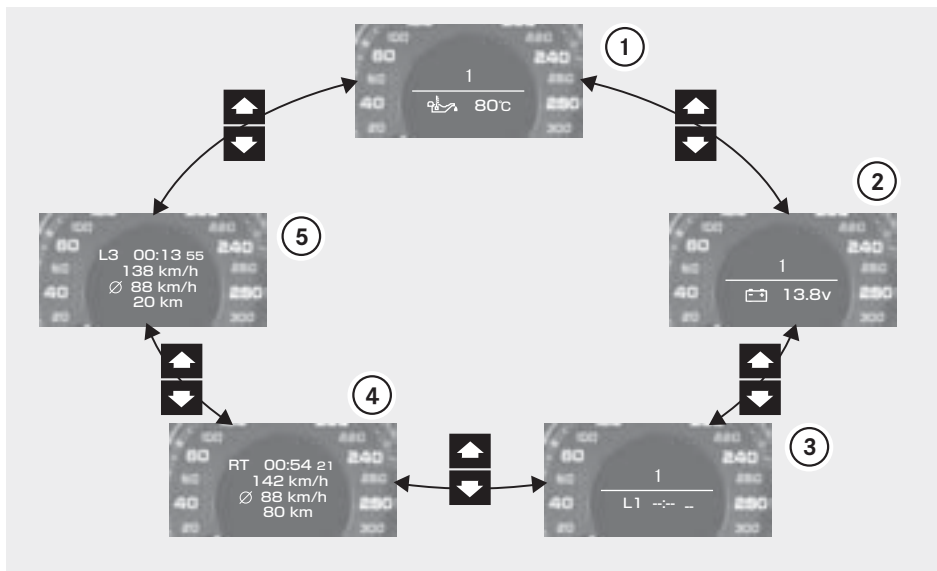
▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます（▷113 ページ）。

▶ [▲] または [▼] を押して、走行速度 / 外気温度表示画面を表示させます。

ディスプレイ下段の表示②は、外気温度または走行速度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の " メータークラスタ " の " ディスプレイ下段の表示設定画面 "（▷139 ページ）で行ないます。

ⓘ マルチファンクションディスプレイの走行速度の表示単位を km/h または mph に切り替えることができます（▷138 ページ）。

ⓘ " ディスプレイ下段の表示設定画面 "（▷139 ページ）の設定によっては、走行速度表示画面または外気温度表示画面を表示させたときに、ディスプレイ下段の表示②は表示されません。

AMG 表示 *

①	ギア表示・油温表示画面	
②	ギア表示・電圧表示画面	127
③	ギア表示・レースタイマー画面	127
④	計測結果表示画面（全ラップ）	129
⑤	計測結果表示画面（ラップ別）	129

※ AMG 表示は、CLS 63 AMG のみで表示されます。

ギア表示・油温表示画面

① ギア表示
② 油温表示

ギア表示・油温表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます。

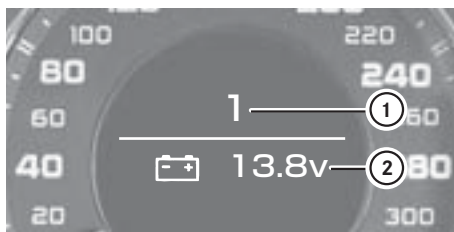
ギア表示①は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

油温表示②は、エンジンオイルの油温を表示します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

❗ 油温表示が点滅しているときは、エンジンオイルが温まっていません（油温が約 80℃未満になっています）。このときはエンジン回転数を必要以上に上げないように運転してください。

ℹ イグニッション位置が **1** のときは、油温は表示されません。このときは " - - - ℃ " が表示されます。

ギア表示・電圧表示画面

① ギア表示
② 電圧表示

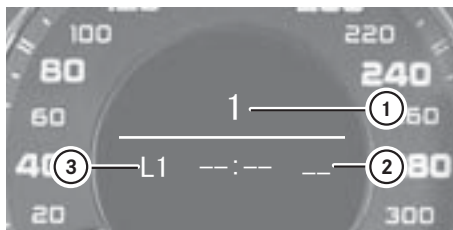
ギア表示①は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

電圧表示②は、バッテリーの電圧を表示します。

ギア表示・電圧表示画面を表示させる

▶ または を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます（▷126 ページ）。

または を押して、ギア表示・電圧表示画面を表示させます。

ギア表示・レースタイマー画面

① ギア表示
② 計測タイム
③ ラップ表示

ギア表示・レースタイマー画面では、サーキットコースなどで周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示できます。

レースタイマーは、イグニッション位置が **2** のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

ギア表示・レースタイマー画面を表示させる

▶ または を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます（▷126 ページ）。

▶ または を押して、ギア表示・レースタイマー画面を表示させます。

ℹ 計測タイムは 1 秒単位で表示されます。

ℹ ギア表示・レースタイマー画面を表示させているときは、＋ または − を押してオーディオなどの音量を調節することはできません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイム計測を開始する

▶ ＋ を押します。

タイム計測が開始されます。

タイム計測を停止する

▶ タイム計測中に ＋ を押します。

タイム計測が停止します。

ℹ タイム計測を停止しているときに ＋ を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

ℹ タイム計測中に、停車してイグニッション位置を **1** にすると、タイム計測が停止します。

その後、イグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動して ＋ を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

スプリットタイムを表示する

▶ タイム計測中に － を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

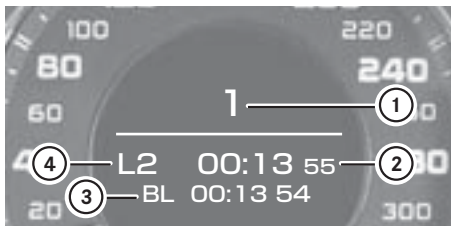
約 5 秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

ℹ スプリットタイムを表示しているときに再度 － を押すと、スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます。

計測したタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに － を押します。

計測タイムが消去され、表示が 00:00₀₀ に戻ります。

ラップタイムを記録する

① ギア表示
② 計測タイム
③ 最速ラップタイム
④ ラップ数

最大 9 件までの計測タイムをラップタイムとして記録できます。

▶ タイム計測中に － を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

ℹ このときから、次のラップタイムの計測が開始されます。

▶ スプリットタイムが表示されているときに、再度 － を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます。

ℹ ラップタイムが記録されているときは、計測タイム②の下に最速ラップタイム③が表示されます。

ℹ ラップタイムが 9 件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、記録したラップタイムを消去してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

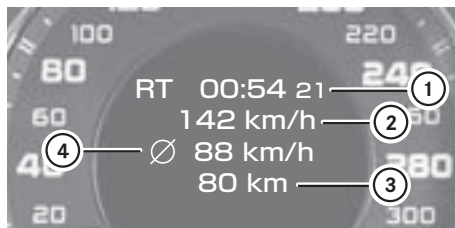
記録したラップタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに、リセットボタン（▷118 ページ）を 2 回押します。

記録したすべてのラップタイムが消去され、表示が 00:00 00 に戻ります。

ⓘ 記録したラップタイムを個別に消去することはできません。

ⓘ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約 30 秒経過すると、計測タイムとラップタイムは消去されます。

全ラップの計測結果を確認する

計測結果表示画面（全ラップ）
① 合計時間
② 計測した全ラップでの最高速度
③ 計測した全ラップの総走行距離
④ 計測した全ラップの平均速度

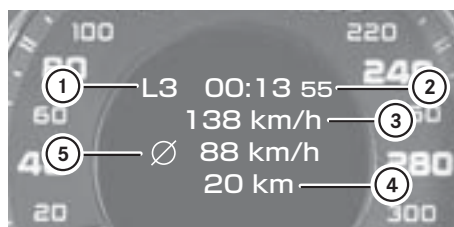
2 周以上のラップタイムが記録されているときは、タイム計測後に計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（全ラップ）を表示させる

▶ または を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます（▷126 ページ）。

▶ ▲ または ▼ を押して、計測結果表示画面（全ラップ）を表示させます。

ⓘ タイムを計測しているときは、全ラップの計測結果は確認できません。

ラップごとの計測結果を確認する

計測結果表示画面（ラップ別）
① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップでの最高速度
④ 表示されているラップの走行距離
⑤ 表示されているラップの平均速度

ラップタイムが記録されているときは、タイム計測後にラップごとの計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（ラップ別）を表示させる

▶ または を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます（▷126 ページ）。

▶ ▲ または ▼ を押して、表示させたいラップの計測結果表示画面（ラップ別）を選択します。

ⓘ 表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示①が点滅します。

ⓘ タイムを計測しているときは、ラップごとの計測結果は確認できません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

オーディオ

ラジオ局を選局する

①"FM1" または "FM2"
"AM1" または "AM2" または "TI"
②プリセット番号 /
ラジオ局名または受信周波数

COMAND システムで、FM ラジオまたは AM ラジオを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

ラジオ局をプリセット選局する

▶ [▲] または [▼] を押します。

プリセットされたラジオ局が選択されます。

ラジオ局を自動選局する

▶ [▲] または [▼] を押して保持します。

受信周波数が動き、次に受信できる周波数で停止します。

ℹ ラジオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

音楽を選曲する

①音楽ソース表示
("DISC" / "M.CARD" / "HDD" / "MEDIA" / "AUX")
②トラック番号 / トラック名

COMAND システムで、ディスクまたはメモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェース、外部入力のいずれかを再生しているときに表示・選曲できます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

▶ [▲] または [▼] を押します。

次の曲または前の曲が選曲されます。

ℹ 音楽再生の詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

ℹ 外部入力を再生しているときは、トラック番号 / トラック名 ② は表示されず、外部入力機器の操作はできません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

DVD ビデオのチャプターを選択する

① チャプター番号

COMAND システムで、DVD ビデオを再生しているときに表示・選択できます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオのメイン画面を表示させせます。

▶ [▲] または [▼] を押します。

次のチャプターまたは前のチャプターが再生されます。

ℹ DVD ビデオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

テレビ局を選局する

① "TV1" または "TV2"
② プリセット番号 / チャンネル番号

COMAND システムで、テレビを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオのメイン画面を表示させせます。

テレビ局をプリセット選局する

▶ [▲] または [▼] を押します。

プリセットされたテレビ局が選択されます。

テレビ局を自動選局する

▶ [▲] または [▼] を押して保持します。

受信チャンネルが動き、次に受信できるチャンネルで停止します。

ℹ テレビの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ナビ

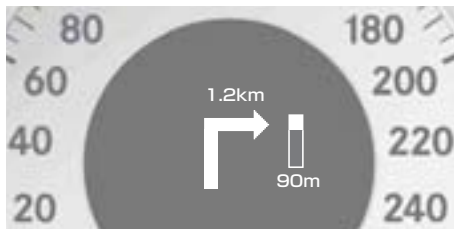
COMAND システムのナビ機能をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ナビのメイン画面を表示させる

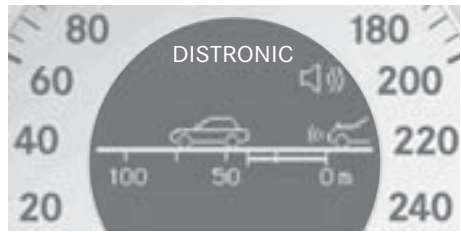
▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ナビのメイン画面を表示させます。

ルート案内を行なっていないとき

マルチファンクションディスプレイにに進行方向の方位が表示されます。

ルート案内を行なっているとき

マルチファンクションディスプレイに進行方向や交差点（分岐点）または通過点までの距離が表示されます。

ℹ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

車間距離表示 *

車間距離表示画面の例

先行車と自車とのおよその車間距離やディストロニック * の設定作動内容を表示します。

車間距離表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車間距離表示画面を表示させます。

詳しくは（▷160 ページ）をご覧ください。

ℹ 車間距離表示画面は、ディストロニック * を解除しているときも表示できます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障表示

①	故障件数画面 （この例では、3 件故障があります）
②	故障メッセージ画面の例

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

ℹ 故障がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障が起きたときは、故障メッセージ画面が自動的に表示されます。

ステアリングの ⊟ ⊟ や ▲ ▼、またはリセットボタンを押すと、故障メッセージが消えます。

故障メッセージを確認する

イグニッション位置が **1** か **2** のときに表示されます。

▶ ⊟ または ⊟ を押して、故障件数画面①を表示させせます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ ▲ または ▼ を押して、故障メッセージ画面②を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面①に戻ります。

故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障メッセージが表示されているときは、イグニッション位置を **0** にすると、故障メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にイグニッション位置を **1** か **2** にするか、エンジンを始動したとき、再び故障メッセージが表示されます。

! 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

! 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷254 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

①	各種設定メイン画面	134
②	設定グループ選択画面	134
③	各種設定項目の初期化画面	135
④	各種設定項目の初期化完了画面	136

! 設定の変更は必ず停車中に操作してください。

i 安全のため、走行中は設定を変更できない項目があります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定メイン画面

各種設定メイン画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に [▲] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、[▲] を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

設定項目画面を選択する

選択した設定項目画面の数値や設定を変更できます。

▶ [▲] または [▼] を押して、設定項目画面を選択します。

設定項目を選択する

▶ [＋] または [－] を押して、設定項目を選択したり、機能のオン／オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

各種設定項目の初期化

各種設定のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます。

▶ リセットボタン（▷118 ページ）を約 3 秒間押し続けます。

下記の初期化画面が表示されます。

初期化画面

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

初期化完了画面

▶ 初期化画面の表示中（約 5 秒以内）に、リセットボタンを押します。

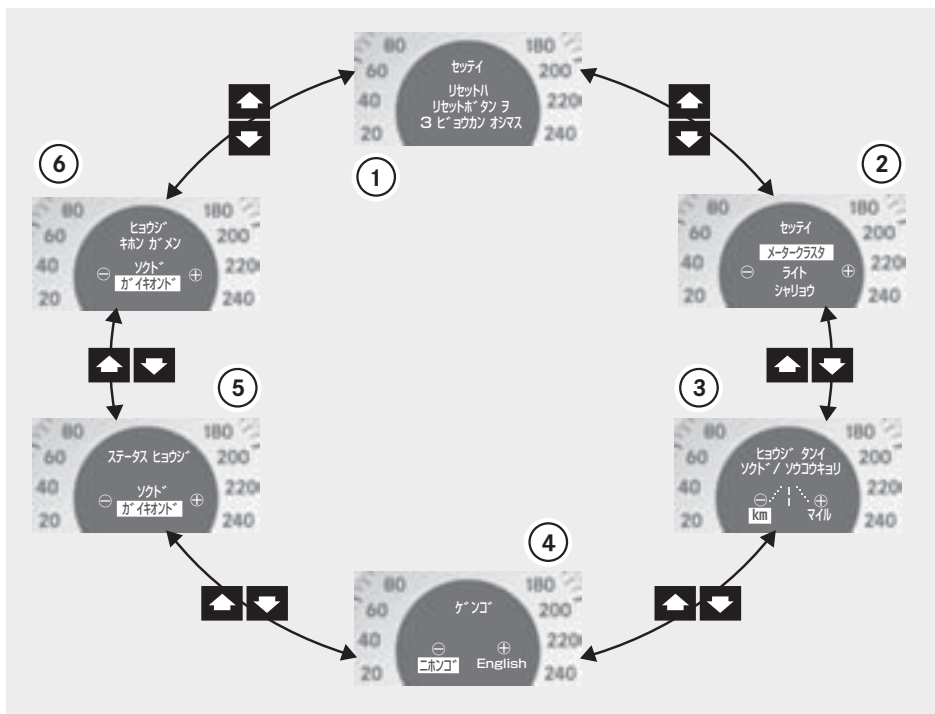
初期化が実行され、上記の初期化完了画面が表示されます。

ℹ 初期化画面が表示されてから約 5 秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。

ℹ 各種設定項目を初期化すると、設定グループ選択画面が表示されます。

ℹ 走行中に初期化操作を行なったときは、安全のため、初期化されない項目があります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メータークラスタ

①	各種設定メイン画面	134
②	設定グループ選択画面	134
③	速度・距離単位設定画面	138
④	ディスプレイ言語設定画面	138
⑤	ディスプレイ下段の表示設定画面	139
⑥	車両情報メイン画面の表示設定画面	139

設定グループ選択画面を表示させる

▶ ▭ または ▭ を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷134 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に ▲ を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ ＋ または － を押して、" メータークラスタ " を選択します。

▶ ▲ を押します。

メータークラスタの最初の設定項目画面③が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

速度・距離単位設定画面

マルチファンクションディスプレイの速度や走行距離などの表示単位の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示が km/h、km になります。
ﾏｲﾙ	表示が mph、マイル / MI になります。

！1 マイル（mph）は約 1.6km（km/h）です。マルチファンクションディスプレイの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず km（km/h）表示を選択してください。

ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ﾆﾎﾝｺﾞ	日本語表示になります。
English	英語表示になります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ディスプレイ下段の表示設定画面

ディスプレイ下段に表示される項目の設定ができます。

▶ ＋ または − を押して、反転表示を移動します。

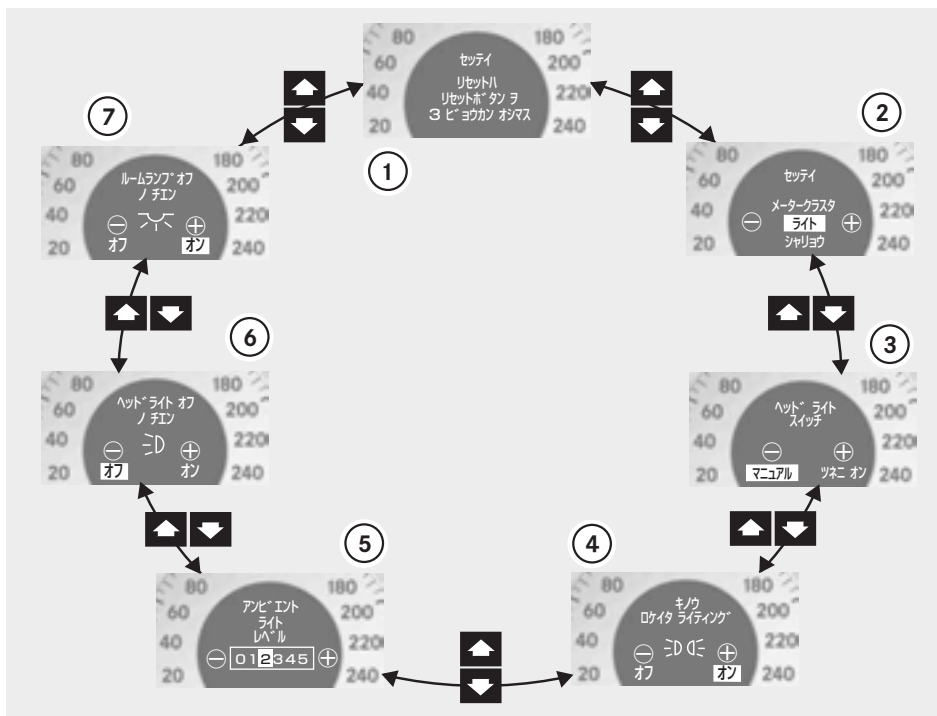
表示	設定内容
ｿｸﾄﾞ	ディスプレイ下段の表示が走行速度になります。
ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ	ディスプレイ下段の表示が外気温度になります。

車両情報メイン画面の表示設定画面

車両情報メイン画面に表示される項目の設定ができます。

▶ ＋ または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｿｸﾄﾞ	車両情報メイン画面の表示が走行速度になります。
ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ	車両情報メイン画面の表示が外気温度になります。

ライト

①	各種設定メイン画面	134
②	設定グループ選択画面	134
③	ヘッドランプ点灯モード設定画面	141
④	ロケイターライティング設定画面	141
⑤	アンビエントランプ照度設定画面	142
⑥	車外ランプ残照機能設定画面	142
⑦	ルームランプ消灯遅延機能設定画面	143

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷134 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [▲] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、" ライト " を選択します。

▶ [▲] を押します。

ライトの最初の設定項目画面③が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ﾏﾆｭｱﾙ	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。日本ではこのモードに設定してください。
ﾂﾈﾆ ｵﾝ	常時点灯モードです。 ランプスイッチを 0 か AUTO の位置にしているときに、エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。

! 設定が常時点灯モードのときは、安全のため走行中に設定を変更することはできません。

このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｾｯﾃｲ ﾊ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ ｶﾉｳ ﾃﾞｽ" と表示されます。

i 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

i 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。ヘッドランプを上向きにしたり、フォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
ｵﾌ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは（▷60 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

アンビエントランプ照度設定画面

アンビエントランプの照度の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
5 4 3 2 1	5 がもっとも明るく、1 がもっとも暗い設定になります。
0	アンビエントランプは点灯しません。

車外ランプ残照機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。
ｵﾌ	車外ランプ残照機能は作動しません。

詳しくは（▷92 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ルームランプ消灯遅延機能設定画面

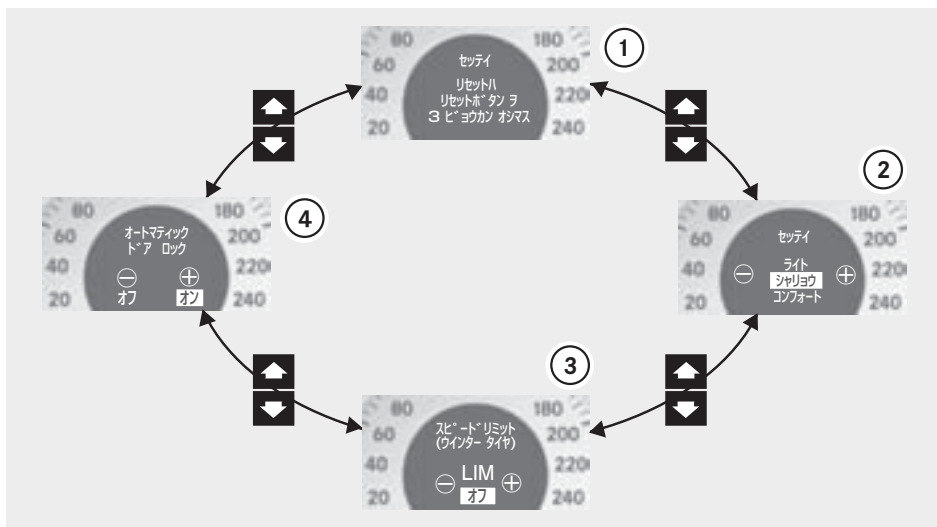
ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約 10 秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷96 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

シャリョウ

①	各種設定メイン画面	134
②	設定グループ選択画面	134
③	ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面	145
④	車速感応ドアロック設定画面	145

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます(▷134 ページ)。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [▲] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、" シャリョウ " を選択します。

▶ [▲] を押します。

シャリョウの最初の設定項目画面③が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが、法定速度を守って走行してください。

▶ ＋ または － を押して、設定内容を選択します。

表示	設定内容
ｵﾌ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

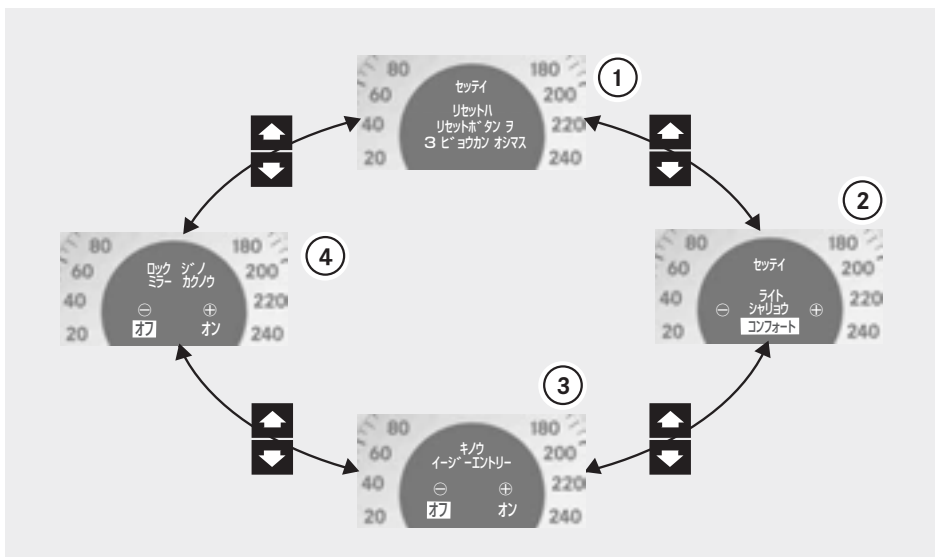
ℹ ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（▷167 ページ）で設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

車速感応ドアロック設定画面

走行速度が約 15km/h 以上になったときに、ドアとトランクを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	車速感応ドアロックが作動します。
ｵﾌ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（▷67 ページ）をご覧ください。

コンフォート

①	各種設定メイン画面	134
②	設定グループ選択画面	134
③	イージーエントリー設定画面	147
④	施錠時のドアミラー格納設定画面	147

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷134 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に [▲] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、"コンフォート" を選択します。

▶ [▲] を押します。

コンフォートの最初の設定項目画面③が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

イージーエントリー設定画面

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリー機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ステアリングが上方に移動します。
オフ	イージーエントリー機能は作動しません。

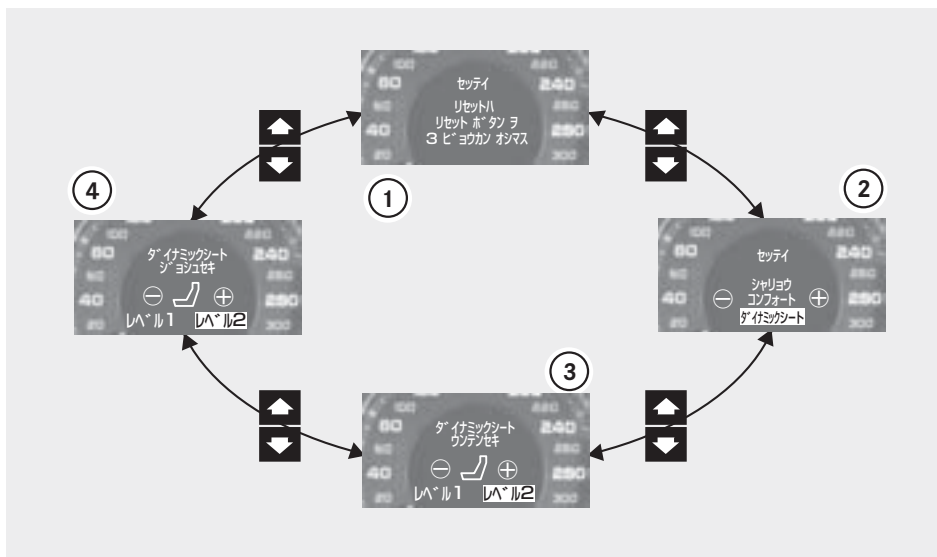
詳しくは（▷80 ページ）をご覧ください。

施錠時のドアミラー格納設定画面

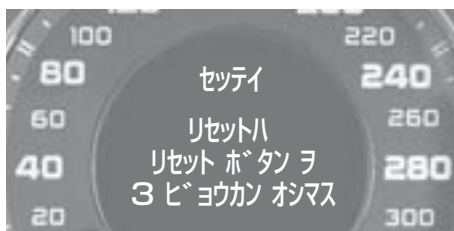
リモコン操作またはキーレスゴー操作での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

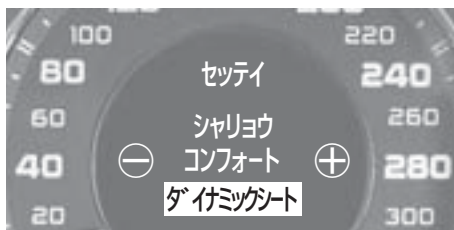
表示	設定内容
オン	施錠時にドアミラーが格納されます。
オフ	施錠時にドアミラーは格納されません。

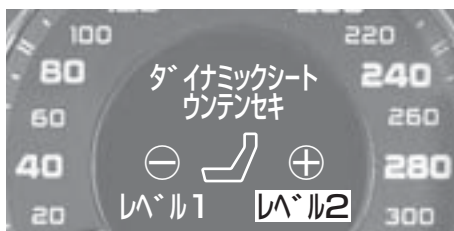
詳しくは（▷83 ページ）をご覧ください。

ドライビングダイナミックシート *

①	各種設定メイン画面	134
②	設定グループ選択画面	134
③	運転席サポートレベル設定画面	149
④	助手席サポートレベル設定画面	149

ドライビングダイナミックシートのサポートレベルを設定する

▶ または を押して、各種設定メイン画面①を表示させせます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

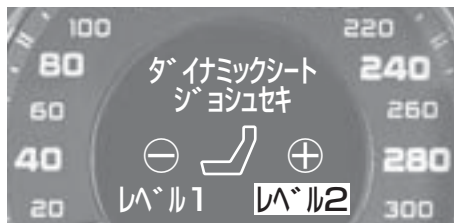
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ [↑] を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

▶ [+] または [−] を押して、"ダイナミックシート" を選択します。

運転席のサポートレベルを設定する

▶ [↑] または [↓] を押して、運転席のサポートレベル設定画面③を表示させます。

▶ [+] または [−] を押して、"レベル 1" または "レベル 2" を選択します。

選択されたレベルが反転表示されます。

表示	設定内容
レベル 1	サポートが強くなります。
レベル 2	サポートがさらに強くなります。

助手席のサポートレベルを設定する

▶ [↑] または [↓] を押して、助手席のサポートレベル設定画面④を表示させます。

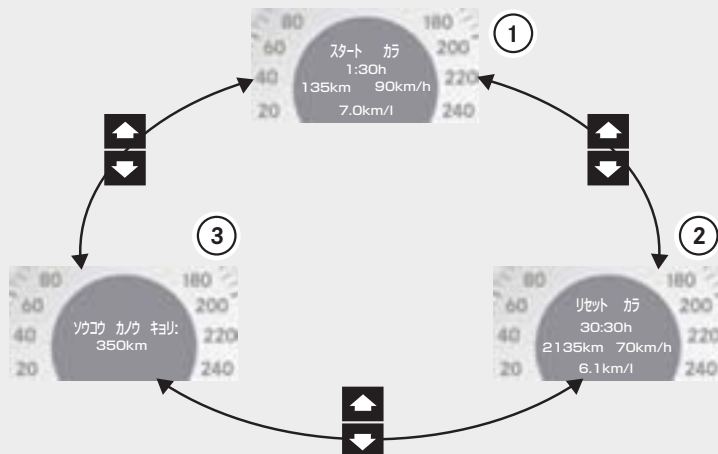
▶ [+] または [−] を押して、"レベル 1" または "レベル 2" を選択します。

選択されたレベルが反転表示されます。

表示	設定内容
レベル 1	サポートが強くなります。
レベル 2	サポートがさらに強くなります。

詳しくは （▷76 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

トリップコンピューター

①	ショートトリップメーター画面	
②	ロングトリップメーター画面	151
③	走行可能距離画面	152

ショートトリップメーター画面

① エンジン始動からの走行距離（km）
② エンジン始動からの経過時間（h）
③ エンジン始動からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動からの平均燃費（km/l）

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ⓘ ショートトリップメーターはイグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 4 時間経過すると、自動的にリセットされます。

約 4 時間以内にイグニッション位置を **1** か **2** にしたときは、前回の情報が継続して表示されます。このときは、999 時間経過後、または 9,999km 走行後に自動的にリセットされます。

ショートトリップメーター画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

ショートトリップメーターを手動でリセットする

ショートトリップメーターは、手動でもリセットできます。

▶ ショートトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷118 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

ロングトリップメーター画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの経過時間（h）
③ リセットからの平均速度（km/h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

ロングトリップメーターは、リセットしたときを起点とした情報を表示します。

ロングトリップメーター画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（▷150 ページ）。

▶ [▲] を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

ロングトリップメーターをリセットする

▶ ロングトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷118 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

ⓘ リセット後、ロングトリップメーターは、9,999 時間経過後、または 99,999km 走行後に自動的にリセットされます。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離画面を表示させる

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ または を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（▷150 ページ）。

▶ を押して、走行可能距離画面を表示させます。

! 走行可能距離は、現在までの平均燃費と燃料残量から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

燃料残量が少ないときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾈﾝﾘｮｳﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されるか、以下のマークが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドですみやかに給油してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

ⓘ COMAND システムには Bluetooth® 接続またはケーブル接続 * で携帯電話を接続できます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

⚠ **事故のおそれがあります**

安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。

走行中は電話をかけないでください。

また、走行中に電話がかかってきたときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。

どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

ⓘ 走行中は一部の機能が使用できなくなります。

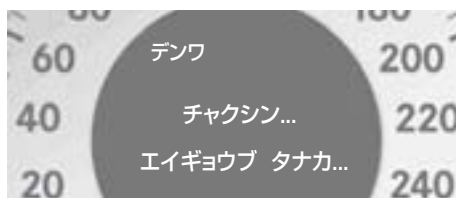
電話画面を表示させる

▶ COMAND システムの電源をオンにします。

▶ 携帯電話を COMAND システムに接続します。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、電話画面を表示させせます。

マルチファンクションディスプレイに " デンワ マチウケ " と表示されます。

着信した電話を受ける

発信元が電話帳データに登録されている場合

電話が着信すると上記のような画面が表示されます。

▶ 着信呼び出し中に [受話ボタン] を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ [終話ボタン] を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に [終話ボタン] を押します。

ⓘ 上記の操作は電話画面を表示していないときも行なうことができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話帳から電話を発信する

COMAND システムに登録されている電話帳から電話を発信できます。

ℹ COMAND システムの電話帳には、COMAND システムから直接電話帳データを入力したり、携帯電話や PC カードからデータをダウンロードできます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

▶ または を押して、電話画面を表示させます。

▶ または を押して、電話帳を呼び出します。

▶ または を押して、発信先を選択します。

電話帳のリストがスクロールします。

ℹ または を約 2 秒以上押し続けると、電話帳データがスクロールします。

または を約 4 秒以上押し続けると、電話帳登録項目の名前のアルファベットおよび読みがなのあかさたな ... ごとにスクロールします。

▶ を押します。

マルチファンクションディスプレイに、" ハッシン ..." のメッセージと発信した電話番号が表示されます。電話帳に名前が登録されているときは、名前も表示されます。また、発信した番号が履歴に登録されます。

ℹ 電話帳データに複数の電話番号が登録されているときは、さらに または を押して電話番号を選択してから、 を押すと発信されます。

ℹ ステアリングの スイッチを押し、電話を発信しないで電話帳を閉じたときは、待ち受け画面に戻ります。

発信履歴から電話を発信する

▶ または を押して、電話画面を表示させます。

▶ COMAND ディスプレイに " デンワマチウケ " と表示されているときに、 を押します。

発信履歴が表示されます。

▶ または を押して、発信先を選択します。

▶ を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行装備

走行装備には、以下のものがあります。

クルーズコントロール / ディストロニック * / 可変スピードリミッター

走行速度を制御する機能です。

ホールド機能

ブレーキペダルを踏み続けたり、パーキングブレーキを効かせなくても、停車した状態を維持できます。

AIR マティック DC サスペンション *

サスペンションを調整して、走行安定性を高めます。

パークトロニック

車庫入れや狭い場所での運転時に、障害物とのおよその距離を知らせます。

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約30km/h以上です。

事故のおそれがあります

車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

クルーズコントロールを使用しているときは、運転者は常に道路状況に注意を払ってください。

事故のおそれがあります

以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

- 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路を走行しているとき
- 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路を走行しているとき
- 雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できないとき

! クルーズコントロールの設定速度と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷258 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 急な上り坂では、速度を維持するためにシフトダウンすることがありますが、設定した速度を維持できないときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときは、走行速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

クルーズコントロールの使いかた

①～⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

可変スピードリミッター（▷167 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールを操作できる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を消灯させます。

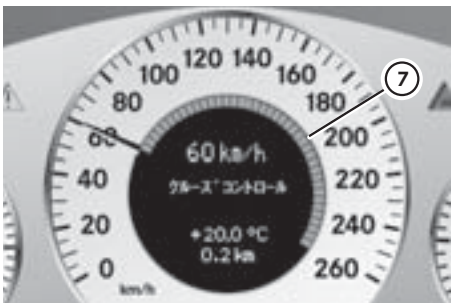
▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①または②の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

⑦ クルーズコントロールインジケーター

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

また、クルーズコントロールインジケーター⑦の設定速度より上の部分が点灯し、マルチファンクションディスプレイに設定速度と " クルーズコントロール " が数秒間表示されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

記憶されている速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

ℹ クルーズコントロールインジケーターの目盛りは 5km/h 刻みです。

ℹ 約 30km/h 以下の速度で走行しているときや ESP オフスイッチで ESP の機能を解除してあるときはクルーズコントロールを設定することはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間表示されます。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に上げ続けると加速します。

希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に下げ続けると減速します。

希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ℹ レバーを①か②の方向にごく短時間操作すると、1km/h 単位で速度の設定ができます。

ℹ レバーを②の方向に下げて減速しているときには、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

一時的に速度を上げる

▶ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。

アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

クルーズコントロールを解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。

- ブレーキペダルを踏んだとき
- レバーを⑤の方向（▷156 ページ）に押したとき

  レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

クルーズコントロールが解除されると、スピードメーターのクルーズコントロールインジケーターがすべて消灯します。

ℹ クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ クルーズコントロールは以下のとき自動的に解除されます。

- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP が作動したとき
- ESP オフスイッチで ESP の機能を解除したとき
- セレクターレバーを **N** に入れたとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ " と数秒間表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは解除されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中はセレクターレバーを **N** に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

ディストロニック *

ディストロニックは、設定した速度を自動的に維持して走行するクルーズコントロール機能に、センサーによる車間距離感知機能と車間距離警報、自動ブレーキ機能を組み合わせたシステムです。

先行車を感知すると、設定した速度から自動的に速度の調整を行ないながら、車間距離を維持するように走行します。

設定できる速度は約 30km/h から約 180km/h の間です。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ℹ 前方に車両がいないときは、ディストロニックはクルーズコントロール（▷155 ページ）と同じ働きをします。

ℹ ディストロニックが自動的にブレーキを効かせたときは、ブレーキランプも点灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 事故のおそれがあります

- ディストロニックは先行車への追突を回避するような自動操縦システムではありません。
- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保、適切なブレーキ操作など、ディストロニック使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ディストロニックによるブレーキは最大制動力の約 20%程度のため、運転者はこのシステムだけに頼らず、常に先行車との車間距離や周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。
- 積雪路や凍結路など滑りやすい路面では、ディストロニックを使用しないでください。車のコントロールを失い事故を起こすおそれがあります。
- ディストロニックは、以下のようなものには反応しません。

  ディストロニックを使用しているときも、常に周囲の状況に注意を払ってください。

  ◇ 歩行者

  ◇ 停車中の車両

  ◇ 対向車

  ◇ 道路を横切る車両

  ◇ オートバイなど横幅の狭い車両

  ◇ 異なる車線を走行している車両
- 以下のような場合はディストロニックを使用しないでください。急加速して先行車との車間距離を維持できず、事故を起こすおそれがあります。

  ◇ 急な下り坂や急カーブ、曲がりくねった道路を走行するとき

  ◇ ETC ゲートを通過するとき

  ◇ 走行速度の速い車線に車線変更するとき

  ◇ 交通量の多い道路や、工事中区間など頻繁に車線変更を行なう区間を走行するとき
- みぞれやひょう、霧や豪雨、吹雪などの悪天候のときや、ディストロニックセンサーが汚れているときは、ディストロニックを使用しないでください。先行車との車間距離を正確に計測できず、事故を起こすおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにディストロニックに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷258 ページ）をご覧ください。

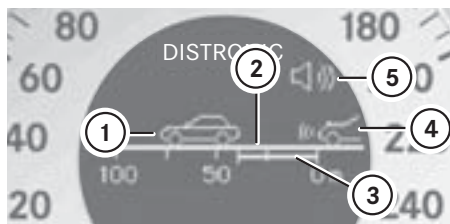
! ディストロニックは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときは、走行速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

車間距離表示画面

① 先行車（先行車を感知した場合）
② 先行車と自車とのおおよその車間距離
③ 設定した車間距離
④ 自車
⑤ 車間距離警告音表示

マルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面を表示させせると（▷132 ページ）、先行車との距離などを表示することができます。

ℹ 車間距離表示画面は、ディストロニックを解除しているときも表示させることができます。

ℹ 道路や交通の状況により、先行車との距離を正確に表示できないことがあります。

ディストロニックの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

可変スピードリミッター（▷167 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、ディストロニックを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が消灯し、ディストロニックを操作できる状態に切り替わります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ディストロニックを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①または②の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

先行車がいるときは、設定した車間距離（▷164 ページ）を維持するように、速度を調整しながら走行します。

⑦ ディストロニックインジケーター

また、ディストロニックインジケーター⑦の設定速度の手前 1 個または前後 2 個の部分が点灯し、マルチファンクションディスプレイに設定速度と設定車間距離が数秒間表示されます。

マルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面を表示していないときは、マルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面が数秒間表示されます。

車間距離表示画面を表示させるには（▷132 ページ）をご覧ください。

ℹ ディストロニックは以下のときには設定することはできません。このときは、設定速度に "DISTRONIC ---km/h" が数秒間表示されます。

- 走行速度が約 30km/h 以下のときや約 180km/h 以上のとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキを効かせているとき
- ESP オフスイッチで ESP の機能を解除しているとき
- セレクターレバーが **P**、**N**、**R** に入っているとき

また、エンジンを始動してから約 2 分間経過していないときは、設定できないことがあります。

ℹ ディストロニックの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

記憶されている速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

設定速度を変更する

▶ レバーを①の方向に操作します。

設定速度が 10km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

設定速度が 1km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを②の方向に操作します。

設定速度が 10km/h 単位で下がります。

! 設定速度を上げるときは、周囲の状況に注意してください。レバーから手を放した後も、設定した速度と車間距離に到達するために車が加速します。

i 設定速度を下げているときに、自動的にブレーキを効かせたり、シフトダウンすることがあります。

一時的に速度を上げる

▶ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。

アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

i ディストロニック作動中にアクセルペダルを踏んで速度を上げると、マルチファンクションディスプレイに "DISTRONIC ﾀｲｷ" と表示され、ディストロニックによる速度調整が一時的に解除されます。

ディストロニックを解除する

▶ レバーを③の方向（▷160 ページ）に押します。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを⑤の方向（▷160 ページ）に押します。

レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

ディストロニックが解除されると、マルチファンクションディスプレイに "DISTRONIC ｵﾌ" と数秒間表示されます。

i ディストロニックを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された設定速度は消去されます。

ディストロニックは以下のとき自動的に解除されます。

- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP が作動したとき
- ESP オフスイッチで ESP の機能を解除したとき
- セレクターレバーを N に入れたとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "DISTRONIC ｵﾌ" と数秒間表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもディストロニックは解除されます。

⚠ 事故のおそれがあります

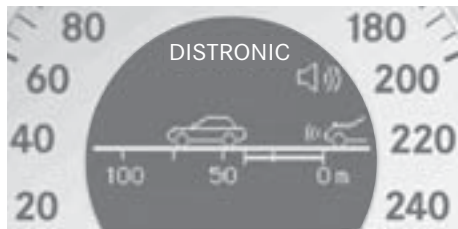
- 以下のようなときはディストロニックを解除してください。
  - ◇ 急な下り坂や急カーブ、曲がりくねった道路にさしかかったとき
  - ◇ 設定速度よりも低い速度で走行している先行車への追従走行から、車線を変更するとき
  - ◇ 合流車線や分岐車線を走行するとき

  これらの場合にディストロニックを作動させていると、設定した速度までシステムが自動的に加速・減速を行ない、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

先行車を感知したとき

① 先行車（先行車を感知した場合）
② 先行車と自車とのおよその車間距離
③ 設定した車間距離
④ 自車

前方に走行している車を感知すると、車間距離表示画面に先行車①が表示されます。

自車の走行速度より遅い速度で走行しているときは、車間距離が詰まるにつれ、先行車の表示が左から右へ移動します。

設定した車間距離に達すると、先行車への追従走行を開始します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車間距離の設定

先行車との車間距離を 1 秒から 2 秒の範囲で設定することができます。

車間距離の 1 秒間とは、ある速度のとき 1 秒間で走行する距離のことで、約 100km/h で走行しているときの 1 秒の車間距離は約 28m になります。

設定した車間距離はマルチファンクションディスプレイに表示されます。

① 車間距離を短くする
② 車間距離調整ダイヤル
③ 車間距離を長くする

車間距離を長くする

▶ ダイヤル②を③の方向にまわします。

車間距離を短くする

▶ ダイヤル②を①の方向にまわします。

走行速度と車間距離の関係

走行速度（km/h）	設定できる車間距離（m）
40	11 ～ 22
60	17 ～ 33
80	22 ～ 44
100	28 ～ 56

※車間距離はおよその距離です

ℹ 設定される車間距離は走行速度によって変わります。

⚠ **事故のおそれがあります**

車間距離を設定するときは、先行車との安全が確保できる距離に設定してください。先行車が急ブレーキをかけたときなどに、事故を起こすおそれがあります。

車間距離警告

ディストロニックが作動しているとき、先行車に近付きすぎると、車間距離警告灯と車間距離警告音による警告が行なわれ、運転者にブレーキ操作を促します。

ℹ 道路幅の狭い道やカーブなどを走行しているときは、車道脇に設置された静止物やガードレールのリフレクターなどを感知して、車間距離警告音が鳴ることがあります。

ℹ 減速が必要なときは、必ずブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択してエンジンブレーキの効きを強くしてください。

⚠ 事故のおそれがあります

- 走行中に車間距離警告灯が赤色に点灯して、車間距離警告音が鳴ったときは、大幅な減速が必要になります。ブレーキペダルを踏んで減速するか、回避操作を行なってください。前車や前方の障害物に衝突するおそれがあります。
- 車間距離警告灯が頻繁に点灯したり、車間距離警告音が鳴るようなときは、ディストロニックを使用しないでください。
- 周囲の状況によっては、先行車がいても車間距離警告が行なわれなかったり、先行車がいないときに車間距離警告が行なわれることがあります。運転者は車間距離警告だけに頼らず、常に先行車との車間距離や周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

車間距離警告灯

① 車間距離警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

走行中は、先行車に近付きすぎたときや他車が割り込んできたときなど、先行車との車間距離が短くなり、大幅な減速が必要なときに点灯します。また、車間距離警告音による警告も行なわれ、運転者にブレーキ操作を促します。

車間距離警告音の設定

① 車間距離警告音スイッチ
② 表示灯

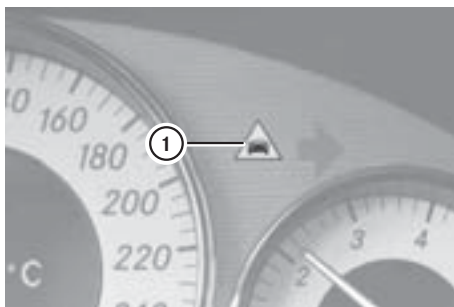
車間距離警告音を解除することができます。

※ 作動内容は予告なく変更される場合があります。

車間距離警告音を解除する

▶ 車間距離警告音スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

また、マルチファンクションディスプレイの車間距離表示画面の車間距離警告音表示（▷160 ページ）が消灯します。

車間距離警告音を設定する

▶ 再度、車間距離警告音スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

また、マルチファンクションディスプレイの車間距離表示画面の車間距離警告音表示（▷160 ページ）が点灯します。

! 車間距離警告音を解除すると、先行車に近付きすぎても、車間距離警告灯（▷165 ページ）による警告しか行なわれません。

車間距離警告音を設定して走行してください。

ℹ ディストロニックを解除しているときでも、先行車との車間距離は測定されています。先行車に近付きすぎると、車間距離警告灯と車間距離警告音による警告を行ないます。

ただし、車間距離警告音を解除しているときは、車間距離警告音は鳴りません。

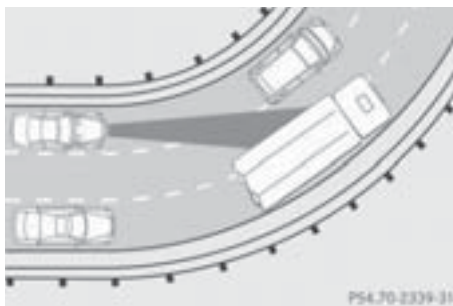
ℹ 道路や交通の状況により、ディストロニックが先行車との距離を正確に認識できない場合があります。

ディストロニックを使って走行するときの注意

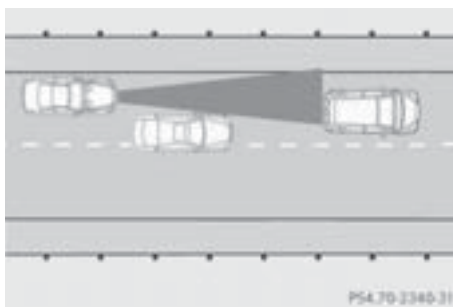
ディストロニックを使用するときに、特に注意が必要な道路と交通の状況を以下に記載しています。

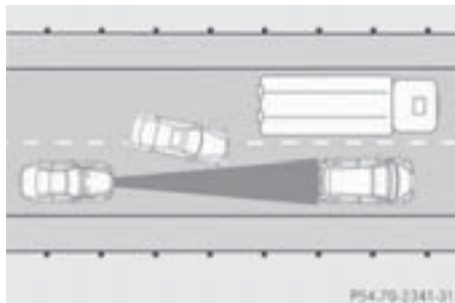
このような状況下では、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。ディストロニックが解除されます。

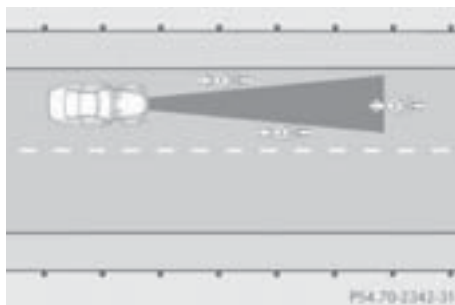
カーブを走行するときやカーブに入るとき、カーブを抜けるとき

P54.70-2339-31

カーブでは、ディストロニックが先行車を感知できなかったり、感知が早すぎることがあります。その結果、車が加速したり、ブレーキを効かせることがあります。

異なるライン上を走行しているとき

P54.70-2340-31

ディストロニックは、同一車線でも異なるライン上を走行している先行車を感知できないことがあります。その結果、先行車に接近しすぎることがあります。

先行車との間に割り込みがあったとき

前方に割り込んできた車がディストロニックの感知範囲内に入らないことがあります。その結果、割り込んできた車に接近しすぎることがあります。

先行車の横幅が狭いとき

ディストロニックは、同一車線の端を走行している横幅の狭い先行車（オートバイなど）を感知できないことがあります。その結果、先行車に接近しすぎることがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定した速度を超えないように走行することができます。

設定できる制限速度は 30km/h から 210km/h または 250km/h までの間です。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

※ 車種や仕様により設定できる制限速度が異なる場合があります。

⚠ 事故のおそれがあります

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

! 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷258 ページ）をご覧ください。

! 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときなどは、走行速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

ⓘ ウィンタータイヤスピードリミッター（▷145 ページ）を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限になります。

ⓘ 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾘﾐｯﾄ ｺｴﾏｼﾀ!" と表示されることがあります。

可変スピードリミッターの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

クルーズコントロール（▷155 ページ）、ディストロニック *（▷158 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときは、クルーズコントロールまたはディストロニックを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

可変スピードリミッターを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が点灯していることを確認します。

消灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を点灯させます。

▶ レバーを①か②の方向に操作します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 走行速度が約 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。
- 走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 前回の設定速度が消去されていて、走行速度が約 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。
- 前回の設定速度が消去されていて、走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

⑦ 可変スピードリミッターインジケーター

可変スピードリミッターが設定され、可変スピードリミッターインジケーター⑦の設定速度より下の部分が点灯します。また、マルチファンクションディスプレイに設定速度と " リミット " が数秒間表示されます。

ⓘ 可変スピードリミッターインジケーターの目盛りは 5km/h 刻みです。

ⓘ アクセルペダルを踏んでキックダウンしているときは、可変スピードリミッターを設定することはできません。

! 可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

設定速度を変更する

▶ レバーを①の方向に操作します。

設定速度が 10km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

設定速度が 1km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを②の方向に操作します。

設定速度が 10km/h 単位で下がります。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールまたはディストロニック * を操作できる状態に切り替わります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 可変スピードリミッターを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ 次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは確認音が鳴ります。

  ただし、設定速度より約 20km/h 以上低い速度までは、一時的にキックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。
- エンジンを停止したとき

! 可変スピードリミッターを解除しても、設定速度は記憶されています。記憶されている速度が走行速度よりも低い場合、記憶されている速度に再度設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

ホールド機能

坂道での発進や信号待ちをしているときなどに、車が前進または後退することを防ぐ機能です。

ブレーキペダルを踏み続けたり、パーキングブレーキを効かせなくても、通常の路面で、停車した状態を維持することができます。

⚠ 事故のおそれがあります

- 積雪路面や凍結路面、極端な急勾配の道路などタイヤが路面をグリップしない状況では、ホールド機能を使用しないでください。停車した状態を維持できません。
- ホールド機能使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- エンジンを停止するときや駐車するとき、車から離れるときは、必ずパーキングブレーキを効かせ、セレクターレバーを **P** に入れてください。
- ホールド機能はパーキングブレーキに代わるものではありません。絶対にパーキングブレーキとして使用しないでください。
- ホールド機能が作動している状態で車から降りないでください。他の乗員がペダルなどに触れることにより車が動き出すおそれがあります。
- ホールド機能は、車外から、または運転者以外の同乗者が操作したり解除しないでください。

! ホールド機能が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。けん引や洗車機での洗車などで車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。

! マルチファンクションディスプレイにホールド機能に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷258 ページ）をご覧ください。

ホールド機能の作動条件

ホールド機能は、以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき
- 運転席ドアを閉じているとき
- パーキングブレーキが解除されているとき
- ボンネットのロックが解除されていないとき
- セレクターレバーが **D**、**N**、**R** のいずれかに入っているとき

ホールド機能を作動させる

① ホールドインジケーター

▶ ホールド機能の作動条件を確認します。

▶ ブレーキペダルを意識的に素早く深く踏み込みます。

メーターパネルにホールドインジケーター①が表示されます。

表示されないときは、ブレーキペダルを少し戻して、再度意識的に素早く深く踏み込みます。

ホールド機能が作動し、ブレーキペダルから足を放しても停車したままになります。

! 車種や仕様により、以下のときにホールド機能を作動させようとすると、マルチファンクションディスプレイに数秒間、" ｻﾄﾞｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ " と表示されます。

- パーキングブレーキを効かせているとき
- ボンネットのロックが解除されているとき
- 運転席ドアが開いているとき

ホールド機能を解除する

以下のいずれかの操作をすると、ホールド機能は解除され、メーターパネルのホールドインジケーター①が消灯します。

- セレクターレバーが **D** または **R** に入っているときに、アクセルペダルを踏んだとき
- セレクターレバーを **P** に入れたとき
- ブレーキペダルを再度踏んだとき

⚠ **事故のおそれがあります**

以下のときは、ホールド機能が解除され、車が動きだすおそれがあります。

- アクセルペダルを踏んだときや、ブレーキペダルを再度踏んだとき
- システムまたは電力供給に異常（バッテリーあがりなど）があるとき
- バッテリーの接続が断たれたとき
- エンジンルームの電気システムやヒューズなどが変更されたとき

! ホールド機能を解除したときは、車の動きに十分注意してください。

! セレクターレバーを P に入れてホールド機能を解除したときは、パーキングブレーキを効かせるかブレーキペダルを踏んで、確実に停車してください。

i セレクターレバーが N に入っているときにアクセルペダルを踏んでも、ホールド機能は解除されません。

i ホールド機能が作動して停車しているときにパーキングブレーキを効かせても、ホールド機能は解除されません。

ホールド機能の警告

ホールド機能が作動しているときに、ブレーキペダルを深く踏み込まずに以下の操作をすると、マルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀ ﾚﾊﾞｰ P ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と警告メッセージが表示されます。

- ボンネットのロックを解除したとき

  このときはホーンも鳴ります。
- エンジンを停止したとき

  このときに運転席ドアを開くと、ホーンも鳴ります。

i ホールド機能を解除するまでは、エンジンを再始動できません。

- 運転席の乗員がシートベルトを着用していない状態で運転席ドアを開くか、運転席ドアを開いて運転席の乗員がシートベルトを外したとき

  このときにエンジンを停止すると、ホーンも鳴ります。

i ホーンが鳴っているときにリモコン操作で施錠しようとすると、ホーンの音量が上がります。ホールド機能を解除するまでは、施錠できません。

これらのときは、ブレーキペダルをしっかり踏むか、セレクターレバーを P に入れると、警告メッセージは消え、ホーンも鳴り止みます。

ただし、車が動き出さないようにセレクターレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

! ホールド機能を作動させているときに、システムまたは電力供給に異常（バッテリーあがりなど）が発生したときは、マルチファンクションディスプレイに "ｽｸﾞﾆ ﾌﾞﾚｰｷ ｦ ﾌﾝﾃﾞｸﾀﾞｻｲ !" と警告メッセージが表示されます。

このときは、ブレーキペダルをしっかり踏み込んでください。警告メッセージが消えます。さらにセレクターレバーを P に入れてホールド機能を解除し、パーキングブレーキを効かせて確実に停車するとともに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

AIR マティック DC サスペンション *

⚠ 事故のおそれがあります

サスペンションモード選択スイッチや車高調整スイッチを操作するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。

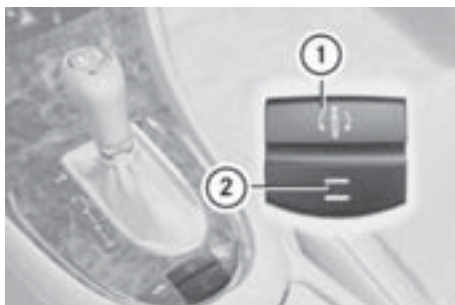
AIR マティック DC(デュアルコントロール) サスペンションは、運転のスタイルや路面状況などに応じて、サスペンションや車高を最適な状態に自動調整します。

また、サスペンションモード選択スイッチで 3 種類のモードを選択したり、車高調整スイッチで車高を上げることもできます。

! 安全のため、スイッチの操作は停車中に行なってください。

! 連続して車高を上げたり下げたりしないでください。エアポンプの保護機能によって作動が停止することがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

サスペンション制御

① サスペンションモード選択スイッチ
② 表示灯

運転スタイルや路面状況、荷物の積載状況によってサスペンションを自動制御します。

また、運転スタイルに合わせて、サスペンションモードを選択することができます。

サスペンションモードを選択する

エンジンがかかっているときに操作することができます。

▶ サスペンションモード選択スイッチ①を押します。

サスペンションモードがコンフォート→スポーツ 1 →スポーツ 2 →コンフォートと切り替わります。

点灯する表示灯の数	モード	作動内容
0	**コンフォート** 通常走行用	他のモードから切り替えたときは、マルチファンクションディスプレイに "AIR ﾏﾃｨｯｸ DC ｺﾝﾌｫｰﾄ " と約 5 秒間表示されます。
1	**スポーツ 1** スポーティな走行用	他のモードから切り替えたときは、マルチファンクションディスプレイに "AIR ﾏﾃｨｯｸ DC ｽﾎﾟｰﾂ 1" と約 5 秒間表示されます。 標準より約 10mm 低い車高になります。
2	**スポーツ 2** よりスポーティな走行用	他のモードから切り替えたときは、マルチファンクションディスプレイに "AIR ﾏﾃｨｯｸ DC ｽﾎﾟｰﾂ 2" と約 5 秒間表示されます。 標準より約 15mm 低い車高になります。

※ CLS 63 AMG の、スポーツ 1 およびスポーツ 2 を選択したときのサスペンションの作動内容は上記とは異なりますが、数値は公表されていません。

※ 作動内容や数値は予告なく変更される場合があります。

ℹ イグニッション位置を **0** にしたりエンジンスイッチからキーを抜いても、選択したサスペンションモードは記憶されています。

ℹ イグニッション位置を **2** にすると、サスペンションモード選択スイッチの表示灯が 2 つ点灯します。エンジン始動後は、記憶されているモードに対応して、表示灯が点灯します。

車高の調整

① 車高調整スイッチ
② 表示灯

悪路を走行するときや、スノーチェーンを装着して走行するときは、車高調整スイッチで車高を上げます。

エンジンがかかっているときに操作することができます。

車高を上げる

▶ 車高調整スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

マルチファンクションディスプレイに "ｼｬｺｳ ｶﾞ ｱｶﾞﾘﾏｽ" と表示されます。

車高を元に戻す

▶ 再度、車高調整スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

選択されているサスペンションモードの車高に戻ります。

⚠ **事故のおそれがあります**

車種や仕様により、サスペンションモードがコンフォートで、車高調整スイッチ①の表示灯②が消灯しているときは、エンジンを停止してリモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠してから約 60 秒以内に、標準より約 10mm 低い車高になることがあります。

ホイールハウスの近くや車の下に人がいたり物がないことを確認してください。身体や物が挟まれるおそれがあります。

! 駐車するときは、車の下や周りに縁石や突起物などがないことを確認してください。車種や仕様により、エンジンを停止して車を施錠したときに車高が下がって接触し、車を損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイに車高に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷260 ページ）をご覧ください。

※ 作動内容や数値は予告なく変更される場合があります。

ⓘ 車高調整スイッチで車高を標準より上げたときは、走行速度が約120km/h 以上になるか、約 80 ～ 120km/h での走行が約 5 分間続くと、マルチファンクションディスプレイに " ﾚﾍﾞﾙ ｾﾝﾀｸ ｼｮｳｷｮ " と表示され、標準の車高に戻ります。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ⓘ 上記の速度域で走行しなかったときは、エンジンスイッチからキーを抜いても、標準より高い車高のままになります。

ⓘ サスペンションモードがコンフォートの場合、走行速度が約 140km/h 以上になると標準より低い車高になります。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

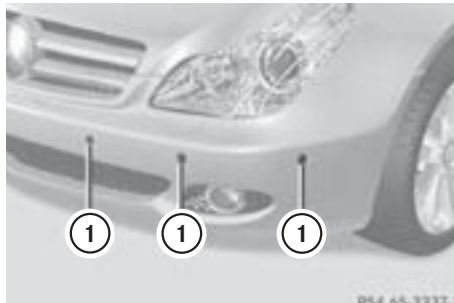
ⓘ イグニッション位置を **2** にすると、車高調整スイッチの表示灯が点灯します。エンジン始動後は、記憶されている車高に対応して、表示灯が点灯します。

ⓘ 車種や仕様により、車を施錠して下がった車高は、次にエンジンを始動したときに標準の車高に戻ります。

パークトロニック

パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

! パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

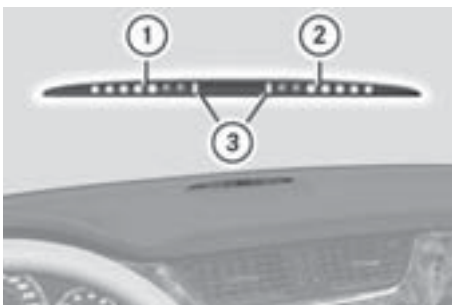
パークトロニックセンサー

フロント
① センサー

フロントバンパーの 6 個のセンサー①とリアバンパーの 4 個のセンサー②が車の周辺の障害物などを感知します。

※ 作動内容や数値は予告なく変更される場合があります。

リア
② センサー

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着したときは、赤色インジケーターだけが点灯して、約 20 秒後にパークトロニックが停止します。センサーに損傷を与えないよう注意して、定期的に清掃（▷245 ページ）をしてください。

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ フロント作動表示灯

フロントのインジケーターと作動表示灯はダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
④ 左側インジケーター
⑤ 右側インジケーター
⑥ リア作動表示灯

リアのインジケーターと作動表示灯はルーフ後方の図の位置にあります。

バンパーと障害物などとのおよその距離を、インジケーターの点灯数で示します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して約 2 秒間警告音が鳴り、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

i イグニッション位置を **2** にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

イグニッション位置が **2** でパーキングブレーキが解除されているとき、シフト位置に応じて以下のように作動します。

シフト位置	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯③⑥が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

ⓘ パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じてインジケーターが点灯し、警告音も鳴ります。

ⓘ パークトロニックは、速度が約 18km/h 以下のときに作動します。速度が約 18km/h 以上になると作動を停止します。

パークトロニックの作動

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

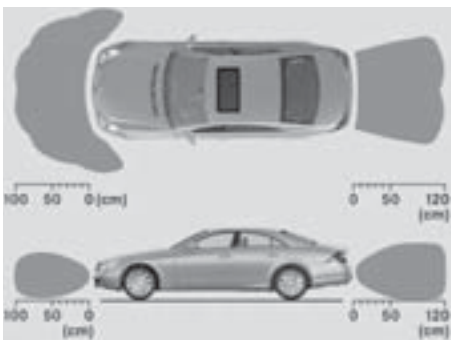
障害物との距離が近くなったとき

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 3 秒間鳴ります。

最短感知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 3 秒間鳴ります。

! 障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

センサーの感知範囲

フロントバンパー側	センサー感知範囲
センター	約 100cm ～ 20cm
コーナー	約 60cm ～ 15cm

リアバンパー側	センサー感知範囲
センター	約 120cm ～ 20cm
コーナー	約 80cm ～ 15cm

! 車のセンターでバンパーから約 20cm 以内、コーナーでバンパーから約 15cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

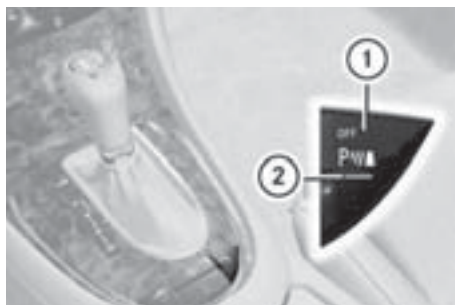
! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正しく作動しないことがあります。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると､超音波が乱され､パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックオフスイッチ

① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックの作動を停止することができます。

パークトロニックの作動を停止する

▶ イグニッション位置が **2** のときに、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して約2秒間警告音が鳴り、約20秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

i パークトロニックオフスイッチで作動を停止しても、次にイグニッション位置を **2** にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

エアコンディショナー

エアコンディショナーの取り扱い

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度、日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

環　境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ けがのおそれがあります

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

! 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

! 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。

! ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

! 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

i 除湿された水分は車体下方に排水されます。

i ドアウインドウやスライディングルーフ * が開いていると、設定温度を維持することができません。

i 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

i エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

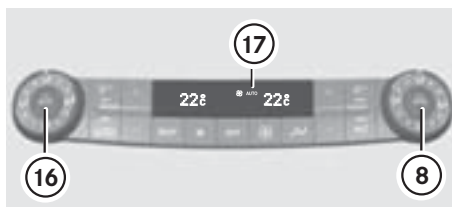
i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減少します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コントロールパネル

①	送風口選択ダイヤル（左側）
②	デフロスタースイッチ
③	送風温度調整スイッチ（左側）
④	ディスプレイ
⑤	送風温度調整スイッチ（右側）
⑥	リアデフォッガースイッチ
⑦	送風口選択ダイヤル（右側）
⑧	AUTO スイッチ（右側）
⑨	AC スイッチ
⑩	リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
⑪	送風量調整スイッチ（強）
⑫	オフスイッチ
⑬	送風量調整スイッチ（弱）
⑭	余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑮	内気循環スイッチ
⑯	AUTO スイッチ（左側）

通常の使いかた（AUTO モード）

⑧ AUTO スイッチ（右側）
⑯ AUTO スイッチ（左側）
⑰ AUTO インジケーター

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ⑧または⑯を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイに AUTO インジケーター⑰が表示されます。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

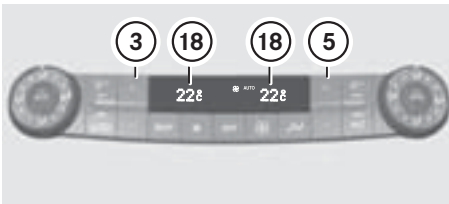
または

▶ オフスイッチ⑫を押します。

エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

送風口選択ダイヤル、送風温度調整スイッチ、送風量調整スイッチなどを押してもエアコンディショナーは作動を開始します。

AUTO モードでエアコンディショナーを作動させると、自動的に AC モード（▷184 ページ）に設定されます。

送風温度の調整

③ 送風温度調整スイッチ（左側）
⑤ 送風温度調整スイッチ（右側）
⑱ 送風温度インジケーター

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整スイッチ③または⑤の上側を押します。

送風温度インジケーター⑱の数字が上がります。

送風温度を下げる

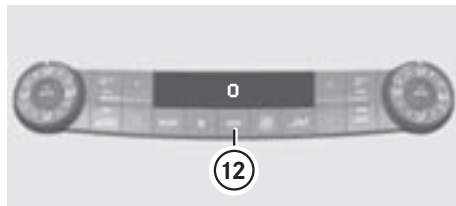
▶ 送風温度調整スイッチ③または⑤の下側を押します。

送風温度インジケーター⑱の数字が下がります。

! フロントアームレストの小物入れへの送風ができる車両では、フロントおよびリアエアコンディショナーの設定により、フロントアームレストの小物入れが高温になります。ガスライターやボンベ、熱に弱いものなどが入っているときは、爆発したり、溶けて変形するおそれがありますのでアームレストへの送風を停止してください（▷187 ページ）。

送風温度は左右別々に設定できます。

通常は 22℃に設定することをお勧めします。

エアコンディショナーの停止

⑫ オフスイッチ

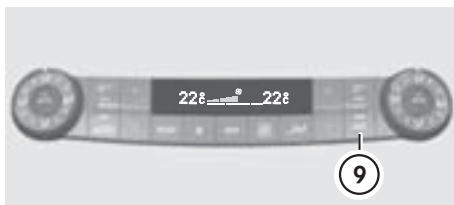
エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑫を押します。

ディスプレイに "0" が表示され、エアコンディショナーが停止します。

ドアウインドウやスライディングルーフ * が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

AC モード

⑨ AC スイッチ

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的にACモードになり、スイッチの表示灯が点灯します。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ⑨を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードを設定する

▶ 再度、AC スイッチ⑨を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、除湿 / 冷房された空気が送風されます。

環　境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

事故のおそれがあります

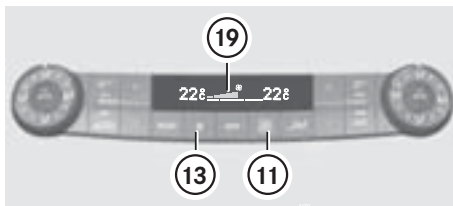
ドアウインドウとスライディングルーフ * が閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウの内側が曇りやすくなります。

i 除湿 / 冷房はエンジンがかかっているときに行なわれます。

i AC スイッチを押したときに、表示灯が点滅もしくは消灯したままのときはエアコンディショナーの冷媒が減っています。除湿 / 冷房は行なわれません。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

送風量の調整

⑪ 送風量調整スイッチ（強）
⑬ 送風量調整スイッチ（弱）
⑲ 送風量インジケーター

送風量を手動で調整することができます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ（強）⑪を押します。

送風量インジケーター⑲の点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ（弱）⑬を押します。

送風量インジケーター⑲の点灯数が減ります。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに送風量調整スイッチを押すと、送風量の AUTO モードが解除され、ディスプレイの AUTO インジケーターが消灯します。AUTO モードに戻すには、再度 AUTO スイッチを押します。

ℹ 送風量調整スイッチを操作すると、リアの送風口からの送風量も増減します。

送風口の選択

① 送風口選択ダイヤル（左側）
⑦ 送風口選択ダイヤル（右側）
⑳ 送風口インジケーター

▶ 送風口選択ダイヤル①または⑦をまわして、送風口インジケーター⑳を好みの送風口マークに合わせます。

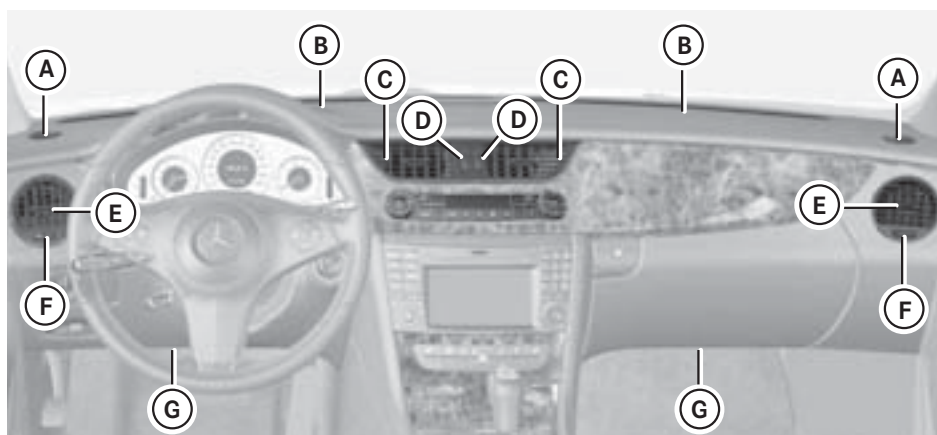
ℹ 送風口の選択は左右別々に設定できます。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに送風口選択ダイヤルを操作すると、操作した側の AUTO スイッチの表示灯が消灯し、送風口選択の AUTO モードが解除されます。AUTO モードに戻すには、再度 AUTO スイッチを押します。

ℹ 送風口インジケーターを送風口マークの中間に合わせると、組み合わせた送風口から送風されます。

ℹ リア中央送風口、リア足元送風口については（▷193 ページ）をご覧ください。

ℹ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

ℹ フロントアームレストの小物入れに送風口があります（▷187 ページ）。

左ハンドル車

送風口 マーク	主に送風される送風口
	中央送風口Ⓒ サイド送風口Ⓔ リア中央送風口
	フロントウインドウ送風口Ⓑ フロントドアウインドウ送風口Ⓐ 中央送風口Ⓒ サイド送風口Ⓔ リア中央送風口
	フロントウインドウ送風口Ⓑ フロントドアウインドウ送風口Ⓐ 中央送風口Ⓒ サイド送風口Ⓔ 足元送風口Ⓖ リア中央送風口　リア足元送風口
	中央送風口Ⓒ サイド送風口Ⓔ 足元送風口Ⓖ リア中央送風口　リア足元送風口

送風口の開閉

中央送風口Ⓒとサイド送風口Ⓔを開閉できます。

中央送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒹを上方にまわすと、徐々に中央送風口Ⓒが開き、送風量が上がります。

中央送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒹを下方にまわすと、徐々に中央送風口Ⓒが閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒹを停止するまで下方にまわすと、送風口が閉じます。

サイド送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒻを内側にまわすと、徐々にサイド送風口Ⓔが開き、送風量が上がります。

サイド送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒻを外側にまわすと、徐々にサイド送風口Ⓔが閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒻを停止するまで外側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下方または外側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

フロントアームレストの小物入れへの送風 *

Ⓗ 送風用ノブ

▶ 送風口を開くときは、送風用ノブⒽを上にスライドさせます。

▶ 送風口を閉じるときは、送風用ノブⒽを下にスライドさせます。

! フロントおよびリアエアコンディショナーの設定により、フロントアームレストの小物入れが高温になることがあります。ガスライターやボンベ、熱に弱いものなどが入っている場合は、爆発したり、溶けて変形するおそれがありますので、アームレストへの送風を停止してください。

ⓘ フロントアームレストの小物入れへの送風量は、フロントエアコンディショナーの送風量により変化します。また、送風温度はリアエアコンディショナーの右側の設定温度により変化します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

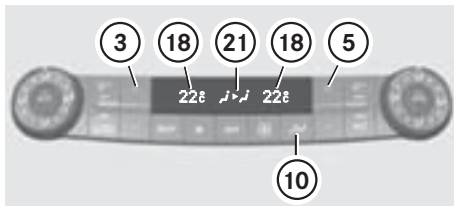
送風口の風向き調整

中央送風口Ⓒとサイド送風口Ⓔは風向きを調整できます。

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

ℹ 換気効率を上げるため、各送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

リアエアコンディショナーの送風温度の調整

③ 送風温度調整スイッチ（左側）
⑤ 送風温度調整スイッチ（右側）
⑩ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
⑱ 送風温度インジケーター
㉑ リアエアコンディショナーインジケーター

フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーの送風温度を調整できます。

リアエアコンディショナーの送風温度を調整する

▶ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ⑩を押します。

ディスプレイにリアエアコンディショナーインジケーター ㉑ が表示されます。

また、送風温度インジケーター⑱にリアエアコンディショナーの送風温度が表示されます。

▶ フロントの送風温度調整スイッチ③または⑤で、リアエアコンディショナーの送風温度を設定します。

再度、リアエアコンディショナーコントロールスイッチ⑩を押すと、リアエアコンディショナーインジケーター ㉑ が消え、フロントのエアコンディショナーを操作できる状態に戻ります。

❗ リアエアコンディショナーの送風温度により、小物入れ内が高温になることがあります。ガスライターやボンベ、熱に弱いものなどが入っている場合は、爆発したり、溶けて変形するおそれがありますので、フロントアームレストの小物入れへの送風 *（▷187 ページ）を停止してください。

ℹ リアエアコンディショナーコントロールスイッチを押してからなにも操作をしないまま約 5 秒経過すると、この機能は解除され、ディスプレイが通常の表示に切り替わります。

ℹ リアエアコンディショナーの送風温度は左右別々に設定できます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

内気循環モード

⑮ 内気循環スイッチ

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウとスライディングルーフ * を開閉できます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 外気温度が低いときや、ドアウインドウとスライディングルーフ * が閉じているときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。
>
> ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑮を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ⑮を約 2 秒以上押し続けると、開いているドアウインドウとスライディングルーフ * が自動で閉じます。

内気循環モードに設定されているときも、一定時間が経過すると以下のように外気導入に切り替わります。

外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 再度、内気循環スイッチ⑮を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ⑮を約 2 秒以上押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフ * が前回開いていた位置まで自動で開きます。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに動きを停止する機能がありますが、乗員が身体を挟まれないよう、十分に注意してください。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 内気循環スイッチでドアウインドウを開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 挟み込み防止機能には、挟み込みを感知しない範囲があります。内気循環スイッチでドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

i 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

i AC モードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。

i 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやスライディングルーフ * を別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやスライディングルーフ * を内気循環モードの解除操作と連動して、前回開いていた位置まで開くことはできません。

デフロスターモード

② デフロスタースイッチ

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ②を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナーが以下の内容で作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- 送風量が上がります。
- 送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

i 送風量および送風温度は外気温度により、自動的に調整されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ②を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

デフロスターモードに設定する前の内容でエアコンディショナーが作動します。

ただし、デフロスターモードに設定する前に AC モードを解除していたときは AC モードに、内気循環モードにしていたときは外気導入になります。

ⓘ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

ⓘ デフロスターモードに設定しているときは、フロントエアコンディショナーの送風温度や送風量などの調整はできません。

ウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、ウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りを取るときには、ワイパーを作動させてください。

リアデフォッガー

⑥ リアデフォッガースイッチ

⚠ **事故のおそれがあります**

ウインドウに雪や氷が付着しているときは、走行前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

イグニッション位置が **2** のときに使用できます。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

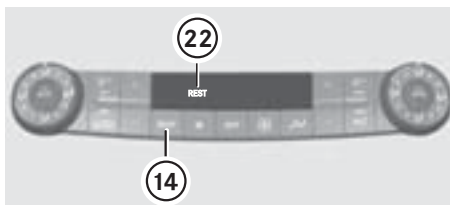
リアデフォッガーは数分後に自動的に停止します。

ⓘ リアウインドウに雪や氷が付着している場合は、それらを取り除いてから使用してください。

ⓘ 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。

ⓘ バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。また、リアデフォッガースイッチを押しても作動しない場合があります。電圧が回復すると自動的に作動を始めます。

ⓘ 外気温度が低いときは、リアデフォッガースイッチを押してもすぐに作動しない場合があります。

余熱ヒーター・ベンチレーション

⑭ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
㉒ 余熱ヒーター・ベンチレーションインジケーター

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑭を押します。

ディスプレイに余熱ヒーター・ベンチレーションインジケーター㉒が表示されます。

外気温度やエンジンを停止する前の設定温度などにより、送風口や送風温度は自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター･ベンチレーションスイッチ⑭を押します。

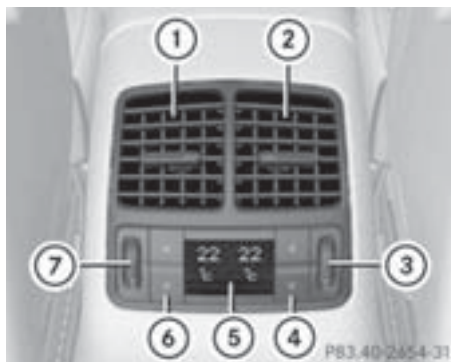
ディスプレイの余熱ヒーター・ベンチレーションインジケーター㉒が消えます。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- イグニッション位置を **2** にしたとき
- 余熱ヒーター・ベンチレーションを使用してから約 30 分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

ⓘ 送風量は弱で一定に保たれます。

ⓘ エンジン冷却水の温度が低いときや外気温度が高いときは、暖気の送風は行なわれません。

リアエアコンディショナー

①	リア中央送風口（左側）
②	リア中央送風口（右側）
③	リア中央送風口開閉ダイヤル（右側）
④	送風温度調整スイッチ（右側）
⑤	ディスプレイ
⑥	送風温度調整スイッチ（左側）
⑦	リア中央送風口開閉ダイヤル（左側）

リアエアコンディショナーは、フロントエアコンディショナーに連動して、作動 / 停止します。

ⓘ リア足元送風口が前席下部にあります。荷物などで送風口をふさがないでください。

リア中央送風口の開閉

リア中央送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル③⑦を上方にまわすと、徐々にリア中央送風口①②が開き、送風量が上がります。

リア中央送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル③⑦を下方にまわすと、徐々にリア中央送風口①②が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤル③⑦を停止するまで下方にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下方にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

リア中央送風口の風向き調整

各送風口のノブを上下左右に動かします。

送風温度の調整

送風温度を調整することができます。

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整スイッチ④⑥の上側を押します。

ディスプレイ⑤に表示される送風温度インジケーターの数字が上がります。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整スイッチ④⑥の下側を押します。

ディスプレイ⑤に表示される送風温度インジケーターの数字が下がります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! フロントアームレストの小物入れへの送風ができる車両では、送風温度により、小物入れ内が高温になることがあります。ガスライターやボンベ、熱に弱いものなどが入っている場合は、爆発したり、溶けて変形するおそれがありますので、フロントアームレストの小物入れへの送風 *（▷187 ページ）を停止してください。

ⓘ 送風温度は左右別々に設定できます。

ⓘ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ⓘ フロントの送風量調整スイッチを操作すると、リアの送風口からの送風量も増減します。

ⓘ フロントの送風温度調整スイッチでリアエアコンディショナーの送風温度を調整しているときは、リアの送風温度調整スイッチは操作できません。

ⓘ フロントエアコンディショナーで AC モードを解除しているときは、リアエアコンディショナーからも除湿 / 冷房された空気は送風されません。

スライディングルーフ *

⚠ **けがのおそれがあります**

- スライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。スライディングルーフを操作してけがをしたり、事故の原因になります。
- スライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部から、物を出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

! スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。

i スライディングルーフは、車外からリモコン操作で開くことができます（▷103 ページ）。

i スライディングルーフは、車外からリモコン操作またはキーレスゴー操作で閉じることができます（▷104 ページ）。

i スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

i スライディングルーフが自動で開閉しないときは、スライディングルーフをリセットしてください（▷199 ページ）。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、スライディングルーフを開閉できます。その間にフロントドアを開くと、スライディングルーフは開閉できなくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

① 開く
② 閉じる / チルトダウンする
③ チルトアップする

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

スライディングルーフを開く

開く

▶ スイッチを ① の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

サンシェード（▷199 ページ）が閉じているときは、連動して開きます。

自動で開く

▶ スイッチを ① の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全開します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で開いているスライディングルーフは停止します。

スライディングルーフを閉じる

閉じる

▶ スイッチを ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

自動で閉じる

▶ スイッチを ② の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全閉します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で閉じているスライディングルーフは停止します。

▶ 必要に応じて、サンシェード（▷199 ページ）を閉じます。

! スライディングルーフには挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

スライディングルーフをチルトアップする

スライディングルーフは、後部をチルトアップすることができます。

チルトアップする

▶ スイッチを ③ の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

自動でチルトアップする

▶ スイッチを ③ の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトアップします。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動でチルトアップしているスライディングルーフは停止します。

ⓘ スライディングルーフが開いている状態のときにスイッチを ③ の方向に操作して保持するか、いっぱいまで操作すると、スライディングルーフは閉じ、チルトアップした状態になります。

スライディングルーフをチルトダウンする

チルトダウンする

▶ スイッチを ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

自動でチルトダウンする

▶ スイッチを ② の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動でチルトダウンしているスライディングルーフは停止します。

挟み込み防止機能

スライディンググルーフには挟み込み防止機能があります。

スイッチを操作し続けてスライディンググルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止し、その位置から少し開きます。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動したときは、挟み込み防止機能は作動しない場合があります。

⚠ けがのおそれがあります

挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディンググルーフを閉じるときは十分注意してください。

自動でスライディンググルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

! スライディンググルーフには挟み込み防止機能がありますが、スライディンググルーフを閉じるときやチルトダウンするときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

レインクローズ機能

スライディンググルーフを開いた状態で、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにスライディンググルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

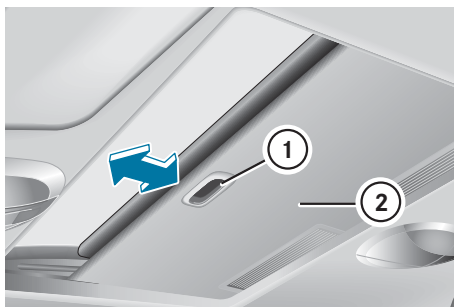
- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約 12 時間が経過したとき
- バッテリー電圧が低下したり、電力供給系統が故障したとき

! スライディンググルーフから身体や物などを出さないでください。レインクローズ機能でスライディンググルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、挟み込み防止機能が働いてスライディンググルーフがただちに停止し、その位置から少し開きます。その後レインクローズ機能は解除されます。

ℹ 以下のときは、レインクローズ機能は作動しません。

- スライディンググルーフをチルトアップしているとき
- レインセンサーに雨滴がかからないとき

ℹ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 30 秒間は、レインクローズ機能は作動しません。

サンシェード

① サンシェード
② グリップ

スライディングルーフを開くと、連動して開きます。

サンシェードは、スライディングルーフが閉じているか、チルトアップしているときに開閉できます。

サンシェードを開閉する

▶ グリップ ② を持って、前後に開閉します。

! スライディングルーフを開くときは、サンシェードとルーフ内張りの間に身体や物が挟まれないように注意してください。

スライディングルーフのリセット

スライディングルーフがスムーズに作動しないときや自動で開閉しないとき、バッテリーの接続が断たれたときは、スライディングルーフのリセットを行なってください。

▶ ヒューズ一覧（▷315 ページ）を参考に、スライディングルーフに該当するヒューズを抜きます。

▶ 再度ヒューズを差し込みます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ スイッチを ③ の方向（▷196 ページ）に押して、スライディングルーフを完全にチルトアップし、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ スライディングルーフが自動で開閉することを確認します。

自動で開閉しないときは、再度リセット操作を行なってください。

ℹ スライディングルーフのリセットができないときなどは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

荷物の積み方 / 小物入れ

小物入れ

⚠ **けがのおそれがあります**

走行中は、小物入れのカバーを開いたままにしないでください。また、シートポケットには重い物を収納しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス

左ハンドル車
① オープナーボタン
② キーシリンダー
③ カバー

グローブボックスを開く

▶ オープナーボタン①を押します。

カバー③が開きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー③を押してロックします。

ℹ グローブボックス内には、メディアインターフェース・外部入力用端子があります。詳しくは別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

ℹ イグニッション位置が **2** のときにグローブボックスを開くと、グローブボックス内のランプが点灯します。

グローブボックスの施錠

キーシリンダー②にエマージェンシーキーを差し込んでグローブボックスを施錠 / 解錠することができます。

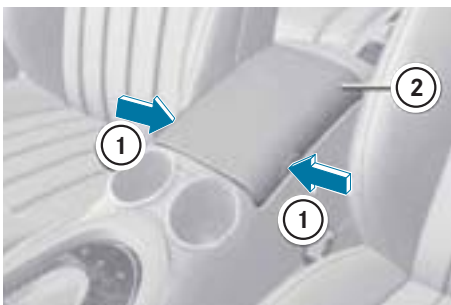
グローブボックスを施錠する

▶ キーを水平位置にまわします。

グローブボックスを解錠する

▶ キーを垂直位置にまわします。

ℹ 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

フロントアームレストの小物入れ

① ボタン
② カバー

フロントアームレストの小物入れを開く

▶ ボタン①を押してカバーを開きます。

ボタン①は左右にあり、カバー②を左右に開くことができます。

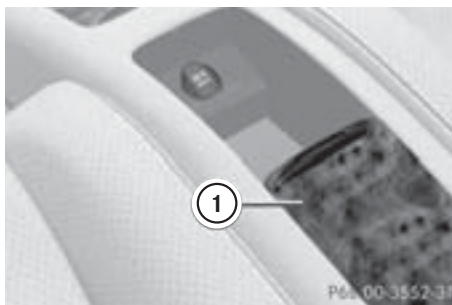
フロントアームレストの小物入れを閉じる

▶ カバー②を下げてロックします。

ℹ 車幅灯が点灯しているときにアームレストのカバーを開くと、小物入れ内のランプが点灯します。

ℹ 小物入れ内には販売店オプションの携帯電話用コネクターを装着することができます。

詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

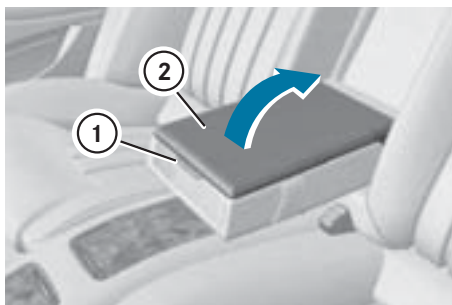
リアセンターコンソールの小物入れ

① カバー

リアセンターコンソールの小物入れを開く

▶ カバー①を後方にスライドします。

リアセンターコンソールの小物入れを閉じる

▶ カバー①を前方にスライドします。

リアアームレストの小物入れ

① レバー
② カバー

リアアームレストの小物入れを開く

▶ レバー①を引きながら、カバー②を開きます。

リアアームレストの小物入れを閉じる

▶ カバー②を閉じます。

運転席シート下の小物入れ

左ハンドル車
① ノブ
② カバー

運転席シート下の小物入れを開く

▶ ノブ①を引き、カバー②を前方に開きます。

運転席シート下の小物入れを閉じる

▶ カバー②を後方に押してロックします。

ⓘ 助手席シート下の小物入れには救急セットが収納されています。

⚠ **けがのおそれがあります**

フロントシート下部の小物入れには、重い物を収納しないでください。また、走行するときは、小物入れのカバーが確実に閉じていることを確認してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

シートポケット

① シートポケット

フロントシートの背面にはシートポケット①があります。

! シートポケットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。

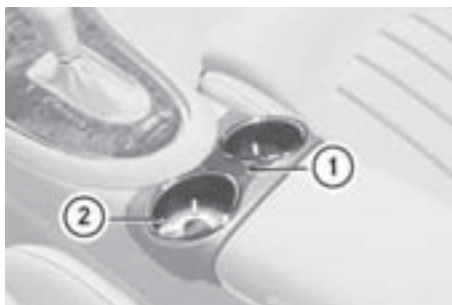
カップホルダー

⚠ **火傷のおそれがあります**

- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにカップホルダーに置いた容器が飛び出して、乗員が火傷をするおそれがあります。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。

! カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

フロントのカップホルダー

① ボタン
② カップホルダー

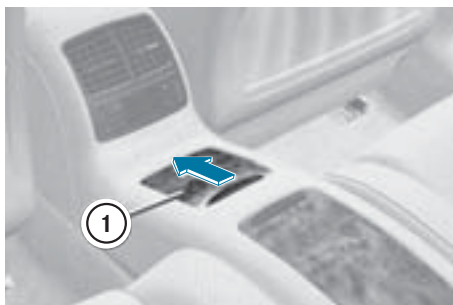
カップホルダーを使用する

▶ ボタン①を押します。

カップホルダー②がポップアップします。

カップホルダーを収納する

▶ ボタン①を押しながら、カップホルダー②を下方に押してロックします。

リアセンターコンソールのカップホルダー

① カバー

カップホルダーを使用する

▶ カバー①を前方にスライドします。

② カップホルダー
③ ロック解除ノブ

カップホルダーを取り外す

▶ ロック解除ノブ③を後方にスライドして、カップホルダー②を上方に取り外します。

カップホルダーを取り付ける

▶ カップホルダーを元の位置に戻し、ロック解除ノブ③を前方にスライドして、カップホルダー②をロックします。

i カップホルダーを取り外すと、小物入れとして使用できます。

リアアームレストのカップホルダー

① カップホルダー

カップホルダーを使用する

▶ カップホルダー①を矢印の方向に押します。

カップホルダー①が前方に出ます。

カップホルダーを収納する

▶ カップホルダー①を押してロックします。

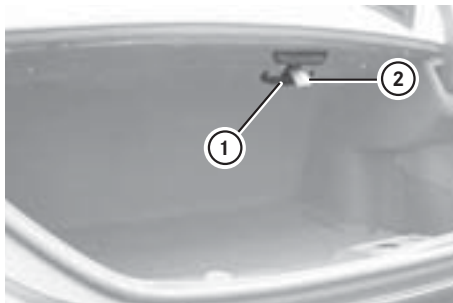
収納ネット

⚠ けがのおそれがあります

- 収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

左ハンドル車
① 収納ネット

助手席の足元には新聞や雑誌などを収納できるネットがあります。

トランクフック *

① フック
② ストラップ

トランクルームの上部に、バッグなどをかけるフックがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トランクフックを使用する

▶ ストラップ②を引いて、フック①を下げます。

! 重い物や割れやすい物、鋭利な物などをフックにかけないでください。

ルーフラック

 けがのおそれがあります

- ルーフラックを取り付けるときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。取り付け方を誤ると、事故の原因になります。
- ルーフの最大積載量（約 100kg）を超えないように注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分注意してください。

ルーフラックはダイムラー社の純正品および指定品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

① カバー

ルーフラックを取り付ける

▶ カバー①を外側に開きます。

ルーフラックを取り付けます。

! ルーフの最大積載量については（▷323 ページ）をご覧ください。

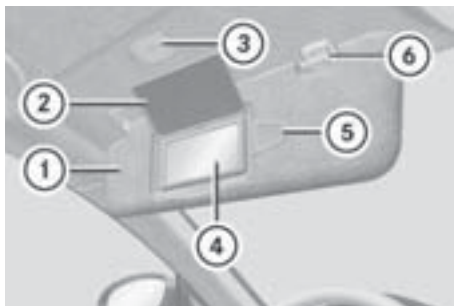
! 純正品および指定品以外のルーフラックを取り付けると車を損傷するおそれがあります。

! ルーフラックを取り付けるときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- スライディングルーフ * をチルトアップさせたときに接触しないこと
- トランクを開いたときに接触しないこと

* オプションや仕様により、異なる装備です。

室内装備

サンバイザー

① サンバイザー
② バニティミラーカバー
③ 照明
④ バニティミラー
⑤ カードホルダー
⑥ フック

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

▶ サンバイザーをフック⑥から外します。

▶ サンバイザーを横にまわします。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバーを閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

ℹ バニティミラーの横にはカードホルダー⑤があります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザー ⑥ を下げます。

▶ バニティミラーカバー ② を上方に開きます。

照明 ③ が点灯します。

使用後はバニティミラーカバーを閉じます。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により事故を起こすおそれがあります。

ℹ 照明 ③ はサンバイザーがフックにかかっているときに点灯します。

電動ブラインド（リアウインドウ）

① 電動ブラインドスイッチ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに作動します。

電動ブラインドを展開する（上げる）

▶ 電動ブラインドスイッチ①を押します。

電動ブラインドを収納する（下げる）

▶ 再度、電動ブラインドスイッチ①を押します。

! 電動ブラインドは展開 / 収納中にスイッチを再度押すとそのときの位置で停止しますが、必ず完全に展開しているか収納している位置で使用してください。中間の位置で使用すると損傷するおそれがあります。

! 電動ブラインドの展開 / 収納の妨げになるようなものを周囲に置かないでください。

灰皿

⚠ **火災のおそれがあります**

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。

フロントの灰皿

① カバー
② ノブ
③ 灰皿

灰皿を開く

▶ カバー①のマークを軽く押します。

! 開くときはマーク以外の部分を押さないでください。カバーの開閉機構を損傷するおそれがあります。

灰皿を閉じる

▶ カバー①を下方に押してロックします。

灰皿を取り外す

▶ エンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ イグニッション位置を **2** にして、ブレーキペダルを踏みながら、セレクターレバーを **N** に入れます。

▶ ノブ②を右側に押しながら、灰皿③を上方に引き上げて取り外します。

! 灰皿を取り外すときは、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿③を押し込んでロックさせせます。

リアの灰皿

右側リアドアの灰皿
① カバー
② フラップ
③ 灰皿

リアの灰皿は、左右のリアドアにあります。

灰皿を開く

▶ カバー①の上部を軽く押します。

灰皿を閉じる

▶ カバー①を押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿を開き、フラップ②を矢印の方向に引きながら灰皿③を引き上げて取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿③を押してロックさせせます。

ライター

① ライター

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ ライター①を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

⚠ **火傷や火災のおそれがあります**

- ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。
- 子供を乗せるときは、ライターを抜きとるなどして、子供が火傷をしたり、火災が発生しないように注意してください。

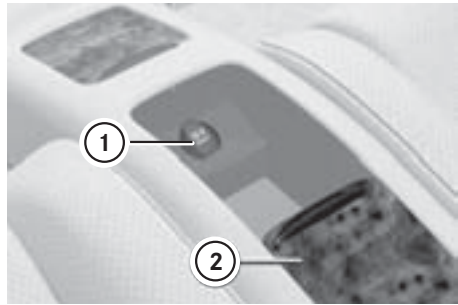
! ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。

! 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

! ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターが戻らなくなったときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、純正アクセサリーだけを使用してください。

12V 電源ソケット

① ソケットカバー
② カバー

リアセンターコンソール後部の小物入れに 12V 電源ソケットがあります。電気製品などの電源として使用します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

12V 電源ソケットを使用する

▶ 小物入れのカバー②を後方にスライドして開きます。

▶ ソケットカバー①を開き、電気製品の電源コネクターを確実に差し込みます。

! 必ず DC12V、最大消費電流 15A 以下（最大消費電力 180W 以下）の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の製品や規格以上の大きな容量の製品を使用するとヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

! 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になります。

アシストグリップ

⚠ **事故のおそれがあります**

SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなどをかけないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。

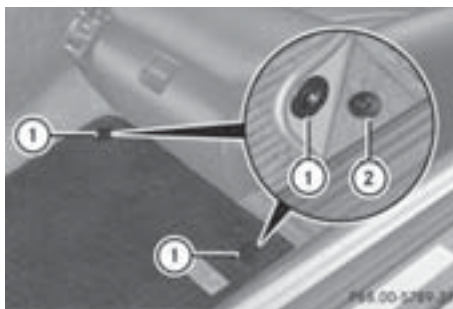
リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

! アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

! 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

! コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないようにしてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

フロアマット *

左ハンドル車
① フロアマットの凹部
② フロアの凸部

⚠ **事故のおそれがあります**

- 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
- 運転席のフロアマットは、フロアの凸部②とフロアマットの凹部①で確実に固定してください。
- 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

運転席のフロアマットを取り付ける

▶ 運転席シートを後方に動かします。

▶ フロアマットを敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

運転席のフロアマットを取り外す

▶ フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

慣らし運転

事故のおそれがあります

新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドやブレーキディスクの交換を行なったときも、同様です。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置およびギア位置 **3**、**2**、**1** は山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ℹ CLS 63 AMG は以下の注意事項を守ってください。

- 走行速度が 140km/h を超えないようにしてください。

  ※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- エンジン回転数が 4,500 回転を超えた状態で長時間走行しないでください。

ℹ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、馴らし運転を行なってください。

ℹ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

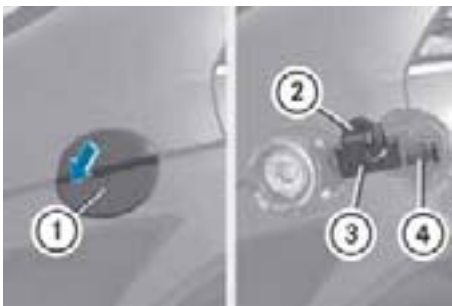
燃料の給油

燃料を給油する

 火災や爆発のおそれがあります

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。

 健康を害するおそれがあります

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

① 燃料給油フラップ
② キャップ
③ ホルダー
④ タイヤ空気圧ラベル

燃料給油フラップは、リモコン操作またはキーレスゴー操作での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の位置を押します。

燃料給油フラップ ① が少し開きます。

▶ 燃料給油フラップ ① を開きます。

▶ キャップ②を反時計回りに少しゆるめてタンク内の圧力を抜きます。

圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして外します。

▶ 外したキャップ②を燃料給油フラップの裏側にあるホルダー③に差し込みます。

▶ 給油を開始します。

給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。

▶ キャップを燃料給油口に合わせ、「カチッ」という音が聞こえるまで時計回りにいっぱいまでまわします。

▶ 燃料給油フラップ ① を閉じます。

ⓘ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル ④ が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷228 ページ）をご覧ください。

ⓘ リモコン操作やキーレスゴー操作で燃料給油フラップが解錠されないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ⓘ 燃料給油口は車両の右側後方にあります。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 軽油を燃料として使用したり、燃料に混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料供給系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡し、燃料タンクや燃料系部品を交換してください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を給油してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

エンジンルーム

ボンネット

 事故のおそれがあります

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

 火傷のおそれがあります

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

 火傷のおそれがあります

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

 けがのおそれがあります

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。

高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

 けがのおそれがあります

エンジンスイッチからキーを抜いていても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

 けがのおそれがあります

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にし、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください(▷99 ページ)。ボンネットを開いているときにワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

左ハンドル車
① ボンネットロック解除レバー

▶ イグニッション位置が **0** になっていて、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認します。

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー①を引きます。

② ロック解除ノブ

▶ ボンネットの裏側にあるロック解除ノブ②を矢印の方向に押しながらボンネットを開きます。

ボンネットを閉じる

⚠ **事故のおそれがあります**

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

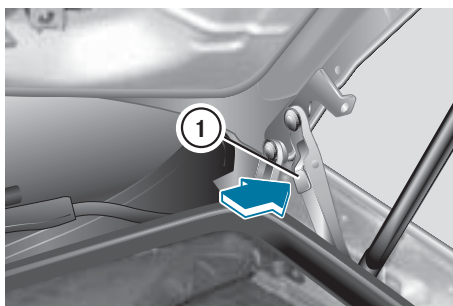
ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。

▶ ボンネットを引き下げ、グリル上部から約 20cm ～ 30cm の位置で手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。

ℹ ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ボンネットを垂直に開く

① ロック解除レバー

垂直位置まで開く

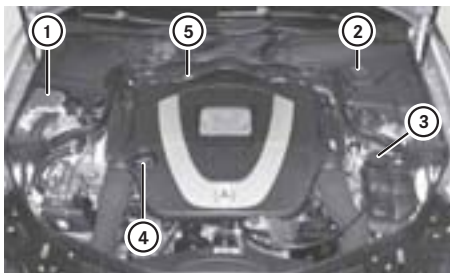
▶ ボンネットを手で少し下げながら、向かって右側のヒンジにあるロック解除レバー①を矢印の方向に押してロックを解除します。

▶ ボンネットを垂直の位置に起こします。

垂直位置から閉じる

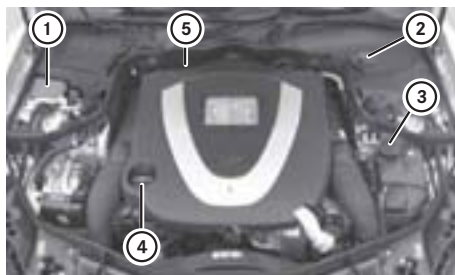
▶ 向かって右側のヒンジにあるロック解除レバーを押してロックを解除し、ボンネットを閉じます。

エンジンルーム

CLS 350

左ハンドル車

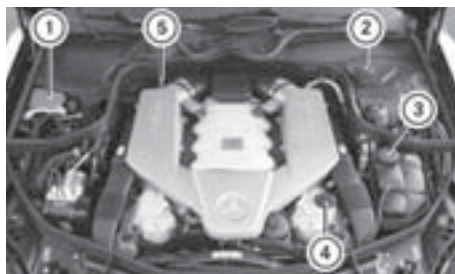
①	ウォッシャー液 リザーブタンク	225
②	ブレーキ液 リザーブタンク	224
③	冷却水リザーブタンク	221
④	エンジンオイル フィラーキャップ	220
⑤	エンジンオイル レベルゲージ	219

※ 右ハンドル車の①と②は左右対称の位置にあります。
※ ②はカバーの下にあります。
※ 仕様により、部品の形状などがイラストと異なることがあります。

CLS 550

左ハンドル車

①	ウォッシャー液 リザーブタンク	225
②	ブレーキ液 リザーブタンク	224
③	冷却水リザーブタンク	221
④	エンジンオイル フィラーキャップ	220
⑤	エンジンオイル レベルゲージ	219

※ 右ハンドル車の①と②は左右対称の位置にあります。
※ ②はカバーの下にあります。
※ 仕様により、部品の形状などがイラストと異なることがあります。

CLS 63 AMG

①	ウォッシャー液 リザーブタンク	225
②	ブレーキ液 リザーブタンク	224
③	冷却水リザーブタンク	221
④	エンジンオイル フィラーキャップ	220
⑤	エンジンオイル レベルゲージ	219

※ ②はカバーの下にあります。

エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各所を点検するときは以下の事項を厳守してください。

⚠ けがのおそれがあります

- イグニッションシステムおよびキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いているときやイグニッション位置が **0** のときでも、冷却水の温度が高い場合はエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

環　境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電に注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

エンジンオイル

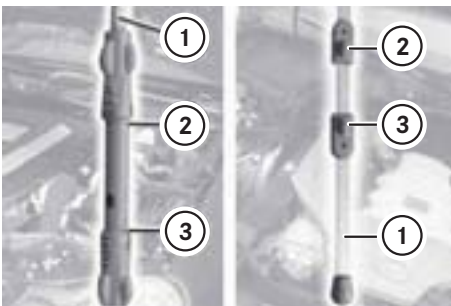
! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

i 慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

エンジンオイル量を点検する

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している
- エンジンが温まる前にエンジンを停止したときは、エンジンを停止してから約 30 分以上経過している

① エンジンオイルレベルゲージ
② 上限
③ 下限

i 車種や仕様により、エンジンオイルレベルゲージの形状が異なります。

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。

エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限②と下限③の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷263 ページ）をご覧ください。

i エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は、CLS 350 は約 2 リットル、CLS 550 と CLS 63 AMG は約 1.5 リットルです。

エンジンオイルを補給する

CLS 550
① エンジンオイルフィラーキャップ

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を反時計回りにまわして、取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

! エンジンオイルを補給しすぎないようにしてください。エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの上限を超えているときはエンジンオイルを抜いてください。エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を補給口に合わせ、時計回りにまわして、確実に取り付けます。

⚠ 火傷や火災のおそれがあります

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにエンジンオイルが付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

環　境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

エンジンオイルの交換時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルのオイル量を点検する必要はありません。

オイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

冷却水

⚠ **火傷のおそれがあります**

水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や冷却水が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の量を点検する

車が水平な場所に停車していて、冷却水が十分に冷えているときにのみ、冷却水の量を点検してください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ メーターパネルの冷却水温度計で冷却水が十分に冷えていることを確認します。

① バー
② キャップ
③ リザーブタンク

▶ リザーブタンク③のキャップ②を反時計回りにゆっくり約半回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ②をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク③内のバー①の上面に達していれば適量です。

ℹ 水温が高いときは液面が約 15mm ほど高くなります。

▶ キャップ②を確実に閉じます。

! 冷却水警告灯(▷268、269 ページ)が頻繁に点灯するときは、冷却水が漏れている可能性があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! 冷却水が適量でも、冷却水警告灯が点灯しているときは、冷却装置が故障しています。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク③のキャップ②を反時計回りにゆっくりと約半回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ②をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域(最低気温)によって濃度を変えます(▷322 ページ)。

⚠ **火傷や火災のおそれがあります**

不凍液をエンジンルームにこぼさないでください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

▶ キャップ②を確実に閉じます。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- 冷却水警告灯が点灯し、警告音が鳴る。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

火災のおそれがあります

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

 火傷をするおそれがあります

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷262 ページ）をご覧ください。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

ラジエターの冷却ファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、ラジエターの冷却ファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷222 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

 事故のおそれがあります

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷260、261 ページ）、ブレーキ警告灯（▷236 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

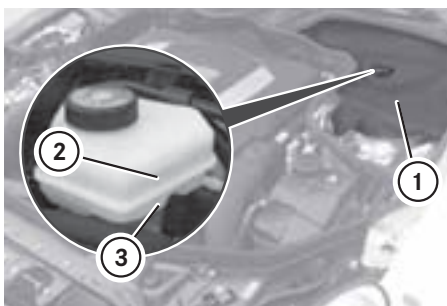
 事故のおそれがあります

必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

 火傷や火災のおそれがあります

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷261 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

左ハンドル車
① カバー
② レベルインジケーター上限（MAX）
③ レベルインジケーター下限（MIN）

▶ ブレーキ液リザーブタンク上部のカバー①を取り外します。

▶ ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーター上限（MAX）②と下限（MIN）③の間にあれば正常です。

※ 右ハンドル車のブレーキ液リザーブタンク①は、エンジンルームに向かって左側にあります。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限（MAX）を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

i **ベーパーロック：**長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

ウォッシャー液を補給する

左ハンドル車
① ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ

⚠ **火災のおそれがあります**

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

▶ リザーブタンクのキャップ①を開いて補給します。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します（▷323 ページ）。

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷264 ページ）をご覧ください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用の 2 種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

i ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 事故のおそれがあります

- 純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、ブレーキシステムやサスペンションを損傷したり、事故を起こすおそれがあります。
- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷228 ページ）。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

! ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。

! 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なると、車両操縦性や燃費に悪影響をおよぼしたり、騒音が発生するおそれがあります。また、重い荷物を積載しているときやスノーチェーンを装着しているときに、タイヤがフェンダー内側やサスペンションに接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。

! 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

! トレッドがひどく摩耗したタイヤでは走行しないでください。濡れた路面では特に、アクアプレーニング現象が発生しやすくなります。

! タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」参照）を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン (別冊「整備手帳」参照) が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

! ほこりや水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧測定装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

! タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。

! タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。

走行時の注意

- タイヤやホイールが損傷していると、走行しているときに振動や騒音が発生したり、ステアリングがどちらか一方に取られるなど不自然な動きをすることがあります。このようなときはただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石に接触しないようにしてください。

  また、縁石や路面の段差、凹凸物などを乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にして速度を落として乗り越えてください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。

タイヤを清掃するとき

- タイヤを清掃するときは、高圧式スプレーガンなどを使用しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキディスクが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

タイヤの回転方向について

回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、アクアプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています（▷213ページ）。

乗車人数や荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar（≒ kg/cm²）」と「psi」で示しています。

 環　境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

 事故のおそれがあります

空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。

タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

 事故のおそれがあります

ホイールバルブには純正品または承認されたバルブキャップ以外のものを装着しないでください。特にバルブに装着するタイプの市販のタイヤ空気圧計測装置を装着すると、ホイールバルブに負担がかかり、ホイールバルブが脱落するおそれがあります。また、構造上バルブが常に開いた状態になり、空気漏れにつながるおそれがあります。

 事故のおそれがあります

タイヤ空気圧が何度も低下するときは以下のことを確認してください。

- タイヤに異物がささっていないこと
- ホイールやタイヤバルブから空気が漏れていないこと
- 純正品または承認されたバルブキャップが装着されていること

タイヤ空気圧が低いときは、車の走行安全性に悪影響をおよぼし、事故につながるおそれがあります。

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 0.1bar 変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

i "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

i 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

i 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約 0.3bar ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

i 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。

タイヤ空気圧警告システム

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

⚠ 事故のおそれがあります

空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照し、必ず規定の空気圧に調整してください。

タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。

突然の空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 車内やルーフに重い荷物を積んで走行しているとき

上記に該当しない条件で約 20km/h 以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

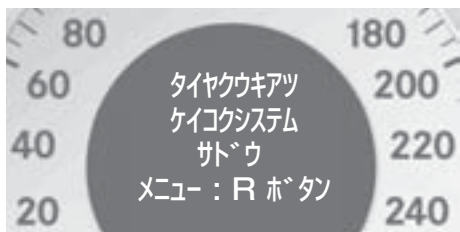
以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷228 ページ）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

⚠ 事故のおそれがあります

- タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。
- タイヤ空気圧が低いときは、車の走行安定性に影響をおよぼし、事故につながるおそれがあります。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ステアリングの [icon] または [icon] を押して、車両情報メイン画面を表示させます（▷124 ページ）。

▶ [▲] または [▼] を押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

"ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻﾄﾞｳ ﾒﾆｭｰ：R ﾎﾞﾀﾝ" と表示されます。

ⓘ マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ ﾃﾞ ｻﾄﾞｳ" と表示されたときは、イグニッション位置を **2** にしてください。

▶ リセットボタン（▷118 ページ）を押します。

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ ?" と表示されます。

▶ [+] を押して、"ﾊｲ" を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ" と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

ⓘ マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ ?" と表示されてから、約 15 秒間何も操作をしないと、再起動は中断されます。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もっているときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやトランクの凍結

ドアやトランクが凍結しているときは、以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやトランクが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップを損傷するおそれがあります。
- ドアウインドウが凍結していたり、バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウは下降しません。

  このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアやドアウインドウ、シール部などを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり、フェンダーの内側に雪が詰まって固まっていると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、トランク、ドアウインドウ、スライディングルーフ * などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **中毒のおそれがあります**

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り、一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを **P** に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないように心がけてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで ABS や ESP の効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください（▷326 ページ）。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ウィンタータイヤの溝の深さが約4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両操縦性や走行安定性、制動性能が大きく低下するので注意してください。

  スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、ホールド機能やクルーズコントロール、ディストロニック * は使用しないでください。

! 取り外したウィンタータイヤは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所で保管してください。

ℹ ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

! スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

! スノーチェーン装着時は約50km/h 以下の速度で走行してください。

! 前後のタイヤサイズが異なる車種の標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。

! AIR マティック DC サスペンション装備車にスノーチェーンを装着したときは、車高調整スイッチで車高を上げて走行してください（▷175 ページ）。標準の車高では、スノーチェーンがボディに接触し、ボディを損傷するおそれがあります。

! 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。

! スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ スノーチェーン装着時は、ESP の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

ℹ スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

雪道や凍結路面の走行

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードをCモードに切り替えてください（▷111 ページ）。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- ホールド機能やクルーズコントロール、ディストロニック * を使用しないで下さい。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行して、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行時の注意

エンジンを停止しての走行

事故のおそれがあります

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

事故のおそれがあります

- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。

事故や火災のおそれがあります

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドやブレーキディスクの交換を行なったときも、同様です。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

! 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 高速道路を走行しているときなどブレーキを効かせずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

i クルーズコントロールや可変スピードリミッター、ディストロニック * の作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

i 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。

CLS 63 AMG のブレーキの注意事項

CLS 63 AMG の高性能ブレーキシステムは、走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境によりブレーキノイズを発生することがあります。

また、ブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いは高くなります。

(!) ブレーキ警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは、警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯する場合は、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷260、261 ページ）をご覧ください。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります

ⓘ **エンジンブレーキ：**走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は約 25cm です。

  波が立たないような速度で走行してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が浸入するおそれがあります。

車の周囲が雪で覆われているとき

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道で駐車するとき

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールやディストロニック * は使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。また、AC モードでエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

ダイムラー社指定の点検整備

ダイムラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約 1 カ月前になると、イグニッション位置を **2** にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

画面は数秒後に表示前の画面に戻ります。

表示中に画面を戻すときは、リセットボタン（▷118 ページ）を押します。

手動で表示させる

メンテナンスインジケーター画面は、手動でも表示できます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ [▲] または [▼] を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。"#" には "A" から "H" までのアルファベットが入ります。

点検整備実施前の表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｦ ｳｹﾃｸﾀﾞｻｲ !"

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX km ｺｴﾃｲﾏｽ "

点検整備実施時期を過ぎたときは、警告音も鳴ります。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を指定の時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

i " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" など、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " の後に表示される "A" から "H" のアルファベットは、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲は該当しません。

i ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ＋ " " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ＋ " など、"A" から "H" のアルファベットの後に " ＋ " の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。

i ブレーキパッドは次回の点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で相談の上、以下のどちらかで対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

i メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。

i バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、ダイムラー社が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

中毒や火災のおそれがあります

一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。

車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石などにより塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼付しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 洗車するときは、マフラーやその周辺に注意してください。マフラーやその周辺に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。

- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

自動洗車機の使用

 事故のおそれがあります

自動洗車機を使用するときは、必ずホールド機能を解除してください。

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 高圧洗浄を行なう自動洗車機は使用しないでください。ドアやスライディングルーフ * などから水漏れを起こすおそれがあります。
- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- ワイパーを停止してください（▷99 ページ）。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 塗装面を磨かないでください。また、塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装の修復などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは、ノンブラシ式の自動洗車機を使用してください。また、車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。

! 高温のワックス処理を行なう自動洗車機は使用しないでください。

ランプ類の手入れ

ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! 有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。また、ヘッドランプウォッシャーは必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

センサーの手入れ

ディストロニックセンサー * やパークトロニックセンサーを清掃するときは、流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! センサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! センサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

マフラーの手入れ

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車内

- プラスチック部分は、少量の中性洗剤などを混ぜた水を柔らかい布に含ませて拭き取ります。

  乾いた布や目の粗い布、かたい布などを使用したり、強くこすらないでください。表面を損傷するおそれがあります。
- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けがのおそれがあります

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

 火災や爆発のおそれがあります

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを **N** に入れて、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

セレクターレバーを **N** に入れられないときは、乗員を安全な場所に避難させ、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具も使用してください。

i セレクターレバーを **P** から動かせないときは、パーキングロックを手動で解除できます。詳しくは（▷284 ページ）をご覧ください。

非常信号用具

懐中電灯をフロントドアポケットに装備しています。

ℹ 新品時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

CLS 350 / CLS 550
① 停止表示板ケース
② ストラップ

停止表示板はトランクルーム内のトランクフロアボードの下に収納されています。

停止表示板を取り出す

▶ トランクフロアボードを開きます（▷250 ページ）。

▶ ストラップ②を外して、停止表示板ケース①を取り出します。

▶ 停止表示板ケース①から停止表示板を取り出します。

停止表示板の組み立て

③ スタンド
④ 反射板
⑤ フック

▶ スタンド③を引き出して、停止表示板を地面に立てます。

▶ 反射板④を開いて三角形をつくり、頂点のフック⑤をかみ合わせます。

※ 停止表示板の形状が異なる場合があります。

救急セット

右ハンドル車
① ノブ
② カバー

救急セットは助手席シート下部の小物入れに収納されています。

ℹ 救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

救急セットを取り出す

▶ ノブ①を引きながら、カバー②を矢印の方向に開きます。

▶ 救急セットを取り出します。

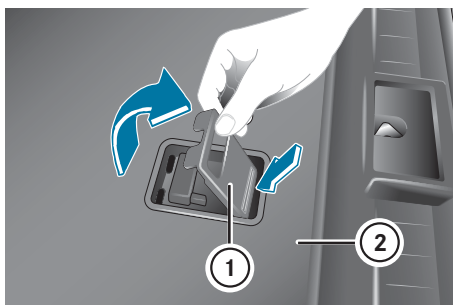
救急セットを収納する

▶ 救急セットを入れてから、カバー②を閉じます。

ℹ 走行するときは、カバーが確実に閉じていることを確認してください。

車載工具

車載工具はトランク内のトランクフロアボードの下に収納されています。

トランクフロアボードを開く

① ハンドル
② トランクフロアボード

▶ ハンドル①を起こし、トランクフロアボード②を引き上げます。

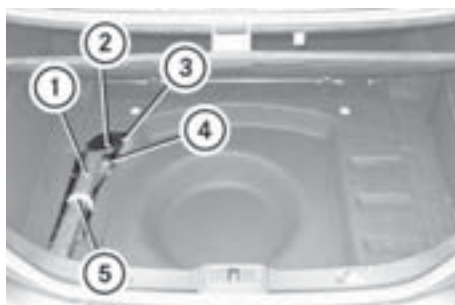
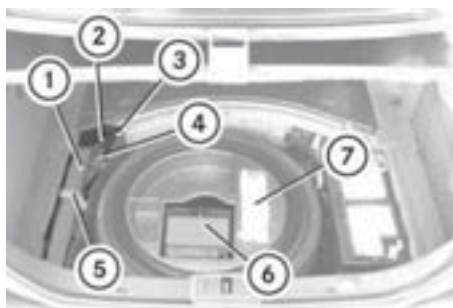
▶ トランクフロアボード②を支えながら、ハンドル①をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。
- 車の下で作業をするときは、必ずリジッドラックなどを使用してください。
- ジャッキは、かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。また、ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動しないでください。車が落下するおそれがあります。

❗ トランクフロアボードのハンドル①をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけたままトランクを閉じないでください。ハンドルを損傷します。

ℹ ジャッキを使用するときは、"パンクしたとき"（▷290 ページ）に記載されている安全に関する内容も必ずお読みください。

応急用スペアタイヤが車載されている車種

CLS 350 / CLS 550
① 停止表示板ケース
② ジャッキ
③ 輪止め
④ 車載工具
⑤ ストラップ

CLS 63 AMG
① 停止表示板ケース
② ジャッキ
③ 輪止め
④ 車載工具
⑤ ストラップ
⑥ 電動エアポンプ
⑦ タイヤ収納カバー

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車載工具を取り出す

▶ トランクフロアボードを開きます(▷250 ページ)。

▶ ラゲッジトレイ * を取り外します(▷252 ページ)。

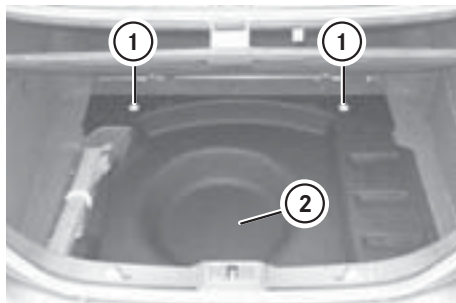
▶ ストラップ⑤を外します。

▶ 停止表示板ケース①を取り出します。

▶ 車載工具④を取り出します。

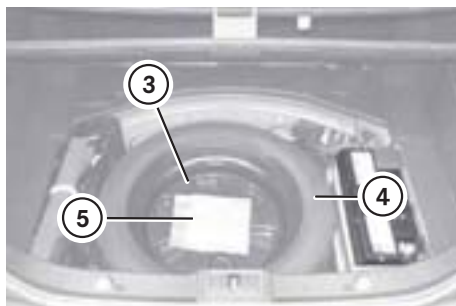
ホイールレンチ、ガイドボルト、けん引フック、手袋などが車載工具に収納されています。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

応急用スペアタイヤを取り出す（CLS 350 / CLS 550）

① 固定キャップ
② ラゲッジトレイ

▶ トランクフロアボードを開きます（▷250 ページ）。

▶ 固定キャップ①をドライバーやエマージェンシーキーなどでまわして外します。

▶ ラゲッジトレイ②を取り外します。

③ ホルダー
④ 応急用スペアタイヤ
⑤ タイヤ収納カバー

▶ ホルダー③を反時計回りにまわして外します。

▶ 応急用スペアタイヤ④を取り出します。

応急用スペアタイヤを取り出す（CLS 63 AMG）

① トレイ
② 応急用スペアタイヤ
③ タイヤ収納カバー

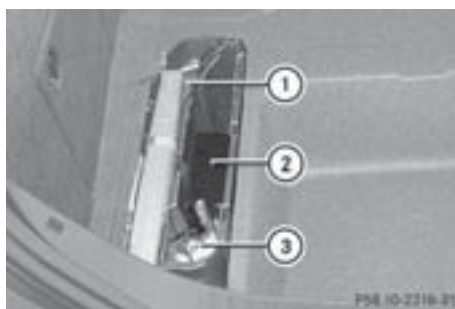
▶ トランクフロアボードを開きます（▷250 ページ）。

▶ トレイ①と、応急用スペアタイヤ②の内側にあるスペーサーを取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤを固定しているスクリューを反時計回りにまわして外します。

▶ 応急用スペアタイヤ②を取り出します。

! ラゲッジトレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

タイヤフィットが車載されている車種

① 停止表示板ケース
② 電動エアポンプ
③ タイヤフィット

▶ トランクフロアボードを開きます(▷250 ページ)。

▶ ラゲッジトレイ * を取り外します。

輪止め

ジャッキを使用するときなどには、輪止めを使用し、車が動き出さないようにしてください。

輪止めを組み立てる

▶ プレートを引き起こします①。

▶ 裏面のプレートを引き出します②。

▶ 裏面のプレートの突起部分を、ベースプレートの開口部に差し込みます③。

! 輪止めを使用するときは図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ 事故のおそれがあります

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- 走行する前には必ずイグニッション位置を **2** にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの [ボタン] または [ボタン] スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイに故障表示画面を表示させせます。

故障や異常がある場合は、" ｺｼｮｳｶﾞ 3" のように故障件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、故障表示画面は表示されません。

▶ [▲] または [▼] を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面に戻ります。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの ▣ ▣ や ▲ ▼ スイッチ、または リセットボタンを押します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

⚠ **事故やけがのおそれがあります**

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ABS	ABS ト ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS と ESP、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 通常のブレーキ時の制動力は確保されている。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ABS	ABS ト ESP ｼｮｳ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ！ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ABS と ESP、PRE-SAFE が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 通常のブレーキ時の制動力は確保されている。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
DISTRONIC	ﾀｲｷ	アクセルペダルを踏んで速度を上げたため、ディストロニックが走行速度の制御をしていない。 ▶ アクセルペダルから足を放して速度を下げてください。
DISTRONIC	- - -	ディストロニックの作動条件を満たしていない。 ▶ 設定可能な状態であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、ディストロニックを作動させてください。 または ▶ ディストロニックの作動条件を確認してください（▷161 ページ）。
DISTRONIC	ｺｼｮｳ	ディストロニックに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
DISTRONIC	ｹﾞﾝｻﾞｲ ｼﾖｳﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	以下のときは、ディストロニックの機能が解除され、一時的に作動を停止している。 • フロントのディストロニックカバーが汚れている • 豪雨や雪、霧などのため、機能が解除されている • 電磁波の干渉などにより、センサーが一時的に作動を停止している • センサーが長時間、先行車や交通標識などの静止物を検知していなかった • システムが過熱している 走行中に泥などの汚れが落ちたとき、またはセンサーが再び完全に機能していることをシステムが検知したときは、メッセージが消え、ディストロニックが作動を再開します。 ▶ 必要であれば、システムが冷えるまで待ってください。 **メッセージが消えないとき** ▶ フロントグリルのディストロニックカバーを清掃してください。 ▶ エンジンを再始動してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ESP	ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP、BAS、PRE-SAFE の機能が作動しない状態になっている。 メーターパネルの ⚠ も点灯している。 通常のブレーキ時の制動力は確保されている。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
P	ｾﾚｸﾀﾚﾊﾞｰ P ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	ホールド機能が作動しているときに以下のいずれかのことを行なった。 • 運転席ドアを開いて、運転席の乗員がシートベルトを外した • エンジンを停止した • ボンネットのロックを解除した 状況によっては、ホーンが等間隔で鳴ったり、リモコン操作で施錠しようとすると、ホーンの音量が上がることがある（▷172 ページ）。また、エンジンを始動することができない。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。 エンジンが停止しているときは、エンジンが始動できるようになります。
		セレクターレバーが D または R に入っているときに、キーレスゴースイッチでエンジンを停止しようとした。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。
ﾌﾟﾚｾｰﾌ	ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **けがのおそれがあります** PRE-SAFE が故障している。エアバッグなど他の乗員保護装置の機能は確保されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ	ﾀｲﾔｦ ﾃﾝｹﾝ！	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 必要であればタイヤを交換するか修理してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷230 ページ）。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾀｲﾔｸ ｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ	ｺｼｮｳ	タイヤ空気圧警告システムが異常を検知した。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾀｲﾔｦ ﾃﾝｹﾝ	ｿﾉｺﾞ ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれた。 ▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。
ﾎｰﾙﾄﾞ	ｵﾌ	ホールド機能が解除されている。 ブレーキペダルを強く踏み込んだときに車が横滑りしていたか、ホールド機能の作動条件を満たしていなかった。 ▶ 後ほど、再度ホールド機能を作動させてください。
ﾎｰﾙﾄﾞ	ｻﾄﾞｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	ホールド機能の作動条件を満たしていない。 ホールドの作動条件を確認してください（▷171 ページ）。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。 ▶ 運転席ドアを閉じてください。 ▶ エンジンを始動してください。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 ▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、ホールド機能は作動できる状態になります。
ﾎｰﾙﾄﾞ	ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	ホールド機能が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾖﾋﾞ ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ	ｺｼｮｳ	可変スピードリミッターとクルーズコントロールまたはディストロニックが作動しない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS	SRS ｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ！	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置に異常がある。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ	－－－km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。 ▶ ESP を待機状態にしてください。 ▶ 設定可能な状況であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。

イラストメッセージ

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
		以下の理由により、バッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの異常 • V ベルトが切れている • 電気システムの故障 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、ただちに安全に停車して、V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき** ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		トランクが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ トランクを確実に閉じてください。
		⚠ 事故のおそれがあります ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車してください。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
		ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ ドアを確実に閉じてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
		ラジエターの冷却ファンに異常がある。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ その場合は、山道の走行や発進 / 停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷を避けてください。
	ｼｬｺｳ ｶﾞ ｱｶﾞﾘﾏｽ	**AIR マティック DC サスペンション装備車：** システムが車高を調整している。
	ｼｬｺｳ ｶﾞ ｱｶﾞﾘﾏｽ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ	**AIR マティック DC サスペンション装備車：** 停車時の車高が下がりすぎている。 ▶ 走行しないでください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってください。 走行に適した車高になります。
	ﾃｲｼｬ 、ｼｬｺｳ ｶﾞ ﾋｸｽｷﾞﾏｽ！	⚠ **事故のおそれがあります** AIR マティック DC サスペンションに異常がある。 ❗ ステアリングを大きくまわさないでください。フロントフェンダーやタイヤを損傷するおそれがあります。タイヤとボディの擦れる音がしないか確認してください。 ▶ 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ ステアリングを大きくまわさないでください。フロントフェンダーやタイヤを損傷するおそれがあります。 ▶ 安全な場所に停車して、より高い車高レベルを選択してください。故障内容によっては、これにより車高が上がることがあります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｺｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** AIR マティック DC サスペンションの機能が制限される。 車両操縦性に影響する可能性がある。 ▶ 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ﾊﾟｯﾄﾞ ﾏﾓｳ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｽｸﾞﾆ ﾌﾞﾚｰｷ ｦ ﾌﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ！	ホールド機能の作動中に異常が発生した。 ホーンが等間隔で鳴っている。施錠しようとすると、ホーンの音量が上がる。 エンジンを始動することができない。 ▶ マルチファンクションディスプレイの表示が消えるまで、ただちにブレーキペダルを確実に踏んでください。 ▶ 車から離れるときは、輪止めを使用するなど、車が動かないように十分注意してください。 エンジンを再始動できます。
	EBV, ABS, ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBV、ABS、ESP の機能が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除され、PRE-SAFE の機能も作動しない状態になっている。 通常のブレーキ時の制動力は確保されている。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクに十分な量のブレーキ液がない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。問題が解消されることはありません。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｶｲｼﾞｮ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
	ﾌｭｰｴﾙ ﾌｨﾙﾀ ｾｲｿｳ	燃料フィルターに水が混入している。水を抜く必要がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ 、 ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ！	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ 雪などにより、フロントグリルが覆われてラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを再始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが損傷していないとき** ▶ メッセージが消えない場合はエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。 **V ベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	冷却水量が不足している。 ▶ 補給時の注意事項を参照しながら、冷却水を補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰﾋﾞｰﾑ [1]	左ヘッドランプ（ロービーム）が切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ランプセンサーに異常がある。ヘッドランプ点灯モード（▷141 ページ）がオンになる。 ▶ マルチファンクションディスプレイの各種設定で、ランプを手動点灯モードに切り替えてください。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。

1）他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状／▶ 対応
	ｴｱｸﾘｰﾅ ｺｳｶﾝ	エンジンエアフィルターの交換時期になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が限界まで下がっている。 ▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ ｼﾃｲ ﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ！	いくつかの電気システムがマルチファンクションディスプレイに情報を伝達できない。以下のシステムが故障している可能性がある。 • 冷却水温度計 • タコメーター • クルーズコントロールおよび可変スピードリミッターの表示 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｰ ﾉ ﾊﾞｯﾃﾘ ｦ ｺｳｶﾝ	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの電池を交換してください。
	ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ （赤色で表示）	車内にキーがない。 エンジンを停止すると、施錠したりエンジンを再始動することができない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車してください。 ▶ キーを探してください。
		エンジンがかかっていて、キーが車内にあるときにこのメッセージが赤色で表示されたときは、電磁波などの影響により、キーが検知されていない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車してください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ （白色で表示）	キーが検知されていない。 ▶ 車内に置いてあるキーの位置を変えてください。 ▶ それでもキーが検知されないときは、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作してください。
	ｷｰ ｶﾞ ｼｬﾅｲﾆ ｱﾘﾏｽ！	キーレスゴーで施錠するときに、キーが車内にあると検知されている。 ▶ キーを車外に持ち出してください。
	ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	キーが機能しなくなっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		燃料の残量がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ﾈﾝﾘｮｳﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ｳｫｯｼｬｴｷ ﾎｼﾞｭｳ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください。

トラブルの原因と対応

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
シートヒーターが短時間で停止したり、作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されると、シートヒーターは自動的に作動します。
エアコンディショナーの AC スイッチ A/C を押すと、表示灯が 3 回点滅して消灯する。 除湿 / 冷房された空気が送風されない。	故障のため、除湿 / 冷房機能が解除されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
リアデフォッガーの表示灯が点滅している。リアデフォッガーが短時間で停止したり、スイッチを押しても作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されると、リアデフォッガーは自動的に作動します。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
チャイルドセーフティシートセンサー装備車： センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。
	⚠ けがのおそれがあります 助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着していない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。 ▶ 助手席のシート座面に以下のものを置いているときは取り除いてください。 • ノートブックパソコン • 携帯電話 • 磁気カードや IC カード **電子機器やカードを取り除いても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯するとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

表示灯 / 警告灯

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ 事故のおそれがあります 故障のため、ABS の機能が解除されている。そのため、BAS、ESP、EBV、PRE-SAFE の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに追加して表示される故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
⚠	エンジンがかかっているときに黄色の ESP 表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP の機能が解除されている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 ▶ ESP を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。
⚠	エンジンがかかっているときに黄色の ESP 表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP が作動しない状態になっている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
⚠	走行中に黄色の ESP 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** 車が横滑りをしているか車輪が空転しているため、ESP やトラクションコントロールなどが作動している。 クルーズコントロールまたはディストロニックが自動的に解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP の機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。
(!)	走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯は消灯し、警告音も鳴り止みます。
(!)	エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクに十分な量のブレーキ液がない。 ▶ 状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに追加して表示される故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。問題が解消されることはありません。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 設定した車間距離に比べ、先行車との車間距離が短すぎる。 ▶ 車間距離を十分に確保してください。
	走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** 先行車に急激に接近している。または、ディストロニックが走行線上に静止した障害物を検知している。 ▶ いつでもブレーキペダルを踏める準備を整えてください。 ▶ 交通状況に注意してください。ブレーキペダルを踏むか回避操作を行なわなければならない可能性があります。
	エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。	リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は冷却水を補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。	冷却水量が正常なときは、ラジエターへの送風が遮られているか、リザーブタンクの冷却水量が不足している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 雪などにより、フロントグリルが覆われて、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ その場合は、山道の走行や発進 / 停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷を避けてください。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(冷却水警告灯)	エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水温度が約 120℃を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している可能性がある。 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ 雪などにより、フロントグリルが覆われて、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は冷却水を補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(冷却水警告灯)	エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障しているおそれがある。 冷却水温度が約 120℃を超えている。エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
(エンジン警告灯)	エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある可能性がある。 • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS	エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。 ⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も鳴り止みます。 ⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も鳴り止みます。
	エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

警告音

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
盗難防止警報が作動した。	盗難防止警報システムが待機状態のときに、運転席ドアまたはトランクをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システムが待機状態のときに、車内からドアを開くか、ボンネットのロックを解除した。 ▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押してください。 または ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。 ▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（▷254 ページ〜）。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
	車幅灯を消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。
ホーンが断続的に鳴った。	ホールド機能が作動しているときに、エンジンを停止するか、運転席ドアを開いて運転席の乗員がシートベルトを外すか、ボンネットのロックを解除した。 ▶ ホールド機能を解除してください。

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがある。 ▶ ただちにエンジンを停止してください。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜いてください。 状況を問わず、エンジンを再始動しないでください。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷箇所が見当たらない。	▶ 通常通りエンジンを始動してください。
運転席と助手席のヘッドレストが前方に動いた。	追突などの事故により、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した。 ▶ NECK PRO アクティブヘッドレストをリセットしてください（▷285 ページ）。

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを再始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 ▶ リモコン操作で解錠してください。
	燃料給油フラップは解錠されたが、開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。	ホールド機能が作動している。 ▶ ホールド機能を解除してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。
エンジンが始動しない。 スターターモーターの作動音が聞こえる。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 • バッテリーの電圧が非常に低下しているか、充電されていない。 ▶ エンジンを再始動する前に、イグニッション位置を **0** に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください（▷105 ページ）。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 **何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 スターターモーターの作動音が聞こえる。 燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。 スターターモーターの作動音が聞こえない。	バッテリーの電圧が非常に低下しているか、充電されていない。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷307 ページ）。 **エンジンが始動しないとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 ▶ 約 2 分間スターターを冷やしてください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 **エンジンが始動しないとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムが故障している。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 燃焼していない燃料により、触媒を損傷するおそれがあります。
冷却水温度が約 120℃を超えている。 冷却水警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに安全な場所に停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、注意事項を参照しながら、冷却水を補給してください（▷221、222 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ その場合は、山道の走行や発進 / 停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷を避けてください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアで走行できる場合がある。 ▶ 停車してください。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。 ▶ エンジンを停止して、イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ セレクターレバーを D に入れます。 2 速ギアになります。 または ▶ セレクターレバーを R に入れます。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

パークトロニック

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約 2 秒間警告音が鳴った。 約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックの故障により、機能が停止している。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷245 ページ）。 ▶ 再度、イグニッション位置を **2** にしてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除された。	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷178 ページ）。

ヘッドランプ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ヘッドランプの内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。 ▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらく走行すると、ヘッドランプ内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットが密閉されていないため、水分が侵入している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でヘッドランプの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ワイパーが正しく作動しない。	葉や雪などがワイパーの作動を妨げている。 ワイパーモーターの作動が停止している。 ▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	⚠ **事故のおそれがあります** ワイパーが故障している。 ▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。
ウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に噴射されない。	ウインドウウォッシャー液の噴射ノズルの角度が適切でない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で噴射ノズルの角度を調整してください。

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアウインドウが全閉しない。	ドアウインドウの作動を妨げているものがあり、閉じなくなっている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	原因が分からない場合。 ▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを引きます。 ドアウインドウが閉じないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアミラー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。	▶ ギアが噛み合う音が聞こえるまで、ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷82 ページ）を繰り返し押します。 ドアミラーユニットのギアが噛み合うと、通常通りドアミラーを格納 / 展開できるようになります。

キー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ 至近距離でキーの先端部を運転席ドアハンドルに向け、再度解錠 / 施錠操作をしてください。 **リモコン操作ができないとき** ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください（▷282 ページ）。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷285 ページ）。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作で解錠 / 施錠できない。	車が解錠されてから長時間経過したため、キーレスゴーの機能が解除された。 ▶ ドアハンドルを 2 回引き、エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ リモコン機能で車を解錠 / 施錠してください。至近距離でキーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、再度解錠 / 施錠操作してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
	強い電波などの干渉を受けている。 ▶ エマージェンシーキーで車を解錠 / 施錠してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーを紛失した。	▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 新しいキーの入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エンジンスイッチがまわらない。	エンジンスイッチからキーを抜かずに 0 の位置で長時間放置していた。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。 ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ エンジンを始動してください。
	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してから、再度エンジンスイッチをまわしてください。 **それでもエンジンスイッチがまわらないとき** ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷290 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
キーレスゴー操作をしても、エンジンが始動できない。 キーは車内にある。	ドアが開いているため、キーが検知されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンを始動しない期間が約 4 週間以上におよぶとき。	バッテリーが完全にあがると、バッテリーが損傷する可能性がある。 ▶ バッテリーからケーブルを外してください。 ℹ バッテリーの点検はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。
エンジンを始動しない期間が約 6 週間以上におよぶとき。	車を長期間にわたって使用しないと、不具合が発生する可能性がある。 ▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

非常時の施錠 / 解錠

エマージェンシーキー

リモコン操作やキーレスゴー操作で車両を解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠できます。

車を施錠した後にエマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

▶ キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押す。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込む

▶ キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷61 ページ）にあるときは、ドアハンドルを握る

▶ キーがキーレスゴーのトランク側アンテナの検知範囲（▷61 ページ）にあるときは、トランクのハンドルを引く

▶ キーがキーレスゴーの車室内アンテナの検知範囲（▷61 ページ）にあるときは、セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押す

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、トランク、燃料給油フラップは解錠されません。

キーからエマージェンシーキーを取り外す

① ストッパー
② エマージェンシーキー

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから引き抜きます。

運転席ドアの解錠 / 施錠

左ハンドル車
① 解錠位置
② 施錠位置

右ハンドル車
① 解錠位置
② 施錠位置

リモコン操作やキーレスゴー操作ができないときは、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠 / 施錠することができます。

エマージェンシーキーでの運転席ドアの解錠

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠位置①にまわします。

ロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

▶ エマージェンシーキーをキーシリンダーから抜きます。

ⓘ 助手席ドアのドアハンドルにはキーシリンダーはありません。

エマージェンシーキーでの車の施錠

▶ 運転席ドアを開きます。

▶ 助手席ドア、リアドア、トランクを閉じます。

▶ ドアロックスイッチ（▷66 ページ）の下側を押して施錠します。

▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブが下がっていることを確認します。

下がっていないときは、ロックノブを押し込みます。

▶ 運転席ドアから車を降ります。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを施錠位置②にまわします。

運転席ドアのロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。

▶ エマージェンシーキーをキーシリンダーから抜きます。

▶ ドアとトランクが施錠されていることを確認します。

トランクが施錠されていないときは、トランクを独立施錠（▷70 ページ）します。

エマージェンシーキーでのトランクの解錠

① キーシリンダー
② キーの凸部
③ 差し込む / 抜く位置
④ 解錠位置
⑤ ハンドル

リモコン操作やキーレスゴー操作でトランクを解錠できないときは、エマージェンシーキー（▷281 ページ）で解錠します。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキーをトランクのキーシリンダー①に差し込みます。

このとき、キーの凸部②を車体側に向けて差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠位置④にまわします。

▶ ハンドル⑤を引いてトランクを開きます。

▶ エマージェンシーキーを④の位置から③の位置に戻します。

▶ キーシリンダー①からエマージェンシーキーを抜きます。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。また、トランクの周りに障害物がなく、人や物に当たるおそれがないことを確認してください。

! エマージェンシーキーで解錠した後に、エマージェンシーキーをキーシリンダーから抜いてトランクを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

i エマージェンシーキーでトランクを解錠しても、ドアと燃料給油フラップは解錠されません。

パーキングロックの解除

① セレクターレバーのカバー
② ロック解除ノブ

セレクターレバーを P から動かせないときは、以下の方法で動かすことができます。

この作業はできるだけメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

パーキングロックを解除する

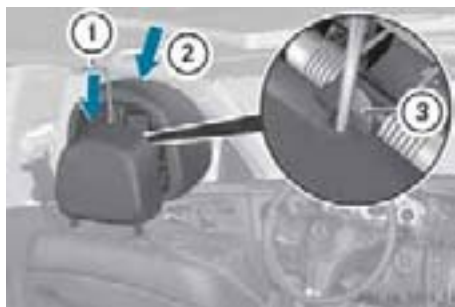
▶ ブレーキペダルを確実に踏みます。

▶ セレクターレバーのカバー①の右端部または左端部を内側につまみながら、カバーを上方にめくります。

▶ 内部のロック解除ノブ②を指で押しながら、セレクターレバーを P から動かします。

! セレクターレバーを動かすことができたときでも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! セレクターレバーの開口部には金属などが露出していますので、けがをしないように十分注意してください。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット

① リセットツール
② ヘッドレストを押す方向
③ ガイド

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

このリセット作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

▶ ガイド③に合わせて、車載のリセットツール①を差し込みます。

▶ ロックする音が聞こえるまで、リセットツールを押し込みます。

▶ リセットツールを抜き、ヘッドレストを②の方向に強く押し戻して確実にロックさせます。

▶ もう一方の前席ヘッドレストでも同様の作業を行ないます。

! 安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、NECK PRO アクティブヘッドレストの点検を受けてください。

キーの電池交換

リモコンの作動可能範囲が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 中毒のおそれがあります

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環　境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

使用済みの電池は、新しい電池をお買い求めになった販売店に処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

キーの電池を点検する

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

キーの表示灯が一回点滅すれば電池は正常です。

ⓘ キーの電池が消耗したときは、エマージェンシーキーで解錠 / 施錠できます（▷282 ページ）。

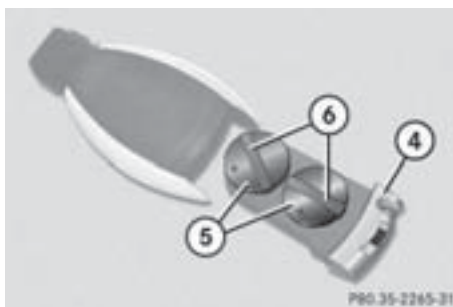
電池の交換手順

リチウム電池（CR2025 3V）を 2 個用意します。

① ストッパー
② エマージェンシーキー

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから引き抜きます。

② エマージェンシーキー
③ 凹部
④ 電池ケース

▶ エマージェンシーキー ② を凹部 ③ にかけて矢印の方向に引きながら、電池ケース ④ を引き抜きます。

④ 電池ケース
⑤ 電池
⑥ 電極板

▶ 電池 ⑤ を横にスライドさせて取り出します。

▶ 2 個とも "+" が上になるようにして、新しい電池を電極板 ⑥ の間に取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。

ℹ 電池の表面に汚れや脂分が付着していないことを確認してください。

▶ 電池ケース ④ を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。

▶ リモコンのすべての機能が作動することを確認します。

ℹ 電池を交換するときは、2 個同時に交換してください。

※ キーの形状および電池の交換手順は、予告なく変更されることがあります。

電球の交換

ランプ類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのランプ類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したランプがすぐに切れた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

電球の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

! マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは (▷262 ページ)をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

 けがのおそれがあります

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球には圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球を交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

 けがのおそれがあります

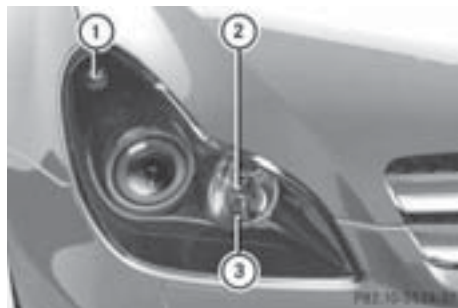
エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、バイキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。

バイキセノンヘッドランプの交換は行なわないでください。交換は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! LED やキセノンヘッドランプはユニット交換になるため、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換作業を行なってください。

ⓘ リアフォグランプは右側のみです。

お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

ヘッドランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	フロント方向指示灯	21W（黄色）
②	ヘッドランプ上向き	55W（H7）
③	車幅灯 / フロントパーキングランプ	5W

ライセンスランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	ライセンスランプ	5W

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ワイパーブレードの交換

⚠ **事故のおそれがあります**

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回は交換してください。

けがのおそれがあります

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーブレードのゴム部分に触れないようにしてください。

ワイパーブレードを取り外す

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチを ━ の位置にして、ワイパーを作動させます。

▶ ワイパーが作動している途中で、イグニッション位置を **0** にして、ワイパーを途中で停止させます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーを抜きます。

① ワイパーアーム
② ワイパーブレード

▶ ワイパーアーム ① をいっぱいまで起こします。

! ワイパーアームを起こすときにボンネットと接触するときは、ワイパーを停止する位置が不適切です。ボンネットを損傷するおそれがありますので、再度ワイパーを作動させ、適切な位置でワイパーを停止させてください。

▶ ワイパーブレード ② を図の位置にまわします。

▶ ワイパーブレード ② を矢印の方向に動かし、ワイパーアーム ① の固定部から取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレードを、取り外したときとは反対の方向にワイパーアームの固定部に差し込みます。

▶ ワイパーブレードをワイパーアームと平行の位置にします。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

パンクしたとき

⚠ 事故のおそれがあります

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

! 車速感応ドアロック（▷67 ページ）を設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! タイヤ交換やタイヤ修理をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

ℹ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが、法律で義務付けられています。

タイヤ交換およびタイヤ修理の準備

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーを **P** に入れます。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 車から降ります。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

応急用スペアタイヤへの交換

応急用スペアタイヤが車載されている車種は、パンクしたタイヤを応急用スペアタイヤに交換します。

⚠ 事故のおそれがあります

- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。
- 応急用スペアタイヤの使用は短い時間にとどめてください。また、必ず 80km/h 以下で走行し、ESP の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

⚠ **事故のおそれがあります**

応急用スペアタイヤは、できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場で標準タイヤに交換してください。

! 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

タイヤ交換の準備

▶ 輪止め、ジャッキ、ホイールレンチ、ガイドボルト、応急用スペアタイヤを準備します（▷252 ページ）。

CLS 63 AMG は、電動エアポンプも準備します。

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

ℹ 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪の下り側に輪止めをします。

① ホイールレンチ

▶ ホイールレンチ①で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

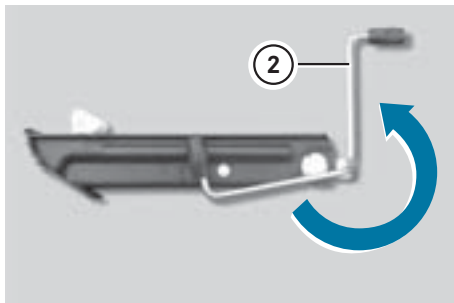
この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

! ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

ジャッキアップする

 けがのおそれがあります

- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。
- ジャッキは、かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。また、ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやトランクを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキに不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- 傾斜のきつい斜面ではジャッキアップしないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。
- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

② ジャッキハンドル

▶ ジャッキハンドル②を矢印の方向に起こしてから、時計回りにまわします。

ジャッキアームが上がります。

③ ジャッキサポート
④ ジャッキアーム
⑤ ジャッキ

▶ ジャッキ⑤のジャッキアーム④の先端をジャッキサポート③の位置に合わせます。

ℹ ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所に設けられています。

 けがのおそれがあります

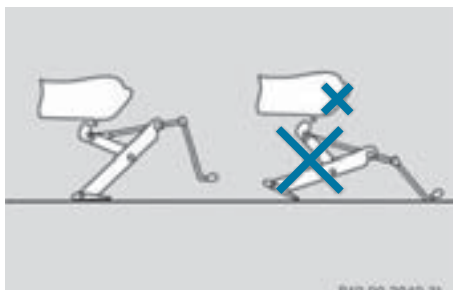
ジャッキサポート以外の場所にはジャッキを使用しないでください。ジャッキが外れてけがをしたり、車両を損傷するおそれがあります。

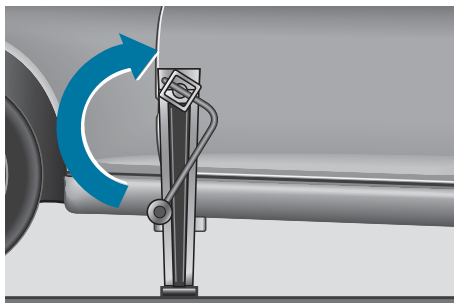
ジャッキは交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートで使用してください。また、ジャッキを使用する前に、ジャッキサポートに異物や汚れがないことを確認してください。

⚠ けがのおそれがあります

ジャッキアームがジャッキサポートに正しく取り付けられていることを確認してください。ジャッキが外れると、けがをしたり、車を損傷するおそれがあります。

! 側面から見て、ジャッキが垂直になるように取り付けてください。

! ジャッキの底面が、確実に路面に接地するように取り付けてください。

（左）正しい取り付けかた
（右）誤った取り付けかた

▶ ジャッキの底面が、確実に路面に接していることを確認します。

▶ ジャッキハンドルを矢印方向にまわし、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から約 3cm 以内にしてください。

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

⑥ ガイドボルト

▶ そのネジ穴に、車載工具のガイドボルト⑥をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

! ホイールやホイールボルトを外したときは、以下の点に注意してください。

- ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤを取り付ける

⚠ **事故のおそれがあります**

ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

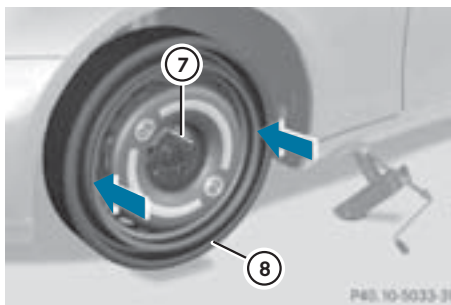
⚠ **事故のおそれがあります**

ホイールハブのネジ穴が損傷しているときは、走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

応急用スペアタイヤの取り付けには、標準タイヤのホイールボルトを使用します。異なるホイールボルトを使用するとホイールを十分に固定することができず、走行中にホイールが外れるおそれがあります。

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

⑦ ガイドボルト
⑧ 応急用スペアタイヤ

▶ ガイドボルト ⑦ に合わせて応急用スペアタイヤ ⑧ を取り付けます。

▶ 4 本のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5 本目のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

応急用スペアタイヤに空気を入れる（CLS 63 AMG）

CLS 63 AMG の応急用スペアタイヤは、電動エアポンプで空気を入れて使用します。

仕様により車載されている電動エアポンプが異なります。

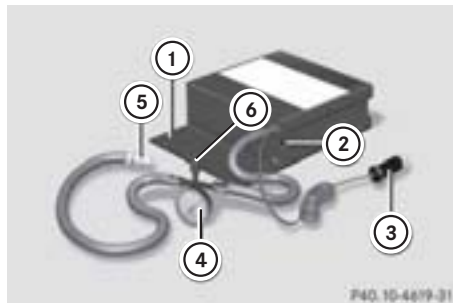
⚠ **事故のおそれがあります**

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- 必ずジャッキダウンする前に応急用スペアタイヤに空気を入れてください。応急用スペアタイヤのリムを損傷するおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに貼付されている取扱方法も参考にしてください。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

空気圧ゲージ別体型

① フラップ
② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑥ 空気圧調整バルブ

▶ フラップ①を開いて電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

▶ 空気圧調整バルブ⑥が閉じていることを確認します。

空気圧ゲージ一体型

② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑦ 空気圧調整ボタン

- ▶ 電動エアポンプの裏面から電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。
- ▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを外します。
- ▶ 電動エアポンプのエアホース⑤を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。
- ▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を **O**（オフの位置）にします。
- ▶ イグニッション位置を **0** にします。
- ▶ 電源プラグ③を、12V 電源ソケット（▷209 ページ）またはライター（▷208 ページ）を抜き取ったソケットに差し込みます。
- ▶ イグニッション位置を **1** にします。
- ▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を **I**（オンの位置）にします。

  電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。
- ▶ 指定の空気圧に達したら電動エアポンプの電源スイッチ②を **O**（オフの位置）にします。

  指定の空気圧を超えたときは、空気圧調整バルブ⑥をゆるめるか、空気圧調整ボタン⑦を押して空気を抜いて調整します。
- ▶ 12V 電源ソケットまたはライターソケットから電源プラグ③を抜き、応急用スペアタイヤのバルブからエアホースを取り外します。
- ▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り付けます。

! 応急用スペアタイヤを取り付ける前に、応急用スペアタイヤに空気を入れないでください。

! 電動エアポンプを作動させているときはエンジンを始動しないでください。

! 電動エアポンプやエアホースは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋をして作業してください。

! 電動エアポンプを作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。

ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載しています。

! 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

ジャッキダウンする

- ▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。
- ▶ ジャッキを外します。

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は、13 kg-m（130Nm）です。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> ホイールを交換した後は、ただちにホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

  また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ 外したタイヤは車載の収納カバーに入れて、トランクルーム内に収納します。

タイヤフィットでの修理

タイヤフィットが車載されている車種は、タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理します。

パンクしたタイヤをタイヤフィットで修理すると、一時的に走行することができます。

タイヤフィットは外気温度が約－ 20℃以上のときに使用できます。

応急用スペアタイヤが車載されている場合は、パンクしたタイヤを応急用スペアタイヤに交換します。詳しくは（▷290 ページ）をご覧ください。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ず標準タイヤに交換してください。

⚠ 事故のおそれがあります

以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。

- タイヤの傷が約 4mm 以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合
- タイヤの接地面以外に傷がある場合
- ホイールに損傷がある場合
- タイヤの空気圧が非常に低い状態や空気が完全に抜けた状態で走行した場合

このようなときは、絶対に走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! タイヤを修理するときは、エンジンを始動しないでください。

! 異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤの空気圧でタイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

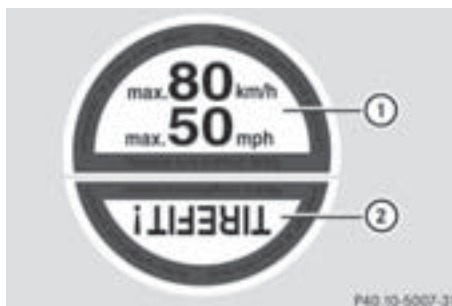
! タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。

! タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。

! タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。

タイヤフィットの準備

▶ タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギやネジなどは取り除かないでください。

▶ トランクフロアボードの下からタイヤフィット、電動エアポンプを準備します。

① 最高速度表示のステッカー
② タイヤフィット使用表示のステッカー

▶ タイヤフィットに付属している最高速度表示のステッカー①をはがし、運転者の見やすい場所に貼付します。

▶ 修理するタイヤのバルブ付近にタイヤフィット使用表示のステッカー②を貼付します。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> タイヤフィットは、身体や衣服に付着しないように注意してください。
>
> - 眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
> - 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
> - アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
>
> タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。
>
> - 万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませてください。
> - タイヤフィットを吐かせないでください。ただちに医師の診断を受けてください。
> - タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。乾燥すればフィルム状になり、剥がすことができます。

もし、衣類にタイヤフィットが付着した場合は、すみやかに洗濯してください。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 使用上の注意を記載したステッカーが、電動エアポンプに貼付してあります。使用する前に内容を確認してください。

車種や仕様により、車載されている電動エアポンプが異なります。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ別体型）

① タイヤフィット
② フラップ
③ 凹部
④ 電源スイッチ
⑤ 電源プラグ
⑥ エアホース
⑦ バルブ

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプのフラップ②を開きます。

▶ 電源プラグ⑤とエアホース⑥を取り出します。

▶ エアホース⑥をタイヤフィット①のバルブ⑦に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑦を下にして持ち、電動エアポンプの凹部③に差し込みます。

⑧ タイヤフィットのホース
⑨ タイヤのバルブ

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑨からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑨に確実に取り付けます。

⑩ 空気圧調整バルブ
⑪ 空気圧ゲージ

▶ 空気圧調整バルブ⑩が閉じていることを確認します。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ⑤をライターソケット（▷208 ページ）または 12V 電源ソケット（▷209 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

❗ 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが収納されていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット①を取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑥をタイヤのバルブ⑨に確実に取り付けます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

⚠ **事故のおそれがあります**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず､メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグ⑤を抜きます。

▶ タイヤのバルブ⑨からタイヤフィットのホース⑧を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが収納されていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース⑥を修理したタイヤのバルブに取り付けて、空気圧ゲージ⑪でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ **事故のおそれがあります**

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達していない場合は、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えている場合は、空気圧ゲージ⑪の空気圧調整バルブ⑩を緩めて調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ 事故のおそれがあります

タイヤフィットでタイヤを修理したときに走行するときの最高速度は約 80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブを走行するときやブレーキを効かせるときは慎重に運転してください。

環　境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ一体型）

① タイヤフィット
② 凹部
③ 電源スイッチ
④ 電源プラグ
⑤ エアホース
⑥ バルブ

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ④とエアホース⑤を取り出します。

▶ エアホース⑤をタイヤフィット①のバルブ⑥に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑥を下にして持ち、電動エアポンプの凹部②に差し込みます。

⑦ タイヤのバルブ
⑧ タイヤフィットのホース

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑦からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑦に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ④をライターソケット（▷208 ページ）または 12V 電源ソケット（▷209 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが収納されていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット①を取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑤をタイヤのバルブ⑦に確実に取り付けます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

⚠ **事故のおそれがあります**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグ④を抜きます。

▶ タイヤのバルブ⑦からタイヤフィットのホース⑧を取り外します。

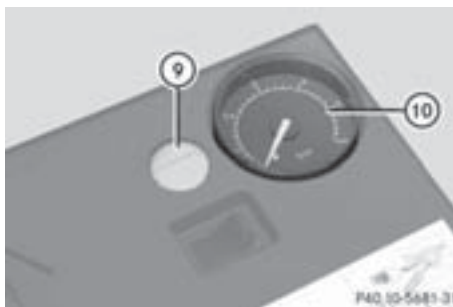
! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが収納されていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

⑨ 空気圧調整ボタン
⑩ 空気圧ゲージ

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース⑤を修理したタイヤのバルブに取り付けて、電動エアポンプの空気圧ゲージ⑩でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ **事故のおそれがあります**

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達していない場合は、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えている場合は、空気圧ゲージ⑩の横にある空気圧調整ボタン⑨を押して調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ **事故のおそれがあります**

タイヤフィットでタイヤを修理したときに走行するときの最高速度は約 80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環　境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

爆発の危険があります。

バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。

バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。

手袋やエプロン、マスクを着用してください。

バッテリー液が付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。

バッテリー液が付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

子供を近付けないでください。

取扱説明書の指示に従ってください。

けがのおそれがあります

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

i バッテリーの点検や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。少なくとも 2 年ごとまたは 20,000km ごとに点検・交換を行なってください。

i バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

環　境

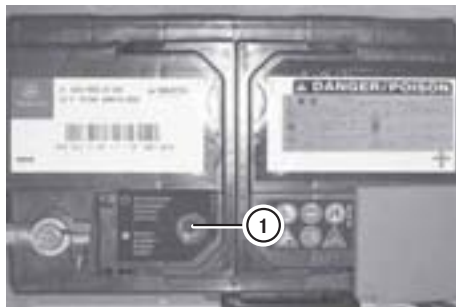
環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

バッテリーの位置

バッテリーは、トランクルーム内のフロアボードの下にあります。

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

インジケーター付きバッテリー

① インジケーター

ケースが黒色で、上面にインジケーター ① があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター ① は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

- エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。
- バッテリーが凍結しているときはエンジン始動を行なわないでください。
- 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ 爆発のおそれがあります

たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

! バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウは下降しません。

このときは無理にドアを閉じないでください。ドアウインドウやドア、シール部などを損傷するおそれがあります。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 急速充電器によるエンジン始動は行なわないでください。

! エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源として始動しないでください。

! ブースターケーブルは、ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。

! ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

i バッテリーが凍結しているときは、火気を近付けずにバッテリー全体を暖め（50℃以下）、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

i バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- スライディングルーフ * のリセット
- 施錠時のドアミラー格納機能のリセット
- COMAND システムの再設定

i 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

始動の方法

▶ 自車と救援車が接触していないことを確認してください。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

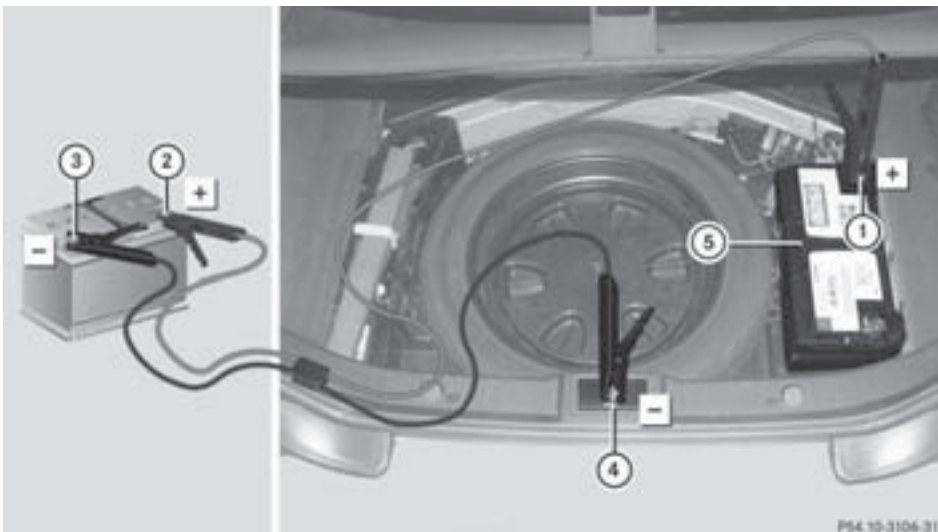
▶ セレクターレバーを **P** に入れてください。

▶ 救援車のエンジンを停止して、両車の電気装備をすべて停止します（イグニッション位置を **0** にします）。

▶ トランクを開きます。

▶ トランクフロアボードを開きます（▷250 ページ）。

CLS 350 / CLS 550 は、ラゲッジトレイを取り外します（▷252 ページ）。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

CLS 350 / CLS 550
①自車の⊕端子
②救援車の⊕端子
③救援車の⊖端子
④アースポイント
⑤自車のバッテリー

▶ 自車のバッテリーの⊕端子 ① のカバーを取り外します。

▶ 自車のバッテリーの⊕端子 ① に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリーの⊕端子 ② に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリーの⊖端子 ③ に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車のアースポイント ④ に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ 自車のアースポイント ④ から黒色ブースターケーブルを外したあと、救援車の⊖端子 ③ から黒色ブースターケーブルを外します。

▶ 自車の⊕端子 ① から赤色ブースターケーブルを外したあと、救援車の⊕端子 ② から赤色ブースターケーブルを外します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

※ 車種や仕様により、バッテリー ⑤ の上にはカバーがあります。

けん引

けん引時の注意

⚠ 事故のおそれがあります

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。
- ホールド機能が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。けん引で車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。

! けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! けん引されるときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車を損傷するおそれがあります。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、車両運搬車を利用するか、リアをつり上げてけん引してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンを始動できないときは、他車のバッテリーを電源とした始動を試みてください。

! 他車のバッテリーを電源とした始動ができないときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場までけん引してください。

! オートマチックトランスミッションを損傷しているときは、専門業者に作業を依頼し、プロペラシャフトを外してからけん引を行なってください。

! けん引されるときは、以下の操作を行なってください。

- セレクターレバーを **N** に入れてください。
- けん引防止警報機能を解除してください（▷55 ページ）。
- 車速感応ドアロックを解除してください（▷145 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! けん引する距離が長くなるときは、必ずリアをつり上げてください。

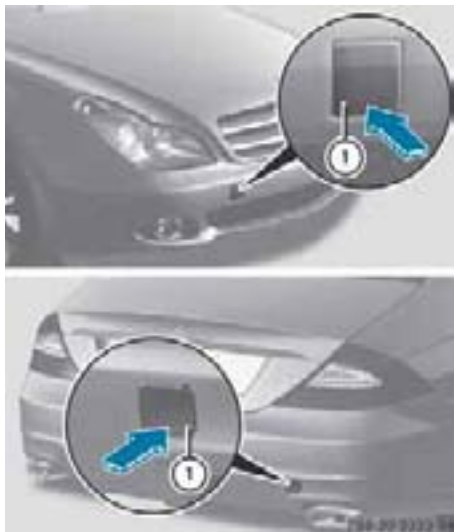
! フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずイグニッション位置を **0** にしてください。ESP が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! けん引される前に、バッテリーが接続されていて、電圧が低下していないことを確認してください。イグニッション位置を **2** にできないため、セレクターレバーを **P** から動かすことができなくなります。また、エンジンが停止していると、ブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

けん引フックの取り付け

けん引フックの取り付け位置

上：フロントの取り付け位置
下：リアの取り付け位置
① カバー

フロントの取り付け位置は、フロントバンパーの向かって左側にあります。

リアの取り付け位置は、リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ カバーのマーク部（矢印の部分）を押して、カバー①を外します。

※ 車種や仕様により、リアのカバーの形状とマーク部の位置は異なります。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（▷250 ページ）からけん引フックとホイールレンチを取り出します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

けん引する

▶ イグニッション位置を **2** にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを **N** に入れます。

! 距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。

! フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずイグニッション位置を **0** にしてください。ESP が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

けん引フックを取り外す

▶ 車載工具（▷250 ページ）からホイールレンチを取り出します。

▶ ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、反時計回りにまわします。

▶ けん引フックを取り外します。

▶ けん引フックのカバーを取り付けます。

▶ けん引フックとホイールレンチを車載工具に収納します。

車を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

▶ イグニッション位置を **2** にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを **N** に入れます。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションやメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

火災のおそれがあります

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! 以下のようなときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

! ヒューズボックスを開くときに、ドライバーなどの先のとがったものを使用してカバーを開かないでください。カバーやダッシュボードを損傷するおそれがあります。

ヒューズの位置

ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- 運転席側ダッシュボード側面
- トランクルーム内左側

運転席側ダッシュボード側面のヒューズボックス

左ハンドル車
① カバー
② 切り欠き部
③ ヘラなど

ヒューズボックスのカバーを取り外す

▶ 運転席ドアを開きます。

▶ 切り欠き部②にヘラなど③を差し込み、カバー①を開きます。

▶ カバー①を持ち、矢印の方向に引いて取り外します。

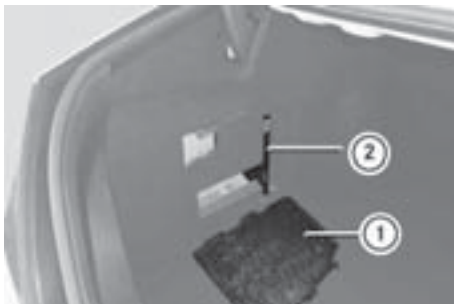
ヒューズブロック横にヒューズの配置表（英文）があります。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

▶ カバー①の前側をダッシュボードに差し込みます。

▶ カバー①を押し込んで固定します。

▶ 運転席ドアを閉じます。

トランクルーム内左側のヒューズボックス

① カバー
② ヒューズボックスカバー

ヒューズボックスのカバーを取り外す

▶ トランクを開きます。

▶ カバー①の上部のすき間にヘラなどを差し込み、カバーを開いて取り外します。

▶ 内部右側にある、ヒューズボックスカバー②を取り外します。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

▶ ヒューズボックスカバー②を取り付けます。

▶ カバー①凸部をトランク内張りの凹部に差し込んで固定します。

▶ トランクを閉じます。

ヒューズを交換する

▶ 停車します。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検して、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ヒューズ一覧

トランクルーム内左側のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
1	30A	シート調整（前席）
2	30A	シート調整（前席）
3	7.5A	アンテナモジュール、パークトロニック、タイヤ空気圧警告システム、テレビ
4	20A	燃料ポンプ
5	—	未使用
6	40A	ラジオ
7	—	未使用
8	7.5A	アンテナモジュール、盗難防止警報システム
9	25A	読書灯、自動防眩ルームミラー、センターコンソールランプ、ライト / レインセンサー、スライディングルーフ
10	40A	リアデフォッガー
11	20A	自動開閉トランクリッド
12	15A	12V 電源ソケット
13	15A	マルチコントロールシートバック
14	—	未使用
15	10A	燃料給油フラップ
16	20A	オプション
17	—	未使用
18	5A	テールランプ
19	—	未使用
20	7.5A	ブレーキランプ、電動ブラインド（リアウインドウ）

運転席側ダッシュボード側面のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
21	30A	アンビエントランプ、セントラルロッキングシステム、パワーウインドウ（後席）、乗降用ランプ、ドア赤色灯
22	30A	アンビエントランプ、セントラルロッキングシステム、パワーウインドウ（前席）、乗降用ランプ、ドア赤色灯、ドアミラー
23	30A	シート調整（前席）
24	25A	キーレスゴー
25	—	未使用
26	7.5A	メディアインターフェース
27	—	未使用
28	25A	ラジオ
29	7.5A	ステアリングロック、ステアリング調整
30	7.5A	診断ソケット
31	5A	セントラルロッキングシステム、非常点滅灯、シートヒーター（前席）、電動ブラインド（リアウインドウ）
32	30A	アンビエントランプ、セントラルロッキングシステム、パワーウインドウ（後席）、乗降用ランプ、ドア赤色灯
33	30A	アンビエントランプ、セントラルロッキングシステム、パワーウインドウ（前席）、乗降用ランプ、ドア赤色灯、ドアミラー
34	30A	シート調整（前席）
35	—	未使用
36	25A	シートヒーター（前席）
37	15A	AIR マティック DC サスペンション、車高調整
38	7.5A	NECK PRO アクティブヘッドレスト

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
39	5A	AIR マティック DC サスペンション、パークトロニック
40	—	未使用
41	5A	AIR マティック DC サスペンション、アンビエントランプ、セントラルロッキングシステム、エンジンエレクトロニクス、非常点滅灯、パークトロニック、パワーウインドウ（前席・後席）、読書灯、シート調整（前席）、シートヒーター（前席）、ステアリング調整、自動防眩ルームミラー、センターコンソールランプ、乗降用ランプ、ドア赤色灯、ドアミラー、ステアリングロック、車高調整、ライト / レインセンサー、電動ブラインド（リアウインドウ）、スライディングルーフ
42	7.5A	エンジンエレクトロニクス

(A 211 545 10 00 2007-05-16)

ℹ 仕様 / 装備などの違いにより、装備されているヒューズが異なることがあります。

ℹ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー

ダイムラー社では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、ダイムラー社またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 事故のおそれがあります

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

! ウインドウに透明な吸盤を貼付しないでください。透明な吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- エアバッグ収納部
- シートベルト
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- ドア
- シート
- センターピラーのフロアパネル付近

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

環　境

ダイムラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ℹ 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

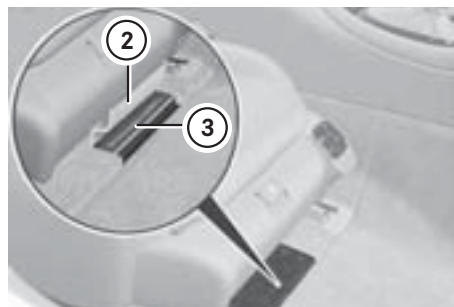
ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号やエンジン番号などが必要になることがあります。車台番号やエンジン番号などは図の場所に記されています。

ニューカープレート

① ニューカープレート

運転席側または助手席側のセンターピラー下部に、車台番号およびカラーコードなどを記載したニューカープレート ① が貼付されています。

車台番号

② カーペット
③ 車台番号

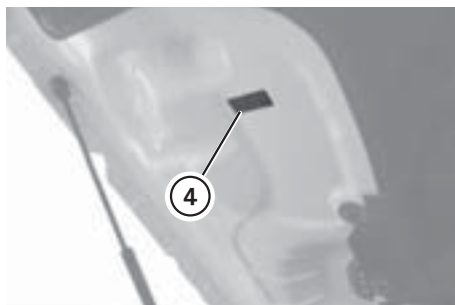
右側前席下部のフレームに車台番号 ③ が打刻されています。

車台番号を確認する

▶ 右側前席をもっとも後方の位置にして、シートクッション前端部を上げます。

▶ カーペット ② をめくり上げます。

車台番号 ③ が確認できます。

オプションコードプレート

④ オプションコードプレート

ボンネットの裏側にオプションコードを記載したオプションコードプレート ④ が貼付されています。

エンジン番号

エンジンブロック後方にエンジン番号が打刻されています。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ずダイムラー社またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ けがのおそれがあります

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環　境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

爆発のおそれがあります

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ けがのおそれがあります

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 80 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 9.0 ℓ （CLS 63 AMG は約 14.0 ℓ）

! 軽油を給油しないでください。また、軽油を混ぜたガソリンを給油しないでください。少量でも軽油を給油すると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。誤って軽油を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

! 燃料に添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

 環　境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

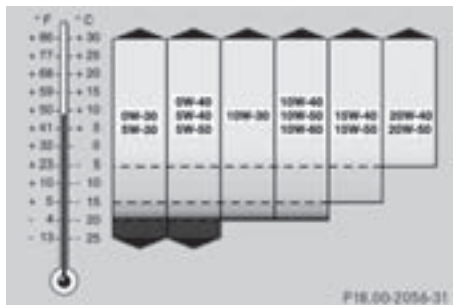
エンジンオイル容量

車種	容量
CLS 350	約 8.0 ℓ
CLS 550	約 8.5 ℓ
CLS 63 AMG	約 8.8 ℓ

i 容量は、オイルフィルター分を含む交換時の数値です。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

火災のおそれがあります

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

! 不凍液の濃度は約 50% から約 55% の間にしてください。濃度を約 55% 以上にすると、冷却性能が低下します。

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

事故のおそれがあります

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

i ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

⚠ **火災のおそれがあります**

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12V
容量	90Ah / 95Ah / 100Ah

※ 車種や仕様により、上記のいずれかの容量のバッテリーが装備されます。

車両データ

積載荷物の制限重量

車種	ルーフ	トランク
全車	100kg	100kg

i ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

トランクを開いたときの高さ

① トランクを開いたときの高さ

トランクをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

①	1766 ～ 1784 mm

※ 車種や仕様により、数値が異なります。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、車両操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷228 ページ）。

i タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ

! タイヤローテーションは行なわないでください。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
CLS 350	245 / 40R18	8.5J × 18	前輪 28mm 後輪 18mm
CLS 550	前輪 245 / 40R18 後輪 275 / 35R18	前輪 8.5J × 18 後輪 9.5J × 18	前輪 28mm 後輪 33mm
CLS 63 AMG	前輪 255 / 35R19 後輪 285 / 30R19	前輪 8.5J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 25mm または 30mm 後輪 28mm

! CLS 550 と CLS 63 AMG のタイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
18 インチホイール	前輪 245 / 40R18 後輪 275 / 35R18	前輪 8.5J × 18 後輪 9.5J × 18	前輪 25mm 後輪 28mm
19 インチホイール	前輪 255 / 35R19 後輪 285 / 30R19	前輪 8.5J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 25mm または 30mm 後輪 28mm

※ 車種や仕様により、選択できるオプション装着用タイヤ / ホイールは異なります。

! 上記のタイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。

応急用スペアタイヤ

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	空気圧
CLS 350 CLS 550	T 155 / 70R17	4.0B × 17	34mm	4.2bar / 60psi / 420kpa
CLS 63 AMG	175 / 55-18	6.0B × 18	25mm	3.5bar / 51psi
CLS 63 AMG パフォーマンスパッケージ	175 / 50-19	6.5B × 19	14mm	3.5bar / 51psi

ウィンタータイヤ

! CLS 63 AMG パフォーマンスパッケージの後輪に、タイヤサイズ 275 / 30R19 M＋S のウィンタータイヤを装着したときは、スノーチェーンを装着しないでください。

i ウィンタータイヤのサイズはダイムラー社が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

i スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着することができます。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
CLS 350 CLS 550	245 / 40R18 M＋S	8.5J × 18	前輪 28mm 後輪 18mm
CLS 63 AMG	245 / 40R18 M＋S	8.5J × 18	25mm
CLS 63 AMG パフォーマンスパッケージ	245 / 35R19 M＋S	8.5J × 19	25mm
	前輪 245 / 35R19 M＋S 後輪 275 / 30R19 M＋S	前輪 8.5J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 25mm 後輪 28mm

対象モデル

CLS 350
CLS 550
CLS 63 AMG

"ESP®" はダイムラー社の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2009 年 9 月現在のものです。

総輸入元
メルセデス・ベンツ日本株式会社
〒106-8506 東京都港区六本木一丁目９番９号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 32120-090900350 L
6515 1449 20 ÄJ2009/1b, 09/09